

第Ⅱ部

東北圏の魅力 発信

テーマ選定にあたり

少子高齢化・人口減少が他地域よりも先行して加速する東北圏においては、他地域からの移住・定住者の増加を図ることは、今後の東北圏を考える上で極めて重要な課題である。殊に、若者を中心に首都圏への人口流入が進む現状をみると、この課題解決には一刻の猶予もないと認識している。

現在、全国各地が同様の施策を進めている中で、東北圏が他地域と比較してより優位な条件となるためには、地域の魅力を高め、それを移住希望者に伝えていくことが必要である。

内閣府によると、我が国は先進国の中でも幸福度が低いとされている。背景にはストレスや病の要因が考えられるものの、客観的な統計データによる幸福度の指標については一定の水準に達しているにもかかわらず、それが必ずしも十分に認識されていない面があり、結果的に主観的な幸福度が低い結果につながっているものと思われる。

そこで、今回の東北圏社会経済白書の第Ⅱ部では、東北圏の魅力を効果的に伝えるための前提条件として、既存の幸福度調査に着目し、OECDの「より良い暮らし指標」などをベースに、東北圏の幸福度の体系を設定し、東北圏の魅力を伝えるための客観的なデータを収集することとした。

データについては、当センターがかつて実施した調査を踏まえ、一般財団法人日本総合研究所の幸福度ランキング調査、民力（朝日新聞出版）、各県の県民意識調査等から、より適切な幸福度を示す客観的指標を既存の公的統計を活用しながら8分野・70項目に整理した。

さらに、東北圏と他の地域との比較を行い、東北圏の強みと課題も整理した。

一方、移住には生活者の意識などに代表される主観的要素も必要不可欠である。そのため生活者の意識・ニーズなどといったデータを把握するため、首都圏と東北圏を対象にインターネットを活用したアンケート調査を実施し、居住地域において何を重視しているのか、首都圏の住民の東北圏に対するイメージなどの整理を行った。

このように、本調査は客観的データと主観的なデータから東北圏の魅力と課題について整理を行い、交流人口の拡大や移住者を増加させるための戦略立案のための基礎となるデータを提示することを目的に行うものである。

なお、本テーマの実施に当たり、より専門的な見地からご意見を賜ることを目的とし、アドバイザリー会議に以下の2名の有識者に専門委員としてご参画頂いた。

専門委員からはそれぞれのご専門に基づく意見を頂戴し、アドバイザリー会議委員の意見とともに内容に反映させている。

〈2017年度版東北圏社会経済白書 専門委員（敬称略・50音順）〉

河村 和徳 東北大学大学院 情報科学研究科 准教授

佐藤 和志 前山形大学COC推進室 チーフ・コーディネーター

1 東北圏の特徴と指標の検討

(1) 既存の幸福度指標の概要	91
① OECD「Better Life Index (より良い暮らし指標)」について	92
② 内閣府	93
③ 東北活性化研究センター	93
④ 岩手県	94
⑤ 新潟市	94
⑥ 滝沢市	94
⑦ 都道府県ランキングの概要	95
⑧ 民力の概要	96
(2) 東北圏の強みと課題	97
(3) 地域間比較のための指標の設定	99
① 指標の分野	99
② 試算結果	109
③ 客観的指標から見える東北圏の魅力の特徴	112
④ 地域ブロック毎の偏差値ランキング	113
⑤ 地域ブロック毎の偏差値のレーダーチャート比較	115

2 地域の魅力、移住・定住に関するアンケート調査

(1) アンケート回答者の属性	128
① 東北圏のアンケート回答者の属性	128
② 首都圏のアンケート回答者の属性	129
(2) アンケート結果の首都圏・東北圏比較分析	130
① 居住背景の比較	130
② 居住地域に対する評価の比較	132
③ 重要度と満足度の比較	134
④ 移住に対する考えの比較	140
(3) 東北圏のイメージ(首都圏のみ)	152
① 東北圏のイメージ	152
② 東北圏への居住経験の有無別の東北圏のイメージ	153

(4) 東北圏への居住経験の有無別の首都圏居住者の傾向分析	155
① 首都圏への評価	155
② 首都圏への評価の理由	155
③ 重要度	157
④ 満足度	160
⑤ 移住に関する項目	160
(5) 東北居住者の東北圏への評価	161
① 東北圏への居住時期別でみた東北圏への評価	161
② 東北圏への居住期間別でみた東北圏への評価	162
(6) アンケートのまとめ	163
① 居住地域決定理由からみた居住者の特徴	163
② 居住地域への評価からみた東北圏の強み・弱み	163
③ 重要度・満足度・ニーズ度からみた東北圏の強み	163
④ 移住の条件からみた移住希望者の特徴	164
⑤ 移住の心配事からみた東北圏の可能性	164
⑥ 年代別の移住希望者の特徴	165
⑦ 東北圏のイメージ	165
⑧ 東北圏への居住経験有無別の首都圏への評価の理由からみた東北圏の強み・弱み	165
⑨ 東北圏への居住経験有無別の重要度からみた東北圏の強み	166

3 まとめにかえて

(1) 客観的指標とアンケート調査から見える東北圏の強みと課題	167
(2) 強みの再認識・磨き上げによる地域の魅力向上に向けて	169

アドバイザー会議委員によるコラム

首都圏にとっての東北地方の位置づけについて—ヒト・モノ・カネの関係において—	170
--	-----

第Ⅱ部 東北圏の魅力発信

1 東北圏の特徴と指標の検討

要旨

人口減少問題に対応していくためには、出生率の上昇や、転入人口の増加に取り組むことが考えられるが、そのためには地域の魅力を整理し、把握することが重要である。地域の魅力について検討を行うために、既存の幸福度調査に着目し、より良い暮らしの指標や暮らしの満足度等について調査し、整理を行う。

はじめに、地域の魅力を整理するために、OECDや国内の指標をまとめている幸福度ランキング、民力、当センターで過去に実施した調査、他県の幸福度調査等を参考に整理を行い、幸福度の指標の分野を「経済」、「環境」、「安心・安全」、「健康」、「教育」、「コミュニティ・関係性」、「ガバナンス」、「文化」の8分野に設定した。

指標については、既存の幸福度調査等から、47都道府県をより適切に比較しうる客観的指標を中心に収集し、経済、環境、安心・安全等の8分野について、以下のとおり中分類を設定した。「経済は所得と富、雇用と収入、地産地消等」。「環境は住宅、環境、インフラ」。「健康は身体の健康、心の健康、健康のための環境」。「教育は教育水準、教育問題、教育環境」。「コミュニティ・関係性は家族等のつながり、社会とのつながり」。「ガバナンスは投票率、社会的関与」。「文化はイベント・祭事、文化・教養、娯楽、国際」を設定し、合計70の指標を収集し採用した。

各指標を偏差値化し、地域間で比較、分析を行ったところ、東北圏の客観的データの特徴は、首都圏に対し一定の分野で優位性があり、またその他の地域に比し大きな遜色がない点があった。特に食や自然、住環境に強みがあり、部屋の広さ、家賃の安さ、通勤時間の短さは東北圏に優位性がある。

住環境にも関連するが、東北圏は治安が良く、刑法犯認知件数の少なさ、交通事故発生件数の少なさといった生活の安全性でも優位性がある。

しかしながら、東北圏には住環境や治安等の面で強みがあるにもかかわらず、総務省住民基本台帳人口移動報告によると、人口の転出超過数は47都道府県のうち、福島県が最も多い。東北7県では全ての県で転出超過を記録している。

人口が流出している理由の一つには、地域に課題があり、不満があるからと推察される。そこで、人々はどうのような事柄を重視し、何が地域の魅力につながっているかさらなる検討が必要であると考えられる。

人口減少問題に対応していくためには、出生率の上昇や、転入人口の増加に取り組むことが重要であるが、そのためには地域の現状を整理し、把握することが必要である。そこで、地域の現状と課題を把握するために、既存の幸福度調査に着目し、より良い暮らしや暮らしの満足度等について調査し整理を行う。

以下では、文献調査を行い、東北圏の強みと課題を整理した上で、様々な指標を収集し、あわせて、東北圏の特徴を把握するために他地域との比較を行った。

(1) 既存の幸福度指標の概要

既存の幸福度調査についてみると、幸福度指標については、OECDのより良い暮らし指標（Better Life Index:BLI）、国連の世界幸福度ランキング、内閣府の幸福度指標試案、岩手県の岩手の幸福に関する指標、一般財団法人日本総合研究所が公表している「全47都道府県幸福度ランキング2016年版」、朝日新聞出版が公表している「民力」等がある。

各機関での幸福度指標に関する調査内容は以下のとおりである。

図表1-1 国際機関、国、自治体の幸福度指標

主体属性	主体	表題	内容
国際機関	① OECD	より良い暮らし指標 (better life index:BLI)	11の分野からさらに22に分類された指標により、経済状況や生活の質を分析。総合的なランキングはないが、指標ごとの数値が公開されており各国比較が可能。
	② 国際連合	世界幸福度ランキング2017	主観的指標（アンケート）と7つの客観的指標の要因分解により国ごとのランク付けを行っている。
国	③ 内閣府	幸福度指標試案	3つの分野からさらに11に分類された110の指標を設定。各指標の集計は行われておらず、ランキングもない。
自治体	④ 岩手県	岩手の幸福に関する指標	主観的指標と4つの分野から12に分類された80の客観的指標を設定。主観的・客観的データは提示されているが、集計やランキングはない。
	⑤ 福井県他	ふるさと希望指数 (LHI: Local Hope Index)	5つの分野に該当する20の指標から構成される客観的データを設定。集計やランク付けは行われていない。
	⑥ 富山県	とやま幸福度関連指標	7つの分野に関連する190の指標を設定。主観的・客観的なデータは提示されているものの、集計やランク付けは行われていない。
	⑦ 京都府	京都指標	統計データと府民意識調査を基にした3つの分野に該当する44の指標により、時系列的比較を実施。指標ごとの集計やランク付けは行われていない。
	⑧ 三重県	「三重県民力ビジョン」幸福実感指標	3つの政策分野に関連する幸福実感指標を設定。客観的なデータの活用は検討されておらず、集計やランク付けも行われていない。
	⑨ 熊本県	県民総幸福量 (Aggregate Kumamoto Happiness:AKH)	4つの分野に該当する12の分類に関する満足度と重要度をアンケート調査し、総合指標としている。客観的データの活用、集計やランク付けは行われていない。
	⑩ 新潟市	市民の等身大ハッピネス (Net Personal Happiness :NPH)	5つの分野からさらに20に分類された30の指標を設定。集計やランク付けは行われていない。
	⑪ 荒川区	荒川区民幸福度 (Gross Arakawa Happiness: GAH)	5つの分野に該当しさらに6つに分類された45の指標を設定。指標に関連する主観的・客観的データは提示されているが、集計やランク付けは行われていない。
	⑫ 滝沢市	幸福と暮らしに関する指標	5つの分野に該当する35の指標を設定。集計やランク付けは行われていない。
	経済団体	⑬ 東北活性化研究センター	「幸福度の定量化に関する研究調査」
民間	⑭ (一財)日本総合研究所	幸福度ランキング	5つの分野に該当し10に分類された50の指標と5つの基本指標と5つの追加指標を基に、個別指標及び分野別、領域別、総合のランキングを発表している。
	⑮ 朝日新聞出版	民力	5つの分野に該当する計30の指標の集計やランク付けが行われている。

① OECD 「Better Life Index (より良い暮らし指標)」 について

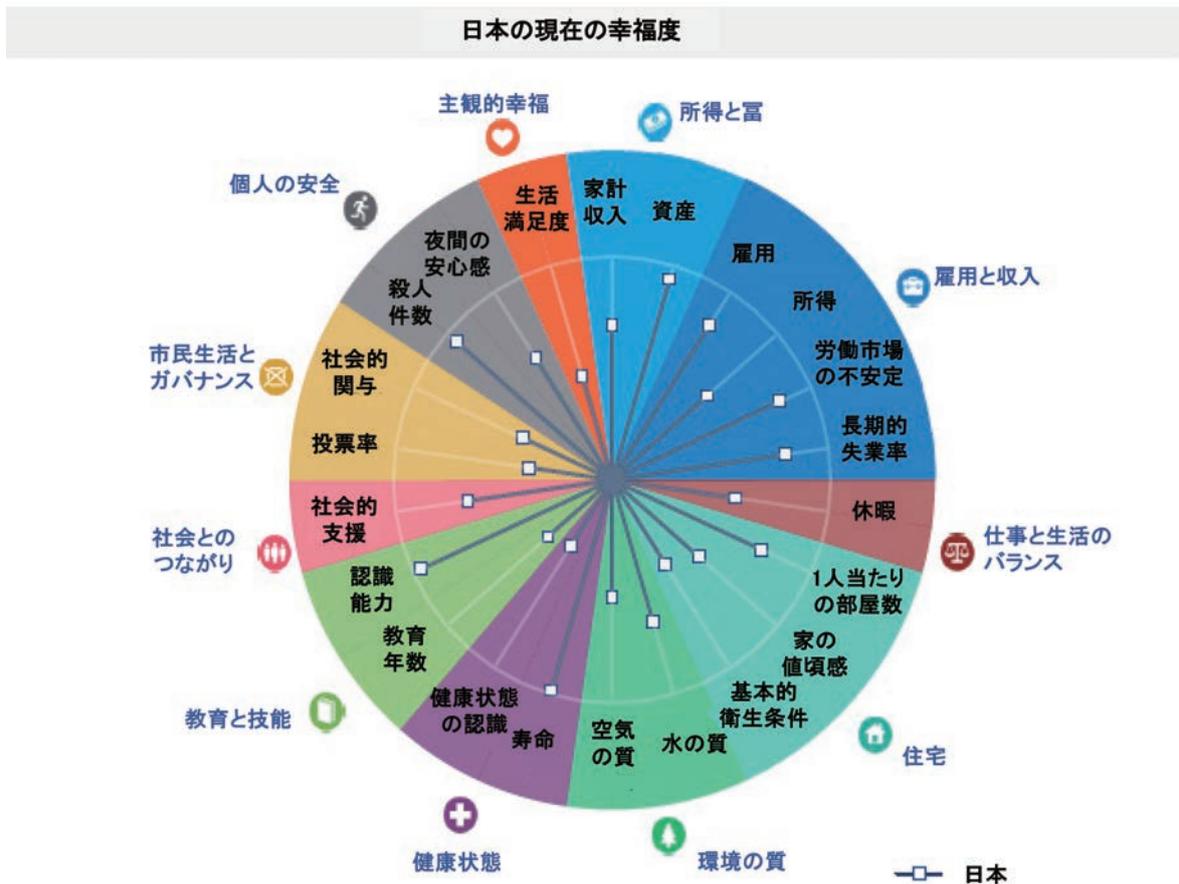
国際機関であるOECDについては、「Better Life Index(より良い暮らし指標)」を策定しており、住宅、所得、雇用等の11項目について、各国の幸福度を確認している。

日本の幸福度についてみると、資産、寿命では幸福度が高いが、投票率や生活満足度では低くなっている点が特徴である。

図表1-2 幸福を測る11の項目



図表1-3 日本の幸福度

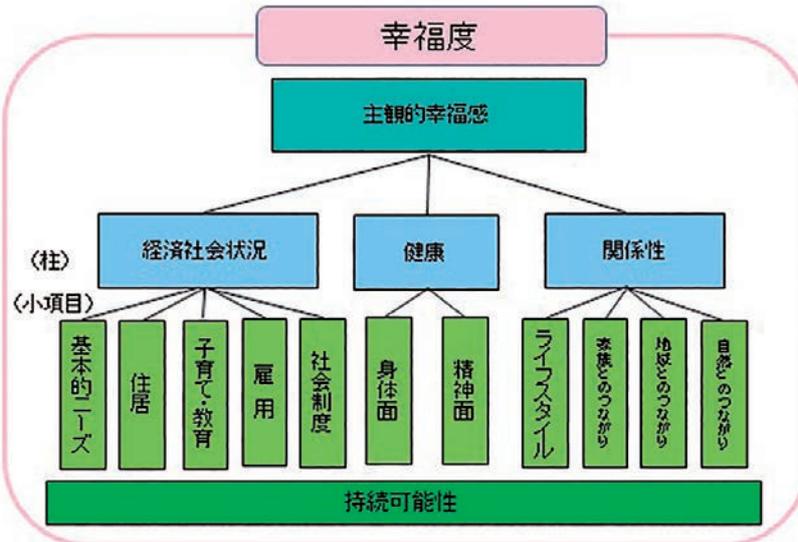


注：中心から伸びた線が長いほど、他国に比べて数値が高い
資料：OECD How's Life in Japan 日本の幸福度（2016年5月）（東北活性研で一部修正）

② 内閣府

内閣府では幸福度を経済社会状況、健康、関係性の3つの柱に分け、住居、子育て、雇用、身体面、精神面、ライフスタイル、地域とのつながり、自然とのつながりといった小項目で体系的に整理している。

図表1-4 内閣府の幸福度指標の体系図

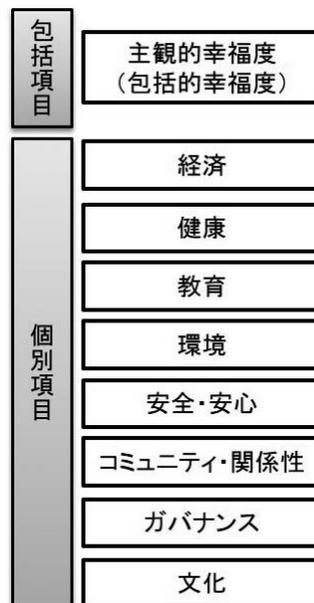


資料：幸福度に関する研究会報告－幸福度指標試案－（内閣府幸福度に関する研究会）
（2011年12月5日）

③ 東北活性化研究センター

当センターでは、幸福度の定量化に関する研究調査を実施し、経済、健康、教育、環境等を含む幸福度体系案を設定した。

図表1-5 幸福度体系案



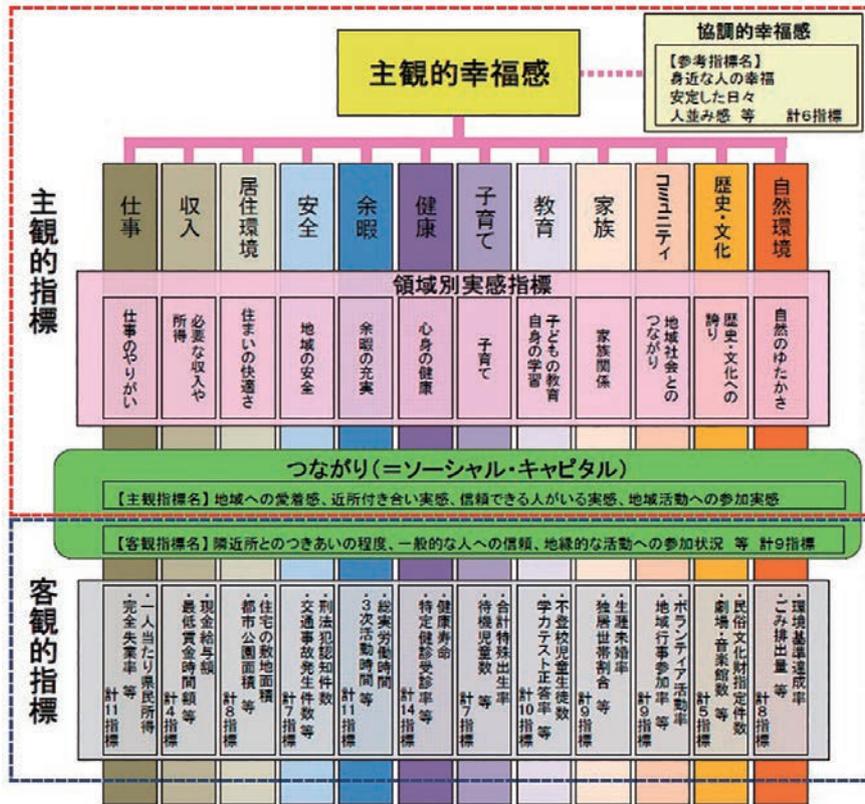
資料：幸福度の定量化に関する調査研究（公益財団法人東北活性化研究センター）
（2013年3月）

④ 岩手県

岩手県の「岩手の幸福に関する指標」の体系図は、主観的指標と客観的指標から構成され、県民の実感を反映し、施策にも活用できる指標として提示されている。

主観的指標・客観的指標ともに、「仕事」「収入」「居住環境」等に関連する12の領域に分類される。特徴として、協調的幸福感（人並み感）やつながり（ソーシャル・キャピタル）が幸福度と関連性があるとしている。

図表1-6 内閣府の幸福度指標の体系図



資料：「岩手の幸福に関する指標」研究会 報告書 2017年9月

⑤ 新潟市

新潟市では、市民の等身大ハッピネス（Net Personal Happiness:NPH）を公表しており、市民にとっての幸福について、生活者の視点から検討した「こどもたちが恵まれている」、「安心・安全、温かい家庭生活」、「やりがいのある仕事、経済的ゆとり」、「社会とのつながり、連帯、信頼」、「高齢者も恵まれている」の5つの評価軸を設定し、計30の要素に対応する具体指標を設定している。

⑥ 滝沢市

滝沢市では、「幸福と暮らしに関する指標」を公表している。滝沢市の指標では、各世代を「すこやか世代（0～5歳）」、「学び・成長世代（6～17歳）」、「自立世代（18～49歳）」、「子育て世代（18～49歳）」、「充実世代（50～64歳）」、「円熟世代（65歳以上）」とし、それぞれの世代に応じた指標を、幸福実感の場面である「喜び・楽しさ」、「成長・学び」、「生活環境」、「安全・安心」、「人とのふれあい」の5項目に分類して、設定している。

具体的には、「すこやか世代」の「喜び・楽しさ」の指標が、「子どもと一緒に過ごす時間」、「充実世代」の「安心・安全」の指標が、「老後の生活設計に不安がない人の割合」となっている等、各世代の各場面に対応した指標が提示されている。加えて全世代を通した指標も、各幸福実感の場面に応じて設定している。

⑦ 都道府県ランキングの概要

幸福度については、都道府県別でランキングしている調査に一般財団法人日本総合研究所が公表している「全47都道府県幸福度ランキング2016年版」がある。5つの「基本指標」、「健康分野」、「文化分野」、「仕事分野」、「生活分野」、「教育分野」と「追加指標」に分かれており、65指標が設けられている。

ランキングは各統計データを正規化して行っており、各指標のウエイトづけは行っていない。

図表1-7 幸福度ランキングの項目概要

項目	概要
基本指標	「人口増加率」や「食料自給率」等、その地域の基礎的な地域力や経済力、行政力を測る指標である。
健康分野	健康状態の把握や健康の維持・向上に関する指標であり、「医療・福祉」と「運動・体力」の領域が設けられている。
文化分野	文化や海外との触れ合う機会や時間に関する指標であり、「余暇・娯楽」と「国際」の領域が設けられている。
仕事分野	雇用状況や企業の地域経済発展に関する指標であり、「雇用」と「企業」の領域が設けられている。
生活分野	生活環境やインフラの充足度に関する指標であり、「個人(家族)」と「地域」の領域が設けられている。
教育分野	教育環境や生涯学習に関する指標であり、「学校」と「社会」の領域が設けられている。
追加指標	2013年に出版された『日本でいちばんいい県 都道府県幸福度ランキング』の基本指標(5指標)と分野別指標(50指標)に加えて設けられた指標のことを指す。 2014年と2016年でそれぞれ5指標ずつ追加されている。

資料：全47都道府県幸福度ランキング 2016年版（一般財団法人日本総合研究所）

図表1-8 幸福度ランキングの詳細項目

No	領域	分野	指標	No	領域	分野	指標		
1	基本指標		人口増加率	36	生活	個人(家族)	持ち家比率		
2			財政健全度	37			生活保護受給率		
3			一人あたり県民所得	38			待機児童率		
4			食料自給率(カロリーベース)	39			一人暮らし高齢者率		
5			選挙投票率(国政選挙)	40			インターネット人口普及率		
6	健康	医療・福祉	生活習慣病受療者数	41	地域	汚水処理人口普及率			
7				気分[感情]障害(うつ等)受療者数		42		道路整備率	
8				産科・産婦人科医師数		43		一般廃棄物リサイクル率	
9				ホームヘルパー数		44		エネルギー消費量	
10				高齢者ボランティア活動者比率		45		地縁団体数	
11			運動・体力	健康寿命	46	教育	学校	学力	
12				平均歩数	47				不登校児童生徒率
13				健康診査受診率	48				司書教諭発令率
14				体育・スポーツ施設数	49				大学進学率
15				スポーツの活動時間	50				教員一人あたり児童生徒数
16	文化	余暇・娯楽	教養・娯楽(サービス)支出額	51	社会	社会教育費			
17				余暇時間		52		社会教室学級・講座数	
18				常設映画館数		53		学童保育設置率	
19				書籍購入額		54		余裕教室活用率	
20				NPO認証数		55		悩みやストレスのある者の率	
21			国際	外国人宿泊者数	56	追加指標	2014年版	信用金庫貸出平均利回り	
22				姉妹都市提携数	57				平均寿命
23				語学教室にける金額	58				女性の労働力人口比率
24				海外渡航者率	59				自殺死亡者数
25				留学生数	60				子どもの運動能力
26	仕事	雇用	若者完全失業率	61	2016年版		合計特殊出生率		
27				正規雇用者比率			62		自主防災組織活動力パー率
28				高齢者有業率			63		刑法犯認知件数
29				インターンシップ実施率			64		農業の付加価値創出額
30				大卒者進路未定者率			65		勤労者世帯可処分所得
31			企業	障害者雇用率					
32				製造業労働生産性					
33				事業所新設率					
34				特許等出願件数					
35				本社機能流出・流入数					

資料：全47都道府県幸福度ランキング 2016年版（一般財団法人日本総合研究所）

⑧ 民力の概要

朝日新聞出版が公表している「民力」は、「基本指数」、「産業活動指数」、「消費指数」、「文化指数」、「暮らし指数」の5指数と全30の指標が設けられている。

「民力とは、生活・消費・文化・暮らしなどの分野にわたって国民が持っているエネルギー」としている。

中分類指数は、個別指標の指数の平均値で示されている。そのため、総合指数に係る各中分類指数のウェイトは同一である。また、各中分類指数の指標数は同一である。

図表1-9 民力の指標の概要

No	中分類指数	個別指標	No	中分類指数	個別指標
1	基本指数	人口	19	文化指数	教育費総額
2		世帯数	20		書籍雑誌年間小売販売額
3		民営総事業所数	21		新聞頒布数
4		県民所得	22		図書館数
5		国税徴収決定済額	23		ブロードバンドサービス契約数
6		地方税収入額	24		携帯電話契約数
7	産業活動指数	農業産出額	25	暮らし指数	コンビニエンスストア数
8		林業産出額	26		保育所数
9		水産業（漁獲総量+水産加工生産量）	27		公民館数
10		工場総数	28		都市公園面積
11		工業製品年間出荷額	29		病院数
12		就業者総数	30		刑法犯認知件数
13	消費指数	商店年間販売額			
14		電灯年間使用料			
15		預貯金残高総額			
16		公共機関からの受注工事額			
17		新設着工住宅数			
18		乗用車総保有台数			

資料：民力（朝日新聞出版）

OECDは、幸福度について所得と富、雇用と収入、仕事と生活のバランス、住宅、環境の質等11の分野で指標を設定している。当センターが実施した調査では、主観的幸福度に加えて経済、健康、教育、環境、安全・安心、コミュニティ・関係性、ガバナンス、文化の8分野で体系案を策定し、岩手県は仕事、収入、居住環境、安全等12分野で幸福度の体系図を設定している。

上記の文献調査から、当センターの体系案をベースにして、指標については8分野に分類し、検討していくこととする。

(2) 東北圏の強みと課題

東北圏の強みと課題の検討を行うために、既存の文献調査から整理を行う必要があるため、他地域と比較するために幸福度ランキング、民力のデータを整理した。当センターが過去に実施した東北圏のイメージ調査を整理し、東北圏の優位性や課題を以下のとおりまとめた。

一般財団法人日本総合研究所「幸福度ランキング」調査について見ると、指標全体は65個あり、このうち、東北圏が優れている指標は33個であった。

朝日新聞出版の「民力」については、指数全体は30個で、このうち、東北圏が優れている指数が17個であった。特徴としては、暮らし指数、文化指数が高く、暮らしやすさがうかがえる。

図表1-10 一般財団法人日本総合研究所「幸福度ランキング」調査からわかる東北圏の優位性

分野・分類		指標数	東北がTOP10以内に入っている数とその指標内容	
基本指標		5	2	「食料自給率」(宮城)「選挙投票率」(宮城)
健康	医療・福祉	5	4	「うつ等受療者数」(新潟、岩手)「産科・婦人科医師数」(山形、秋田)「ホームヘルパー数」(青森)「高齢者ボランティア活動比率」(岩手、宮城)
	運動・体力	5	3	「平均歩数」(福島)「健康診査受診率」(山形、新潟、宮城)「体育・スポーツ施設数」(新潟、秋田、福島)
文化	余暇・娯楽	5	4	「余暇時間」(新潟、秋田、福島、青森)「常設映画館数」(岩手)「書籍購入額」(岩手)「NPO認証数」(岩手、福島)
	国際	5	1	「留学生数」(宮城)
仕事	雇用	5	3	「正規雇用者数」(山形、新潟、秋田、福島)「大卒者進路未定者率」(秋田)「インターンシップ実施率」(新潟、秋田)
	企業	5	1	「事業所新設率」(宮城)
生活	個人(家族)	5	3	「持ち家比率」(山形、新潟、秋田)「待機児童率」(山形、新潟、青森)「一人暮らし高齢者率」(山形、新潟、福島)
	地域	5	2	「道路整備率」(山形、秋田、宮城)「地縁団体」(秋田)
教育	学校	5	3	「学力」(秋田、青森)「不登校児童率」(山形、秋田、岩手)「教員一人当たりの児童生徒数」(秋田、岩手、青森)
	社会	5	2	「社会教育費」(新潟、岩手、福島、青森)「余裕教室活用率」(秋田)
追加指標	2014年分	5	2	「信用金庫貸出平均利回り」(岩手)「子ども運動能力」(新潟、秋田、岩手)
	2016年分	5	4	「合計特殊出生率」(岩手)「刑法犯認知件数」(山形、秋田、岩手、青森)「農業の付加価値創出額」(山形、秋田、岩手、青森)「勤労者世帯可処分所得」(山形、福島)

資料：全47都道府県幸福度ランキング調査2016（一般財団法人日本総合研究所）より作成

図表1-11 朝日新聞出版「民力」からわかる東北圏の優位性

分野・分類	指数の数	東北が水準TOP10以内に入っている数とその指数の内容	
基本指数	6	2	「民営総事業所数」(山形、新潟)「地方税収入額」(宮城)
産業活動指数	6	3	「農業産出額」(青森、山形、岩手、秋田)「林業産出額」(新潟、岩手、秋田)「水産業(漁獲量+水産加工生産量)」(青森、岩手、宮城)
消費指数	6	4	「商店年間販売額」(宮城)「公共機関からの受注工事額」(岩手、福島、宮城)「新設着工住宅数」(福島)
文化指数	6	3	「教育費総額」(岩手、福島、新潟、秋田)「書籍雑誌年間小売販売額」(新潟)「図書館数」(秋田)
暮らし指数	6	5	「コンビニエンスストア数」(岩手、宮城)「保育園数」(青森、新潟)「公民館数」(山形、秋田)「都市公園面積」(秋田、山形、青森、宮城)「刑法犯認知件数」(秋田、岩手、山形、青森)

資料：民力2015（朝日新聞出版）より作成

一般財団法人日本総合研究所「幸福度ランキング」、朝日新聞出版「民力」からわかる東北圏に強みのある指標は投票率の高さ、食料自給率の高さ、正規雇用者率の高さ等がある。

過去に当センター（旧東北開発研究センター）が実施したアンケートによると、東北圏の強みは「自然が豊か」、「水がきれい」、「親しみやすい人柄」、「居住環境の良さ」、「祭りや伝統芸能」等があげられている。

図表1-12 東北開発研究センター（当時）が実施した東北圏のイメージ調査の概要

(財) 東北開発研究センター 「イメージ豊かな東北に向けて」 平成6年8月	(財) 東北開発研究センター 「東北の心でとらえた東北の豊かさについて」 平成11年11月
<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊かで、東北地方居住者以外からも評価されている。 ・雪が多く、寒冷である。 ・主要産業が農林業、漁業、観光レジャー産業、伝統産業。 ・東北は遠いと思う。 ・東北にあまり住みたくない。 ・東北への訪問意向は全国的に高い（自然景観、温泉、名所旧跡見物、祭り、行事見物）。 ・東北の今後の発展に肯定的。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊かで、水がきれいである ・親しみやすい人柄である。 ・居住や庭が広く住みやすい。 ・祭り、伝統行事、郷土芸能が盛んである。 ・雪が多く、寒冷である。 ・望まれるライフスタイル(物の豊かさより心の豊かさ)。 ・仕事よりゆとりを求めている人が多い。 ・都会的生活より自然的生活を求めている人が多い。 ・近隣関係を重視している人が多い。 ・東北は住みやすいが、20歳以上は東北以外の地域への移住希望がある。

図表1-13 東北圏の強みと課題

東北圏の強み	東北圏の課題
(客観データ) <ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率が高く、豊富な食材に恵まれている。 ・余暇時間が長い。 ・学力が高く、不登校児童生徒率が低いと、豊富な人材を多く輩出している。 ・持ち家比率や正規雇用者比率が高いため、安定した生活を送ることができる。 ・待機児童率がゼロの県が多いため、働く環境が整っている。 ・刑法犯認知件数が低いと、安全な生活を送ることができる。 ・一人暮らし高齢者率が低い。 	(客観データ) <ul style="list-style-type: none"> ・人口増加率が低いと、人口減少が今後も進んでいく。 ・一人あたりの県民所得が低い。 ・外国人宿泊者数が少なく、また海外渡航者率や留学生数が全国では下位に位置しているため、海外との交流機会が少ない。
(アンケート) <ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊かで、東北地方居住者以外からも評価されている。 ・東北への訪問意向は高い。 ・東北に住む人は人情味がある。 ・東北は住みやすい地域として認識されており、今後も定住することを希望している人が多い。 ・近隣関係を重視している人が多い。 ・東北の居住経験や訪問経験がある人（東北を知っている人）の居住意向は高い。 	(アンケート) <ul style="list-style-type: none"> ・東北について知らない人がいる。 ・寒さをネガティブに捉える人が多い。 ・東北への居住意向は東北から遠い地域に住む人ほど低くなり、また東北の居住経験や訪問経験がない人ほど低い。 ・東北在住の若者の中には、自然より都会の生活を望む人もいるため、東北以外への移住を希望している人が10%以上いる。 ・東北のイメージとして「多様な職場が不足している」、「所得が低い」と思われているため、仕事に対してネガティブなイメージを持たれている。

これまでの先行研究から明らかになった東北圏の強みと課題は以下の通りである。

東北圏の強みは、「食料自給率が高く」、「学力が高い」、「不登校児童生徒率が低い」点が挙げられる。また、「正規雇用比率が高く」、「待機児童ゼロの県が多く」、首都圏に比べて働く環境が整っているといえる。さらに、治安が良く、1人暮らしの高齢者率が低いと、「東北圏は安全でコミュニティやつながりのある社会が構築されている」点が強みであるといえる。

課題は1人当たり県民所得の低さ、外国人宿泊者数の低さ、海外渡航者率、留学生が少ない、海外との交流が少ない点が考えられる。

(3) 地域間比較のための指標の設定

以下では、OECD、内閣府、岩手県、当センター等の先行事例の幸福度調査から、一般的な幸福度の体系図を検討し、東北圏の幸福度の指標の分野を「経済」、「環境」、「安心・安全」、「健康」、「教育」、「コミュニティ・関係性」、「ガバナンス」、「文化」の8分野に設定した。8分野にかかる指標を収集し、先行研究を参考に70の指標を設定した。

① 指標の分野

指標の検討にあたり、OECDや、国内の指標をまとめている幸福度ランキング、民力、当センターが過去に実施した調査、他県の幸福度調査等を参考に整理を行い、幸福度の指標の分野を「経済」、「環境」、「安心・安全」、「健康」、「教育」、「コミュニティ・関係性」、「ガバナンス」、「文化」の8分野に設定した。

指標については、既存の幸福度調査から、47都道府県をより適切に比較しうる客観的指標を中心に収集し、経済、環境、安心・安全等の8分野について、以下のとおり中分類を設定した。「経済は所得と富、雇用と収入、地産地消等」。「環境は住宅、環境、インフラ」。「健康は身体健康、心の健康、健康のための環境」。「教育は教育水準、教育問題、教育環境」。「コミュニティ・関係性は家族等のつながり、社会とのつながり」。「ガバナンスは投票率、社会的関与」。「文化はイベント・祭事等」を設定し、70の指標を収集し、採用した。

図表1-14 指標分野の概要

大分類	中分類
①経済	所得と富、雇用と収入、仕事と家庭のバランス、地産地消等
②環境	住宅、環境、インフラ
③安心・安全	
④健康	身体健康、心の健康、健康のための環境
⑤教育	教育水準、教育問題、教育環境
⑥コミュニティ・関係性	家族等のつながり、社会とのつながり
⑦ガバナンス	投票率、社会的関与
⑧文化	イベント・祭事、文化・教養、娯楽、国際

8分野の指標の概要は以下のとおりである。

経済

所得と富

- ・ 1人当り賃金：OECD日本の幸福度（家計収入）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 消費支出の低さ（生活コストの安さ）：生活コストの安さを測るために、消費支出を独自採用した。
- ・ 1世帯当り貯蓄残高：OECD日本の幸福度（資産）、朝日新聞出版民力（預貯金残高総額）を参考に代理変数として選択した。

雇用と収入

- ・ 有業率：OECD日本の幸福度（雇用）、幸福度ランキング（高齢者有業率）を参考に、代理変数として選択した。
- ・ 正規雇用者比率：幸福度ランキング（正規雇用者比率）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 完全失業率の低さ：OECD日本の幸福度（長期的失業率）を参考に代理変数として選択した。

仕事と家庭のバランス

- ・ 1人平均実労働時間労働時間：荒川区幸福度指標（労働時間）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 余暇時間：OECD日本の幸福度（休暇）、日本総研幸福度ランキング（余暇時間）を参考に代理変数として選択した。

地産地消等

- ・ 農業産出額（人口10万人当り）：朝日新聞出版民力（農業産出額）、日本総研幸福度ランキング（農業の付加価値創出額）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 漁業産出額（人口10万人当り）：朝日新聞出版民力（農業産出額）、日本総研幸福度ランキング（農業の付加価値創出額）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 食料自給率：日本総研幸福度ランキング（食料自給率）を参考に代理変数として選択した。

環境

住宅

- ・ 1人当り畳数：OECD日本の幸福度（1人当り部屋数）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 持家比率：日本総研幸福度ランキング（持家比率）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 1ヵ月当り家賃：OECD日本の幸福度（家の値ごろ感）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 通勤時間の短さ：利便性を測るために独自採用した。

環境

- ・ 空気の質：OECD日本の幸福度（空気の質）を参考に空気の質を代理変数として選択した。
- ・ ばい煙発生施設数の少なさ：内閣府幸福度指標（大気の質）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 粉じん発生施設数の少なさ：内閣府幸福度指標（大気の質）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 再生利用可能エネルギー自給率：岩手県幸福度指標（再生利用可能エネルギー自給率）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 公害苦情件数（人口10万人当りの低さ）：公害について環境の良さを測るために独自採用した。

インフラ

- ・ ブロードバンドアクセス比率：インターネット利用率（岩手県ふるさと振興総合戦略2016年12月改訂）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 汚水処理人口比率：日本総研幸福度ランキング（汚水処理人口比率）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 道路整備率：日本総研幸福度ランキング（道路整備率）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 1人当り都市公園面積：朝日新聞出版民力（都市公園面積）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 自然公園面積割合（人口10万人当り）：富山県幸福度指標（自然公園面積割合）を参考に代理変数として選択した。

安心・安全

- ・ 刑法犯認知件数の少なさ（人口1,000人当り）：富山県幸福度指標（刑法犯認知件数）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 交通事故発生件数の少なさ（人口10万人当り）：富山県幸福度指標（交通事故発生件数）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 自主防災・自主防災組織活動カバー率：富山県幸福度指標（自主防災組織の組織率）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 出火率（人口1万人当りの低さ）：富山県幸福度指標（出火率）を参考に代理変数として選択した。

- ・交通事故死傷者数の少なさ（人口）：京都府幸福度指標（交通事故死傷者数）を参考に代理変数として選択した。

健康

身体健康

- ・平均寿命：OECD日本の幸福度（寿命）を参考に代理変数として選択した。
- ・健康寿命：日本総研幸福度ランキング（健康寿命）を参考に代理変数として選択した。

心の健康

- ・自殺死亡率（人口10万人当り）の低さ：日本総研幸福度ランキング（自殺死亡者数）を参考に代理変数として選択した。
- ・気分障害受療者数（人口10万人当り）の少なさ：日本総研幸福度ランキング（気分障害受療者数）を参考に代理変数として選択した。

健康のための環境

- ・社会体育施設数（人口100万人当り）：日本総研幸福度ランキング（体育・スポーツ施設数）を参考に代理変数として選択した。
- ・医療施設数（人口10万人当り）：朝日新聞出版民力（病院数）を参考に代理変数として選択した。
- ・医師数（人口10万人当り）：富山県幸福度指標（医師数）を参考に代理変数として選択した。
- ・看護職員数（人口10万当り）：富山県幸福度指標（看護職員数）を参考に代理変数として選択した。

教育

教育水準

- ・学力：日本総研幸福度ランキング（学力）を参考に代理変数として選択した。
- ・大学進学率：日本総研幸福度ランキング（大学進学率）を参考に代理変数として選択した。

教育問題

- ・いじめ認知件数（人口1,000人当り）の少なさ：富山県幸福度指標（いじめ認知件数）を参考に代理変数として選択した。
- ・不登校児童生徒率の低さ：日本総研幸福度ランキング（不登校児童生徒率）を参考に代理変数として選択した。

教育環境

- ・保育所待機児童数の少なさ：富山県幸福度指標（保育所入所待機児童数）を参考に代理変数として選択した。
- ・学童保育設置率：日本総研幸福度ランキング（学童保育設置率）を参考に代理変数として選択した。
- ・教員1人当り児童生徒数の少なさ：日本総研幸福度ランキング（教員1人当り児童生徒数）を参考に代理変数として選択した。

コミュニティ・関係性

家族等のつながり

- ・未婚率の低さ：富山県幸福度指標（未婚率）を参考に代理変数として選択した。
- ・離婚率（1,000人当り）の低さ：当センター指標（離婚率）を参考に代理変数として選択した。
- ・1人暮らし高齢者世帯比率の低さ：日本総研幸福度ランキング（1人暮らし高齢者世帯比率）を参考に代理変数として選択した。
- ・3世代同居率の高さ：岩手県幸福度指標（3世代同居率）を参考に代理変数として選択した。

社会とのつながり

- ・ NPO法人認証数（人口10万人当り）：日本総研幸福度ランキング（NPO認証数）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 1農業集落当り寄合の開催回数：社会とのつながりを測るために独自採用した。

ガバナンス

投票率

- ・ 投票率 統一地方選挙 県議選：OECD日本の幸福度（投票率）、日本総研幸福度ランキング（選挙投票率）を参考に代理変数として選択した。

社会的関与

- ・ 生活行動種類別行動者率（ボランティア活動）：OECD日本の幸福度（社会的関与）を参考に代理変数として選択した。

文化

イベント数・祭事

- ・ イベント・祭りの数（人口10万人当り）：総合戦略等を参考に代理変数として選択した。
- ・ イベントの参加者数（人口10万人当り）：総合戦略等を参考に代理変数として選択した。

文化教養

- ・ 公民館数（人口100万人当り）：朝日新聞出版民力（公民館数）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 博物館数（人口100万人当り）：富山県幸福度指標（博物館数）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 美術館（人口100万人当り）：文化・教養を測るために独自採用した。
- ・ 図書館（人口100万人当り）：朝日新聞出版民力（図書館）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 1世帯当り新聞発行（配布）部数：富山県幸福度指標（1世帯当り新聞発行部数）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 芸術文化活動行動者率：文化・教養を測るために独自採用した。

娯楽

- ・ 映画館（人口100万人当り）：日本総研幸福度ランキング（常設映画館数）を参考に代理変数として選択した。
- ・ テーマパーク等（人口100万人当り）：娯楽を測るために独自採用した。
- ・ 教養・娯楽（サービス）支出額（1世帯1ヵ月当り）：日本総研幸福度ランキング（教養・娯楽（サービス）支出額）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 書籍雑誌購入額（1世帯1ヵ月当り）：日本総研幸福度ランキング（書籍購入額）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 文化財件数（1,000平方キロメートル当り）：岩手県幸福度指標（民俗文化財指定件数）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 温泉施設（人口100万人当り）：岩手県幸福度指標（温泉地数）を参考に代理変数として選択した。

国際

- ・ 外国人宿泊者数（人口1,000人当り）：日本総研幸福度ランキング（外国人宿泊者数）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 留学生数（人口10万人当り）：日本総研幸福度ランキング（留学生数）を参考に代理変数として選択した。
- ・ 出国率：日本総研幸福度ランキング（海外渡航者率）を参考に代理変数として選択した。

図表1-15 指標

	分野	指標
1	経済	(所得と富) 1人当たり賃金、消費支出の低さ、1世帯当り貯蓄残高 (雇用と収入) 有業率、正規雇用者比率、完全失業率の低さ (仕事と家庭のバランス) 1人平均実労働時間、余暇時間 (地産地消等) 漁業産出額・農業産出額、食料自給率
2	環境（住宅、環境、インフラ）	(住宅) 1人当たり畳数、持ち家比率、1ヵ月当り家賃、通勤時間の短さ (環境) 空気の質、ばい煙発生施設数・粉じん発生施設数の少なさ、再生可能エネルギー自給率、公害苦情件数の低さ (インフラ) ブロードバンドアクセス比率、汚水処理人口比率、道路整備率、1人当り都市公園面積、自然公園面積
3	安心・安全	刑法犯認知件数の少なさ、交通事故発生件数の少なさ、自主防災組織活動カバー率、出火率の低さ、交通事故死傷者数の少なさ
4	健康（医療・福祉）	(身体の健康) 平均寿命、健康寿命 (心の健康) 自殺死亡率の低さ、気分障害受療者数の少なさ (健康のための環境) 社会体育施設数、医療施設数・医師数・看護職員数
5	教育	(教育水準) 学力、大学進学率 (教育問題) いじめ認知件数の少なさ、不登校児童生徒率の低さ (教育環境) 保育所待機児童数の少なさ、学童保育設置率、教員1人当り児童生徒数の少なさ
6	コミュニティ・関係性	(家族等のつながり) 未婚率の低さ、離婚率の低さ、1人暮らし高齢者世帯比率の低さ、3世代同居率の高さ (社会とのつながり) NPO法人認証数、1農業集落当り寄合の開催回数
7	ガバナンス	(投票率) 選挙投票率（統一地方選挙県議選） (社会的関与) 生活行動種類別行動者率（ボランティア活動）
8	文化	(イベント・祭事) 祭、イベントの数・参加者数 (文化・教養) 公民館数・博物館数、美術館・図書館、1世帯当り新聞発行（配布）部数、芸術文化行動者率 (娯楽) 映画館数、テーマパーク等、教養・娯楽（サービス）支出額、書籍購入額、文化財件数、温泉施設数 (国際) 外国人宿泊者数、留学生数、出国率

指標の根拠及び定義の詳細は以下のとおりである。

図表1-16 指標の定義等

1. 経済	指標	根拠 (OECD、幸福度ランキング、他県の幸福度指標)	参考指標 (東北の総合戦略等)	定義	出所
所得と富	収入	・ 1人当り賃金	・ OECD日本の幸福度 (家計収入)	・ 賃金 (決まって支給する現金給与額)	・ 賃金構造基本統計調査 (厚労省)
		・ 消費支出の低さ	・ 生活費の安さを測るために独自採用		・ 全国消費実態調査 (総務省)
	資産	・ 1世帯当り貯蓄残高	・ OECD日本の幸福度 (資産) ・ 朝日新聞出版民力 (預貯金残高総額)		・ 全国消費実態調査 (総務省)
雇用と収入	雇用	・ 有業率	・ OECD日本の幸福度 (雇用) ・ 日本総研幸福度ランキング (高齢者有業率)	・ 有業率 (秋田県が乗り越えるべき指標2016年10月) (※) 有業者とは収入を得ることを目的として仕事をしており、調査日以降もしていくことになっている者と、仕事は持っているが現在は休んでいる者のこと	・ 就業構造基本調査 (総務省)
		・ 正規雇用者比率	・ 日本総研幸福度ランキング (正規雇用者比率)	・ 正規雇用者数 (宮城県地方創生総合戦略2015年10月)	・ 正規雇用者比率とは、雇用者総数に対する正規の職員・従業員数の比率
	労働市場の不安定	・ 完全失業率の低さ	・ OECD日本の幸福度 (長期的失業率)	・ 完全失業率とは、完全失業者÷労働力人口 (※) 完全失業者とは、①仕事がなく調査期間中に少しも仕事をしなかった、②仕事があればすぐに就くことができる、③調査期間中に求職活動をしていたという3条件を満たすもの。 労働力人口とは就業者と完全失業者の合計	・ 労働力調査 (総務省)
仕事と家庭のバランス	仕事	・ 平均実労働時間	・ 荒川区幸福度指標 (労働時間)	・ 総実労働時間/人口 (※) 総実労働時間は所定内と所定外 (残業等) で構成される	・ 賃金構造基本統計調査 (厚労省)
	家庭	・ 余暇時間	・ OECD日本の幸福度 (休暇) ・ 日本総研幸福度ランキング (余暇時間)	・ 余暇時間とは、1日当りの休養・くつろぎに費やす平均時間	・ 社会生活基本調査 (総務省)
地産地消等	・ 漁業産出額 (人口10万人当り)	・ 朝日新聞出版民力 (農業産出額)	・ 漁業生産額 (施策ごとの目標の状況等 宮城の将来ビジョンの検証2007～2016)		・ 漁業産出額 (農水省)
	・ 農業産出額 (人口10万人当り)	・ 日本総研幸福度ランキング (農業の付加価値創出額)	・ 農業産出額 (施策ごとの目標の状況等 宮城の将来ビジョンの検証2007～2016)		・ 農業生産所得統計 (農水省)
	・ 食料自給率	・ 日本総研幸福度ランキング (食料自給率)			・ 食料需給表 (農水省)

2. 環境	指標	根拠 (OECD、幸福度ランキング、他県の幸福度指標)	参考指標 (東北の総合戦略等)	定義	出所
住宅	・ 1人当り畳数	・ OECD日本の幸福度（1人当り部屋数）		・ 畳数÷人畳を敷いていない居住室も3.3㎡を2畳の割合で畳数に換算	・ 住宅・土地統計調査（総務省）
	家の価値の感	・ 持ち家比率	・ 日本総研幸福度ランキング（持家比率）	・ 持家に住む世帯/住宅に住む一般世帯	・ 国勢調査（総務省）
		・ 1ヵ月当り家賃	・ OECD日本の幸福度（家の価値の感）		
	利便性	・ 通勤時間の短さ	・ 利便性を測るために独自採用	・ 自宅から勤務先までの通常の通勤所要時間	・ 住宅・土地統計調査（総務省）
環境	・ 空気の質	・ OECD日本の幸福度（空気の質）	・ 大気中の二酸化窒素等環境基準達成率（岩手県ふるさと振興総合戦略2016年12月）	・ 大気汚染（PM2.5）への曝露量（人口加重平均）	・ OECD
	・ ばい煙発生施設数の少なさ ・ 粉じん発生施設数の少なさ	・ 内閣府幸福度指標（大気の質）		・ ばい煙施設、粉じん施設は大気汚染防止法対象施設数	・ 環境統計集2017（環境省）
	・ 再生可能エネルギー自給率	・ 岩手県幸福度指標（再生利用可能エネルギー自給率）	・ 再生可能エネルギー等の導入量（施策ごとの目標の状況等 宮城の将来ビジョンの検証2007～2016） ・ 再生可能エネルギーによる電力自給率（岩手県ふるさと振興総合戦略2016年12月）	・ 都道府県別新エネルギー等発電実績/都道府県別需要実績	・ 電力調査統計2016（資源エネルギー庁）
	・ 公害苦情件数（人口10万人当り）の低さ	・ 公害について環境の良さを測るために独自採用			・ 2015公害苦情調査（総務省）
インフラ	・ ブロードバンドアクセス比率		・ インターネット利用率（岩手県ふるさと振興総合戦略2015年10月）	・ FTTHアクセスサービスの都道府県別契約数/世帯数	・ 総務省
	・ 汚水処理人口比率	・ 日本総研幸福度ランキング（汚水処理人口比率）		・ 総人口に対する汚水処理人口の比率	・ 都道府県別汚水処理人口普及状況（国交省、農水省、環境省）
	・ 道路整備率	・ 日本総研幸福度ランキング（道路整備率）		・ 道路整備率とは、実延長に対する改良区間（幅員5.5m以上の改良済み区間）のうち混雑度1.0未満の延長の割合。混雑度とは交通量を交通容量で除したものの	・ 道路統計年報（国交省）
	・ 1人当り都市公園面積	・ 朝日新聞出版民力（都市公園面積）		・ 都市公園面積/都市計画区域内人口 (※) 都市公園面積とは、都市計画区域内で自治体又は国が設置した公園面積	・ 都市公園等整備現況調査（国交省）
	・ 自然公園面積（人口10万人当り）	・ 富山県幸福度指標（自然公園面積割合）		・ 自然公園面積とは、国立公園、国定公園、都道府県立自然公園から構成される	・ 環境省

3. 安全・安心	指標	根拠 (OECD、幸福度ランキング、他県の幸福度指標)	参考指標 (東北の総合戦略等)	定義	出所
	・ 刑法犯認知件数(人口1,000人当り)の少なさ	・ OECD日本の幸福度(殺人件数) ・ 富山県幸福度指標(刑法犯認知件数)	・ 刑法犯認知件数(施策ごとの目標の状況等 宮城の将来ビジョンの検証2007～2016)	・ 刑法犯認知件数/人口総数	・ 犯罪統計書(警察庁刑事局)
	・ 交通事故発生件数(人口10万人当り)の少なさ	・ 富山県幸福度指標(交通事故発生件数)		・ 交通事故発生件数/人口総数	・ 交通統計(警察庁交通局)
	・ 交通事故死傷者数(人口10万人当り)の少なさ	・ 京都府幸福度指標(交通事故死傷者数)	・ 交通事故死傷者数(やまがた創生総合戦略2015年10月)	・ 交通事故死傷者数/人口総数	・ 交通統計(警察庁交通局)
	・ 自主防災組織活動カバー率	・ 富山県幸福度指標(自主防災組織の組織率) ・ 京都府幸福度指標(自主防災組織の活動カバー率)	・ 自主防災組織の組織率(宮城県地方創生総合戦略2015年10月)	・ 自主防災組織活動カバー率は、管内世帯数(A)に対する自主防災組織がその活動範囲としている地域の世帯数(B)である(自主防災組織活動カバー率=B/A)	・ 消防白書(消防庁)
	・ 出火率(人口1万人当り)の低さ	・ 富山県幸福度指標(出火率) ・ 総合戦略等を参考に独自採用		・ 出火件数/人口総数	・ 火災年報(消防庁)

4. 健康	指標	根拠 (OECD、幸福度ランキング、他県の幸福度指標)	参考指標 (東北の総合戦略等)	定義	出所
身体 の健康	・ 平均寿命	・ OECD日本の幸福度(寿命)	・ 平均寿命(まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略2015年8月)	・ 0歳における平均余命を平均寿命という	・ 都道府県別生命表(厚労省)
	・ 健康寿命	・ 日本総研幸福度ランキング(健康寿命)		・ 日常生活に制限のない期間の平均	・ 厚生労働科学研究健康寿命のページ
心 の健康	・ 自殺死亡率(人口10万人当り)の低さ	・ 日本総研幸福度ランキング(自殺死亡者数)	・ 自殺死亡率(施策ごとの目標の状況等 宮城の将来ビジョンの検証2007～2016)		・ 自殺統計(警察庁) ・ 国勢調査(総務省) ・ 人口動態統計(厚労省)
	・ 気分障害受療者数(人口10万人当り)の少なさ	・ 日本総研幸福度ランキング(気分障害受療者数)			・ 患者調査(厚労省)
健康 のため の環境	・ 社会体育施設数(人口100万人当り)	・ 日本総研幸福度ランキング(体育・スポーツ施設数)		・ 社会体育施設とは、一般の利用に供する目的で地方公共団体、独立行政法人が設置した体育館、水泳プール、運動場等のスポーツ施設	・ 社会教育調査(文科省)
	・ 医療施設数(人口10万人当り)	・ 朝日新聞出版民力(病院数)			・ 医療施設調査(厚労省)
	・ 医師数(人口10万人当り)	・ 富山県幸福度指標(医師数)	・ 人口10万人当りの医師数(やまがた創生総合戦略2015年10月)		・ 医師・歯科医師・薬剤師調査(厚労省)
	・ 看護職員数(人口10万人当り)	・ 富山県幸福度指標(看護職員数)	・ 人口10万人当りの就業看護職員数(新潟県「夢おこし」政策プラン指標編2013年6月)		・ 衛生行政報告例(厚労省)

5.教育	指標	根拠 (OECD、幸福度ランキング、他県の幸福度指標)	参考指標 (東北の総合戦略等)	定義	出所
教育水準	・学力	・日本総研幸福度ランキング(学力)	・全国学力・学習状況調査結果(小学校算数)(福島県総合計画)	・公立小・中学校の平均正答数の合計点	・全国学力・学習状況調査(文科省)
	・大学進学率	・日本総研幸福度ランキング(大学進学率)		・高等学校卒業者総数に対する大学・短期大学等への進学者数の比率	・学校基本調査(文科省)
教育問題	・いじめ認知件数(人口1,000人当り)の少なさ	・富山県幸福度指標(いじめ認知件数)			・児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)
	・不登校児童生徒率の低さ	・日本総研幸福度ランキング(不登校児童生徒率)		・国公立小・中学校の生徒数に対する不登校児童・生徒数の比率	・学校基本調査(文科省)
教育環境	・保育所待機児童数の少なさ	・富山県幸福度指標(保育所入所待機児童数)	・保育所入所待機児童数(やまがた創生総合戦略2015年10月)	・公立小学校総数に対する学童保育数の比率	・保育所入所待機児童数調査(厚労省)
	・学童保育設置率	・日本総研幸福度ランキング(学童保育設置率)			・学童保育の実施状況調査結果(全国学童保育連絡協議会)
	・教員1人当り児童生徒数の少なさ	・日本総研幸福度ランキング(教員1人当り児童生徒数)		・国公立小・中・高等学校の教員(本務者)1人当りの児童・生徒数	・学校基本調査(文科省)

6.関係性	指標	根拠 (OECD、幸福度ランキング、他県の幸福度指標)	参考指標 (東北の総合戦略等)	定義	出所
家族等のつながり	・未婚率の低さ	・富山県幸福度指標(未婚率)		・年代別未婚率は、当該年代層の人口全体に占める未婚者の割合	・国勢調査(総務省)
	・離婚率(1,000人当り)の低さ	・東北活性化研究センター(離婚率)		・離婚件数/人口総数	・国勢調査(総務省)
	・1人暮らし高齢者世帯比率の低さ	・日本総研幸福度ランキング(1人暮らし高齢者世帯比率)		・65歳以上の1人のみの一般世帯の割合	・国勢調査(総務省)
	・3世代同居率の高さ	・岩手県幸福度指標(3世代同居率) ・富山県幸福度指標(3世代同居世帯率)			・国勢調査(総務省)
社会とのつながり	・NPO法人認証数(人口10万人当り)	・日本総研幸福度ランキング(NPO認証数)	・NPOの認証数(幸福度ランキング) ・NPO法人認証件数(福島県総合計画)	・人口10万人当りの学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動を行うNPO認証数	・NPOホームページ(内閣府)
	・1農業集落当り寄合の開催回数	・社会とのつながりを測るために独自採用		・過去1年間に開催された寄り合いの回数	・世界農林業センサス(農水省)

5.ビジネス	指標	根拠 (OECD、幸福度ランキング、他県の幸福度指標)	参考指標 (東北の総合戦略等)	定義	出所
投票率	・投票率(統一地方選挙・県議選)	・OECD日本の幸福度(投票率) ・日本総研幸福度ランキング(選挙投票率)			・地方選挙結果調(総務省)
社会的関与	・生活行動種類別行動者率(ボランティア活動)	・OECD日本の幸福度(社会的関与)	・ボランティア活動者数(新潟県「夢おこし」政策プラン指標編2013年6月)	・10歳以上のボランティア活動行動者数/10歳以上の人口×100	・社会生活基本調査(総務省)

8.文化	指標	根拠 (OECD、幸福度ランキング、他県の幸福度指標)	参考指標 (東北の総合戦略等)	定義	出所
イベント・祭事	・祭り、イベントの数(人口10万人当り) ・祭り、イベントの参加者数(人口10万人当り)	・総合戦略等を参考に独自採用	・1年間に文化施設、まつり・イベント等を訪れる人の数(新潟県「夢おこし」政策プラン指標編2013年6月) ・大規模スポーツイベントの観戦者数(新潟県「夢おこし」政策プラン指標編2013年6月) ・イベント等への参加件数(岩手県ふるさと振興総合戦略2016年12月)		・共通基準による観光入込客統計(観光庁)
	・公民館数(人口100万人当り)	・朝日新聞出版民力(公民館数)			・社会教育調査(文科省)
	・博物館数(人口100万人当り)	・富山県幸福度指標(博物館数)			・社会教育調査(文科省)
	・美術館(人口100万人当り)	・文化・教養を測るために独自採用			・社会教育調査(文科省)
	・図書館(人口100万人当り)	・朝日新聞出版民力(図書館数)			
	・1世帯当り新聞発行(配布)部数	・とやま幸福度関連指標、京都府幸福度指標(1世帯当り新聞発行部数)			・新聞配布部数(日本新聞協会)
文化・教養	・芸術文化活動行動者率	・文化・教養を測るために独自採用		・10歳以上の芸術文化活動行動者数/10歳以上の人口×100	・社会生活基本調査(総務省)
	・映画館(人口100万人当り)	・日本総研幸福度ランキング(常設映画館数)		・興行場のうちの映画館	・衛生行政報告例(厚労省)
	・テーマパーク等(人口100万人当り)	・娯楽を測るために独自採用		・全国の主要なレジャー施設	・レジャーランド&レクパーク総覧2017
	・教養・娯楽(サービス)支出額(1世帯1カ月当り)	・日本総研幸福度ランキング(教養・娯楽(サービス)支出額)		・1世帯当りの教養娯楽に係る支出のうち、教養娯楽(サービス)に係る支出	・全国消費実態調査(総務省)
	・書籍購入額(1世帯1カ月当り)	・日本総研幸福度ランキング(書籍購入額)		・1人当りの書籍の購入額	・全国消費実態調査(総務省)
	・文化財件数(1,000平方メートル当り)	・岩手県幸福度指標(民俗文化財指定件数)	・日本遺産の認定(やまがた創生総合戦略2015年10月) ・世界遺産が所在する市町数(岩手県ふるさと振興総合戦略2016年12月) ・万世大路及び十三峠への来訪者数(やまがた創生総合戦略2015年10月)	・有形文化財、無形文化財等	・都道府県別指定等文化財件数(文化庁)
娯楽	・温泉施設(人口100万人当り)	・岩手県幸福度指標(温泉地数)		・宿泊施設のある温泉地数	・温泉利用状況(環境省)
	・外国人宿泊者数(人口1,000人当り)	・日本総研幸福度ランキング(外国人宿泊者数)			・宿泊旅行統計(観光庁)
	・留学生数(人口10万人当り)	・日本総研幸福度ランキング(留学生数)	・県内外国人留学生(新潟県「夢おこし」政策プラン指標編2013年6月)		・外国人留学生在籍調査結果(独立行政法人日本学生支援機構)
	・出国率	・日本総研幸福度ランキング(海外渡航者率)	・出国者数(新潟県「夢おこし」政策プラン指標編2013年6月)	・出国率とは、出国者数/人口	・出入国管理統計(法務省)
	・外国人宿泊者数(人口1,000人当り)	・日本総研幸福度ランキング(外国人宿泊者数)			・宿泊旅行統計(観光庁)
	・留学生数(人口10万人当り)	・日本総研幸福度ランキング(留学生数)	・県内外国人留学生(新潟県「夢おこし」政策プラン指標編2013年6月)		・外国人留学生在籍調査結果(独立行政法人日本学生支援機構)
国際	・出国率	・日本総研幸福度ランキング(海外渡航者率)	・出国者数(新潟県「夢おこし」政策プラン指標編2013年6月)	・出国率とは、出国者数/人口	・出入国管理統計(法務省)

② 試算結果

指標を収集・設定し、東北圏と他地域とを比較し、東北圏の優位性及び課題について把握するため、各指標を県別で偏差値化し比較検討を行った。偏差値化は以下の計算式に基づき試算した。偏差値化にあたっては、数字が大きい方が上位にランキングされるもの（例：書籍購入額）、数字が低い方が上位にランキングされるもの（例：通勤時間の長さ）については異なる計算式で試算を行った。

偏差値については、県別で偏差値化し、それを地域ブロック毎に平均化してランキングを行った。

- ① 偏差値の計算方法：得点が高い方（数字が大きい）が上位にランキングされるもの
 （例）書籍購入額

$$(A\text{自治体の数字} - \text{平均点}) \div \text{標準偏差} \times 10 + 50$$
- ② 偏差値の計算方法：得点が低い方（数字が少ない）が上位にランキングされるもの
 （例）通勤時間の長さ

$$(\text{平均点} - A\text{自治体の数字}) \div \text{標準偏差} \times 10 + 50$$

地域ブロックについては、全国を10地域のブロックに分け、東北圏は青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟の7県と設定した。

図表1-17 地域ブロックの設定

地域ブロック	都道府県
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟
首都圏	埼玉、千葉、東京、神奈川
北関東・甲信	茨城、栃木、群馬、山梨、長野
北陸	富山、石川、福井
東海	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

資料：総務省資料より作成

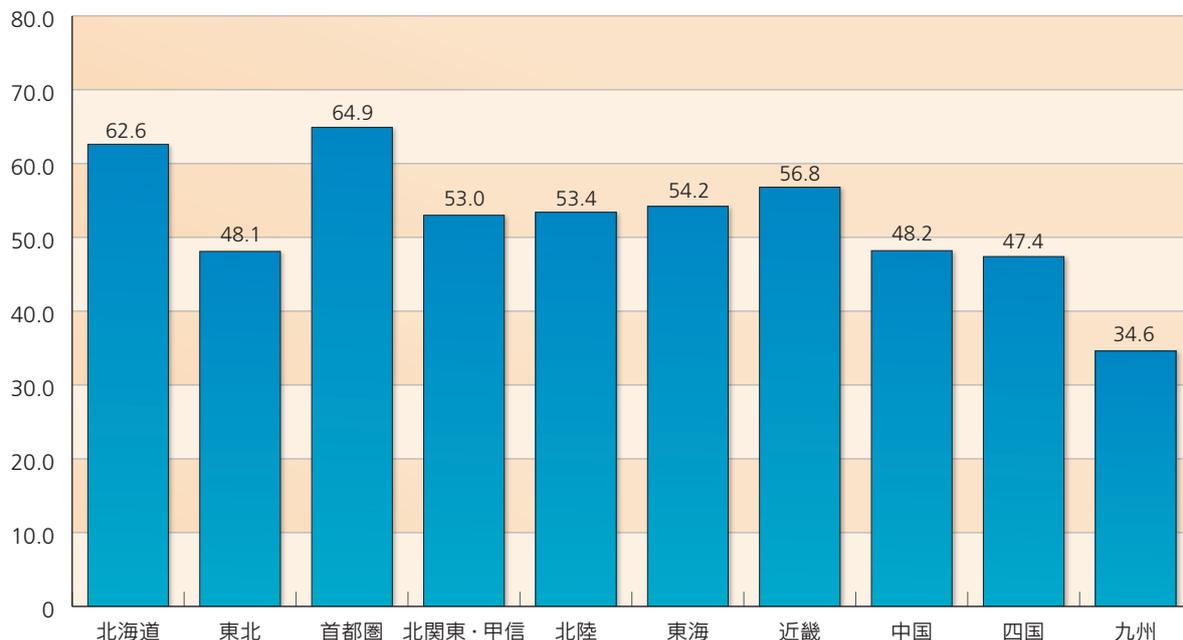
例えば、図1-18の書籍購入額については、県別に偏差値化すると、東京都は4,439円で偏差値66.7である。次に、県別の偏差値を地域ブロック毎に平均化して、試算したものが図表1-19である。首都圏は偏差値が64.9と東北圏と比較して優位性があるといえる。

図表1-18 書籍購入額 県別偏差値

	(円)	偏差値	順位		(円)	偏差値	順位
北海道	4,278	62.6	5	滋賀県	3,941	54.1	17
青森県	3,364	39.5	41	京都府	4,334	64.1	4
岩手県	3,764	49.6	26	大阪府	4,018	56.1	15
宮城県	3,685	47.6	32	兵庫県	4,214	61.0	7
秋田県	3,713	48.3	30	奈良県	4,073	57.5	11
山形県	3,791	50.3	24	和歌山県	3,707	48.2	31
福島県	3,544	44.0	36	鳥取県	3,551	44.2	35
茨城県	3,849	51.8	21	島根県	3,860	52.1	19
栃木県	3,722	48.6	29	岡山県	3,532	43.7	37
群馬県	3,817	51.0	22	広島県	3,816	50.9	23
埼玉県	4,197	60.6	8	山口県	3,780	50.0	25
千葉県	4,401	65.8	3	徳島県	3,871	52.3	18
東京都	4,439	66.7	1	香川県	3,758	49.5	27
神奈川県	4,429	66.5	2	愛媛県	3,319	38.3	42
新潟県	4,073	57.5	11	高知県	3,753	49.3	28
富山県	4,071	57.4	13	福岡県	3,488	42.6	39
石川県	4,095	58.0	10	佐賀県	3,378	39.8	40
福井県	3,579	44.9	34	長崎県	2,935	28.6	46
山梨県	3,851	51.8	20	熊本県	3,180	34.8	43
長野県	4,256	62.1	6	大分県	3,499	42.9	38
岐阜県	3,625	46.1	33	宮崎県	2,813	25.5	47
静岡県	4,039	56.6	14	鹿児島県	3,110	33.1	44
愛知県	4,163	59.7	9	沖縄県	2,977	29.7	45
三重県	3,955	54.5	16				

注1：東北圏を赤い文字、首都圏を青い文字で記載している
 注2：2人以上の世帯における1世帯当り1カ月間の支出
 資料：総務省「2014年 全国消費実態調査」

図表1-19 書籍購入額 地域別偏差値



資料：総務省「2014年 全国消費実態調査」

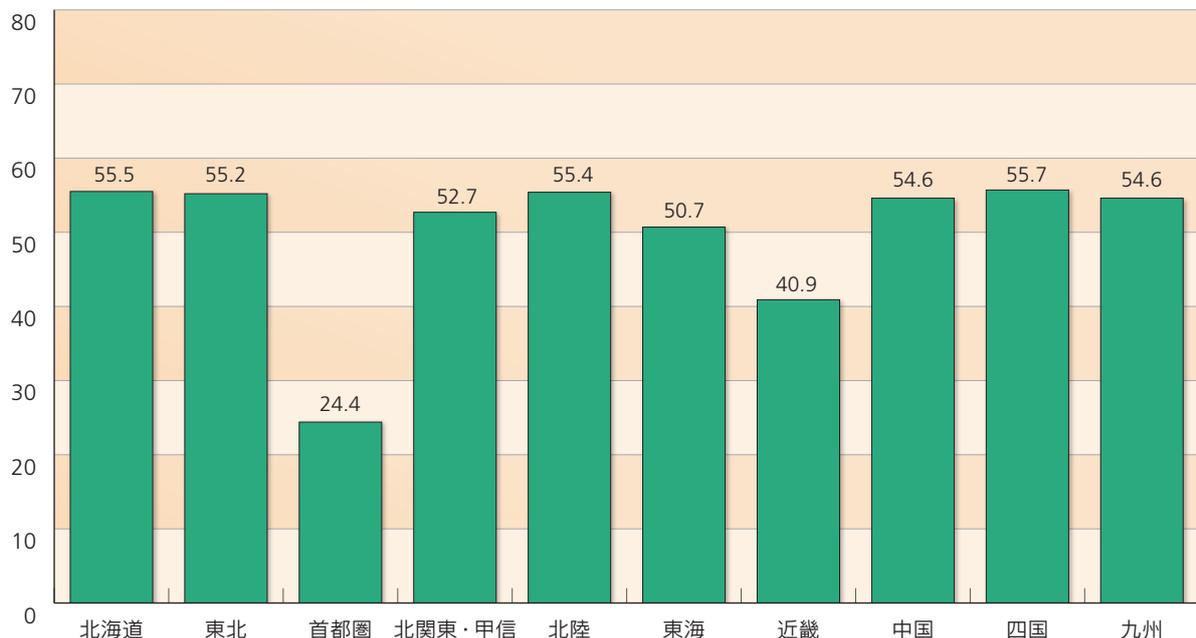
例えば、図表1-20の通勤時間の短さについては、県別に偏差値化すると、山形県は通勤時間が20.5分で偏差値57.3である。次に県別の偏差値を地域ブロック毎に平均化して、試算したものが図表1-21である。東北圏は偏差値が55.2と首都圏と比較して優位性があるといえる。

図表1-20 通勤時間の短さ 県別偏差値

	(分)	偏差値	順位		(分)	偏差値	順位
北海道	22	55.5	14	滋賀県	27.8	48.8	36
青森県	21.4	56.2	11	京都府	31.3	44.7	40
岩手県	21.7	55.9	12	大阪府	40.4	34.1	42
宮城県	28.6	47.8	37	兵庫県	38.1	36.8	41
秋田県	20.6	57.2	7	奈良県	45.2	28.5	43
山形県	20.5	57.3	5	和歌山県	24.3	52.9	28
福島県	22.1	55.4	15	鳥取県	19.6	58.3	2
茨城県	27.7	48.9	35	島根県	19.8	58.1	3
栃木県	25.1	51.9	31	岡山県	25.4	51.6	32
群馬県	24.3	52.9	28	広島県	27.2	49.5	34
埼玉県	47	26.4	44	山口県	21.8	55.8	13
千葉県	48.8	24.3	46	徳島県	23.3	54.0	24
東京都	47.5	25.8	45	香川県	22.8	54.6	21
神奈川県	51.7	20.9	47	愛媛県	20.2	57.6	4
新潟県	21.3	56.3	10	高知県	21.1	56.6	9
富山県	23	54.4	23	福岡県	28.9	47.5	38
石川県	22.3	55.2	17	佐賀県	22.2	55.3	16
福井県	21	56.7	8	長崎県	23.5	53.8	25
山梨県	22.8	54.6	21	熊本県	22.5	55.0	20
長野県	22.3	55.2	17	大分県	22.3	55.2	17
岐阜県	24.9	52.2	30	宮崎県	18.9	59.1	1
静岡県	24	53.2	27	鹿児島県	20.5	57.3	5
愛知県	30.2	46.0	39	沖縄県	23.9	53.3	26
三重県	25.4	51.6	32				

注：東北圏を赤い文字、首都圏を青い文字で記載している
資料：総務省「住宅・土地統計調査」

図表1-21 通勤時間の短さ 地域別偏差値



資料：総務省「住宅・土地統計調査」

③ 客観的指標から見える東北圏の魅力の特徴

8分野について指標を設定し、偏差値化して他地域と比較したところ、分野別では首都圏に対し一定の分野で優位性があり、またその他の地域に比し大きな遜色はないといえる。その他個別指標をみていくと、以下の特徴が明らかになった。

i) 東北の優位な分野

農業産出額や食料自給率の優位性

農業産出額の偏差値は57.5（以下、数値は全て偏差値）で、北海道（67.0）、九州（58.0）に次ぐ高水準である。食料自給率も北海道（86.0）に次ぐ63.7で、3位の北陸（52.7）を大きく上回る。

一方、首都圏においては各々39.7、40.3と全国で最低の水準にある。東北圏は国内の重要な食料供給機能を持つとともに、フードマイレージにも優れ、地産地消の地域経済の素地がある。

「生活の質」（居住、家賃、通勤時間）の優位性

1人当たり畳数は58.9と、北陸（63.1）、北海道（60.3）に次いでいる。低廉な家賃（55.0）や通勤時間も短く（55.2）、各々全国平均を上回る。一方首都圏は34.9、24.4、24.4と全国最低の水準である。居住や通勤環境面で、首都圏よりも「生活の質（QOL）」を実感出来る。

清浄な空気と公園面積に見られる自然環境の優位性

OECDや公害に関する統計に基づく空気の質は60.6と、北海道（69.4）に次ぐ水準であり、首都圏（34.0）を大きく上回る。自然公園面積も58.3と、北海道（72.0）に次ぎ、首都圏（37.3）を大きく上回る。生活環境の優位性にもつながる。

治安面の優位性

刑法認知件数を少ない順から見ると57.5で全国1位であり、首都圏の38.7を大きく上回る。生活の安全・安心につながるといえる。

地域行事や地域活動の優位性

行祭事数は59.1と、北陸（59.5）に次ぐ水準、参加者数（59.4）も全国で1位である。地域に根ざした行事により地域の魅力を増し、伝統を維持し得る。

温泉等数による心身癒しの場としての優位性

温泉施設数（63.9）は全国1位で泉質も豊富である。バラエティに富む温泉により心身リフレッシュの機会が増大すると考えられる。

エネルギー自給率の優位性

再生可能エネルギー自給率は59.1と、全国1位である。エネルギーの地産地消にもつながるといえる。

所得水準が低い一方、生活コストも安い

所得水準は低いが生活コストも低い。例えば1人当たり賃金（41.2）は九州（40.7）に次ぐワースト2位で、首都圏（66.9）とは大きく離れている。ただし生活コストの安さを見ると52.4で首都圏（37.3）を大きく上回り、双方を掛合せた水準は東北圏が46.8、首都圏は52.1と、その差は大きく縮まる。

ii) 東北の劣位な分野

平均寿命が短く、自殺死亡率も高い

平均寿命（39.5）、自殺死亡率（37.3）はいずれも全国最低である。健康面（食生活、寒冷度）で劣るとともに精神的健全性においても課題がある地域と考えられる。

医療施設数・医師数が少ない

医療施設数は45.3、医師数も41.5と、いずれも平均を下回り、全国的にも低位である。医療・育児面での安心度を訴求できない。

美術館が少なく、教養・娯楽サービス支出額も少ない

美術館数（46.2）は平均を下回り、教養施設の面では低位である。また、1世帯1ヵ月当たり教養・娯楽サービス支出額も39.9と、全国最低水準であり、首位の首都圏67.6を大きく下回る。文化教養施設面でのサービスの拡充をどのように進めるかが課題である。

国際的要素が薄い

東北圏における外国人宿泊者数（43.7）、出国率（41.2）は、いずれも全国最低で、留学生数（45.0）も平均以下となっている。

一方、首都圏は留学生数（62.5）、出国率（71.5）ともに全国1位で、外国人宿泊者数（52.1）も北海道、近畿、九州に次ぐ水準となっている。

④ 地域ブロック毎の偏差値ランキング

東北圏と他地域の8分野を構成する各指標毎の優劣を検討する必要があるため、以下では、各指標毎の偏差値化し、順位化した。

経済分野では、東北圏は、雇用面では正規雇用者比率が高く、安定した雇用環境であると考えられる。また、経済面では収入は低いものの、首都圏（1都3県）に比し、消費支出が低く、生活コストが安いと考えられる。

農業産出額や食料自給率が高く、人口規模と比較して農業に特徴がある地域であるといえる。環境については、全体的に東北圏は首都圏に比し、上位にランキングされているものが多い。特に東北圏は、1人当たり畳数、持家比率、家賃の安さ、通勤時間の短さといった住宅環境が優れている。また、空気の質が良く、再生エネルギー自給率が高く、道路整備率、都市公園面積、自然公園面積のインフラが充実していると考えられる。

図表1-22 地域ブロック毎の分野別偏差値ランキング比較表^{※1}

	北海道	東北	首都圏	北関東・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
①経済										
所得と富										
1人あたり賃金	7	9	1	4	5	3	2	6	8	10
生活コストの低さ	2	4	10	7	9	8	6	5	3	1
1世帯あたり貯蓄残高	8	9	1	7	2	3	5	4	6	10
雇用と収入										
有業率	10	6	3	4	1	2	8	5	9	7
正規雇用者比率	10	1	6	7	3	8	9	4	2	5
完全失業率の低さ	10	6	9	4	1	2	8	3	5	7
仕事と家庭のバランス										
1人あたり実労働時間	4	5	1	6	8	10	3	7	2	9
余暇時間	1	10	2	4	3	7	8	5	6	9
地産地消										
漁業産出額（人口10万人当たり）	1	5	10	9	7	6	8	4	2	3
農業産出額（人口10万人当たり）	1	3	10	4	8	7	9	6	5	2
食料自給率	1	2	10	5	3	8	9	6	7	4
②環境										
住宅										
1人あたり畳数	2	3	10	7	1	6	8	5	4	9
持家比率	10	3	9	2	1	5	7	6	4	8
1カ月あたり家賃	1	4	10	7	6	8	9	5	2	3
通勤時間の短さ	2	4	10	7	3	8	9	5	1	6
環境										
空気の質	1	2	10	7	9	6	5	3	4	7
ばい煙発生施設数の少なさ	10	5	9	6	2	8	7	4	1	3
粉じん発生施設数の少なさ	10	3	8	5	1	9	6	7	2	4
再生エネルギー自給率	8	3	10	1	6	7	9	4	5	2
公害苦情件数の低さ（人口10万人当たり）	1	3	4	10	2	9	7	6	5	8
インフラ										
ブロードバンドアクセス比率	9	5	4	3	7	2	1	8	6	10
汚水処理人口比率	1	8	3	7	2	6	4	5	10	9
道路整備率	2	3	5	9	1	6	8	7	10	4
1人あたり都市公園面積	1	3	10	5	2	9	8	4	7	6
自然公園面積（人口10万人当たり）	1	2	10	3	4	6	8	7	9	5

1 地域ブロック別に、分野毎に偏差値をランキングしている
東北圏と首都圏とを比較し、5位以上（10ブロック中）のものはセルを赤くしている。

安心・安全では、東北圏は刑法犯認知件数が少なく治安が良いといえる。健康については、自殺死亡率が高いものの社会体育施設数は多く、健康を維持していくための環境は整っていると考えられる。医療施設数・医師数は少なく、美術館等、教養・娯楽サービス支出が少ない。

教育では、学力が高く、不登校児童生徒率が低く、教員1人当たり児童生徒数が少ないため、教育環境は充実している。コミュニティでは、離婚率が低く、3世代同居比率が高い点が特徴である。

③安心・安全	北海道	東北	首都圏	北関東・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
刑法犯認知件数の少なさ (人口1,000人当り)	5	1	10	7	2	8	9	4	6	3
交通事故発生件数の少なさ (人口10万人当り)	1	3	4	7	2	9	6	5	8	10
自主防災組織活動カバー率	10	7	8	4	5	2	3	6	1	9
出火率の低さ(人口1万人当り)	10	5	2	9	1	4	3	8	6	7
交通事故死傷者数の少なさ (人口10万人当り)	1	3	5	7	2	9	6	4	8	10
④健康	北海道	東北	首都圏	北関東・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
身体の健康										
平均寿命	9	10	2	5	1	3	4	7	8	6
健康寿命	6	7	5	2	3	1	9	8	10	4
心の健康										
自殺死亡率の低さ (人口10万人当り)	9	10	3	7	4	5	2	8	1	6
気分障害受療者数の少なさ (人口10万人当り)	6	3	8	7	1	5	2	9	10	4
健康のための環境										
社会体育施設数 (人口100万人当り)	1	2	10	5	3	8	9	4	7	6
医療施設数(人口10万人当り)	7	6	9	5	4	10	8	3	2	1
医師数(人口10万人当り)	6	9	7	8	5	10	4	2	1	3
看護職員数(人口10万人当り)	7	5	10	9	4	8	6	3	2	1
⑤教育	北海道	東北	首都圏	北関東・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
教育水準										
学力	10	3	7	8	1	5	9	4	2	6
大学進学率	10	8	1	5	4	3	2	7	6	9
教育問題										
いじめ認知件数の少なさ(人口1,000人当り)	3	9	7	6	1	4	10	2	5	8
不登校児童生徒率の低さ	4	1	6	9	2	5	10	8	7	3
教育環境										
保育所待機児童数の少なさ	4	7	10	5	1	6	8	3	2	9
学童保育設置率	9	7	1	2	3	8	6	5	10	4
教員1人当たり児童生徒数の少なさ	2	4	10	7	6	9	8	3	1	5
⑥コミュニティ	北海道	東北	首都圏	北関東・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
家族等のつながり										
未婚率の低さ	7	8	10	9	3	6	1	5	4	2
離婚率の低さ(1,000人当り)	10	2	7	5	1	4	8	3	6	9
1人暮らし高齢者世帯比率の低さ	9	5	4	3	2	1	6	7	10	8
3世代同居比率の高さ	10	1	9	3	2	4	8	5	7	6
社会とのつながり										
NPO法人認証数(人口10万人当り)	2	6	1	3	10	4	5	9	7	8
1農業集落当り寄合を開催した回数	8	1	9	4	3	6	2	7	10	5

⑦ガバナンス	北海道	東北	首都圏	北関東・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
投票率										
選挙投票率（統一地方選挙）	1	2	10	6	4	8	9	3	7	5
社会的関与										
生活行動種類別行動者率（ボランティア活動）	10	6	9	4	1	5	8	2	7	3

文化面では、イベント・祭事数や参加者数に強みがあり、温泉地が多い。外国人宿泊者数や出国率等国際化面での弱さはあるものの、公民館数や図書館が多く充実している。

⑧文化	北海道	東北	首都圏	北関東・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
イベント・祭事										
祭・イベント数（人口10万人当り）	7	2	10	4	1	9	8	6	5	3
祭・イベント参加者数（人口10万人当り）	3	1	5	4	6	8	10	7	9	2
文化・教養										
公民館数（人口100万人当り）	9	4	10	1	3	8	6	5	2	7
博物館数（人口100万人当り）	5	6	10	2	1	8	7	3	4	9
美術館（人口100万人当り）	2	8	1	3	7	4	5	6	9	10
図書館（人口100万人当り）	7	5	10	3	1	8	9	2	4	6
1世帯あたり新聞発行部数	9	6	8	2	1	5	4	3	7	10
芸術文化活動行動者率	9	10	1	6	3	4	2	5	7	8
アミューズメント										
映画館（人口100万人当り）	4	6	7	5	8	9	10	3	2	1
テーマパーク等（人口100万人当り）	10	2	8	5	1	3	6	7	9	4
教養娯楽サービス支出額（1世帯1ヵ月当り）	8	10	1	5	3	2	4	6	7	9
書籍雑誌購入額（1世帯1ヵ月当り）	2	8	1	6	5	4	3	7	9	10
文化財件数（1,000平方キロメートル当り）	10	9	1	4	6	3	2	8	7	5
温泉地数（人口100万人当り）	4	1	10	3	2	8	9	6	5	7
国際										
外国人宿泊者数（人口1,000人当り）	1	10	4	5	7	6	2	9	8	3
留学生数（人口10万人当り）	8	9	1	3	6	7	2	5	10	4
出国率	9	10	1	4	5	3	2	6	8	7

⑤ 地域ブロック毎の偏差値のレーダーチャート比較

以下では、地域ブロック毎に比較を行うために、指標を地域ブロック別に偏差値で比較し、検討を実施した。東北圏と首都圏で偏差値を比較すると、東北圏は環境、安心・安全、教育、コミュニティ、ガバナンスについて優位性があるといえる。

図表1-23 地域ブロック毎の偏差値比較表

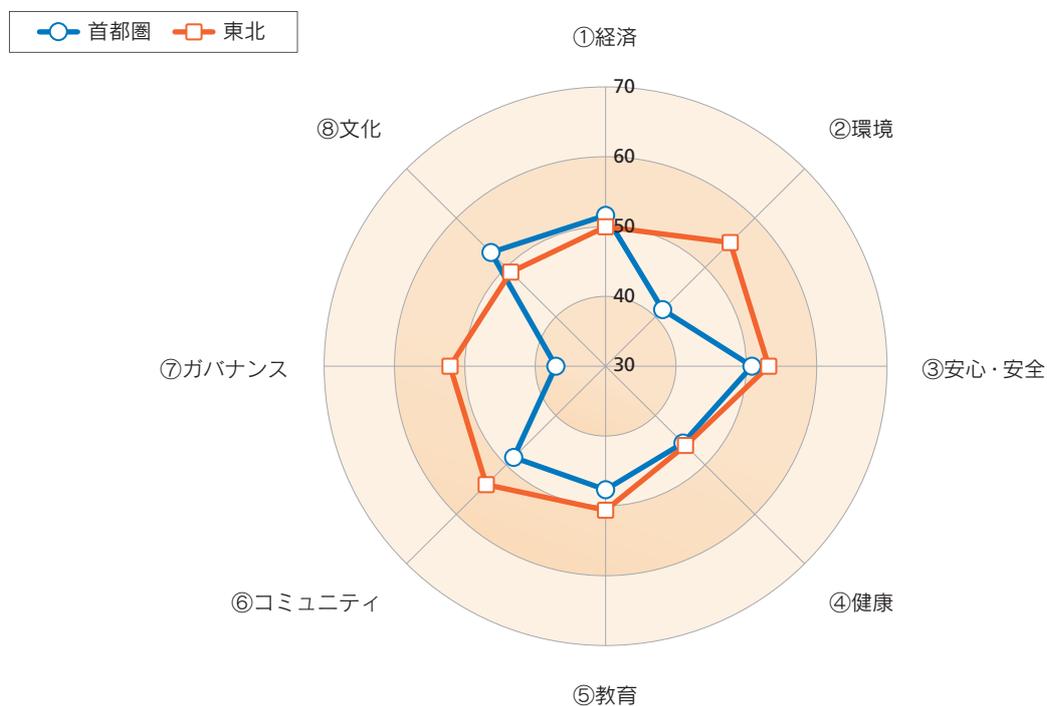
(単位：偏差値)

	北海道	東北 (新潟含む)	首都圏	北関東・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
①経済	54	50	52	51	52	50	47	51	52	48
②環境	55	55	41	50	56	48	48	51	50	49
③安心・安全	49	53	51	47	58	47	50	52	50	46
④健康	50	46	46	49	56	48	49	51	51	55
⑤教育	49	51	48	51	57	50	48	51	51	48
⑥コミュニティ	41	54	48	50	57	52	50	49	45	48
⑦ガバナンス	51	52	37	51	57	50	45	55	47	53
⑧文化	48	49	53	53	54	49	51	49	48	46

注：偏差値が高い方が緑色で、低い方が赤色になっている。

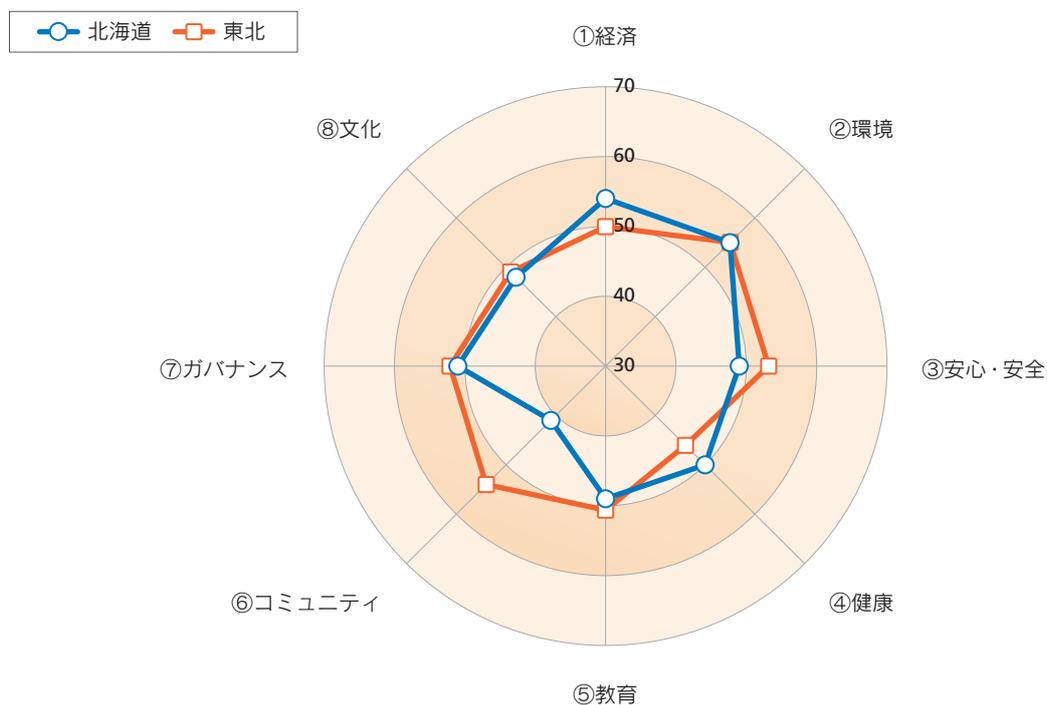
因みに、レーダーチャートで他の地域と比較すると、東北圏は首都圏と比べて特に環境、安心・安全、教育、コミュニティ、ガバナンスの面で優位性があるといえる。

図表1-24 東北圏と首都圏のレーダーチャート比較



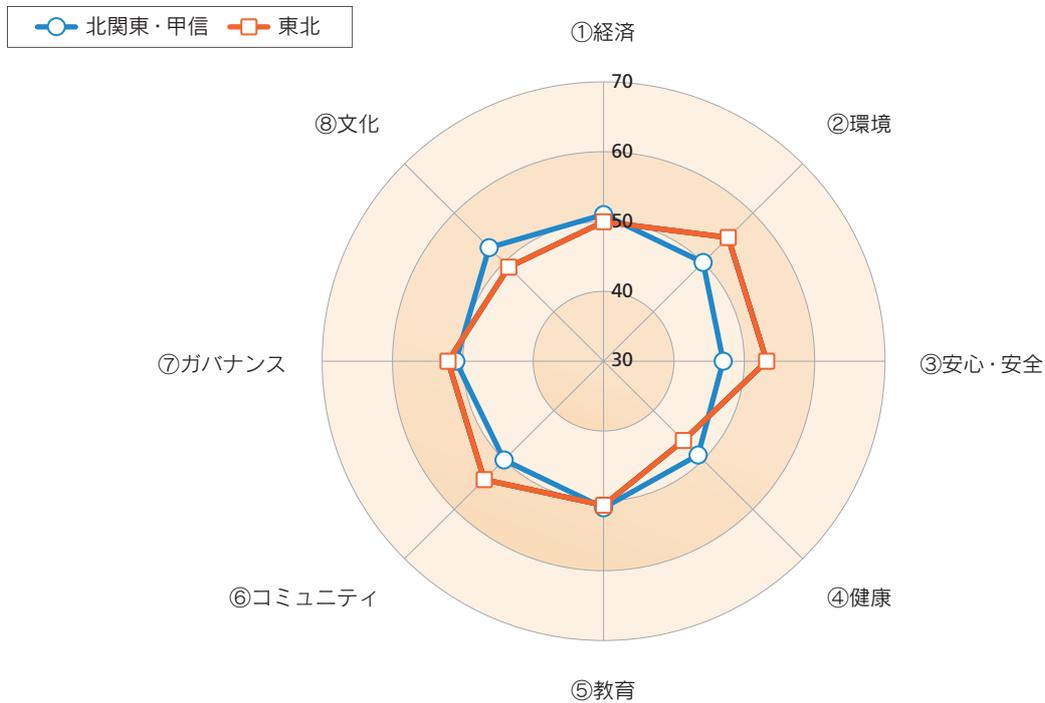
北海道と比較すると、東北圏は特に安心・安全、教育、コミュニティの分野で優位性があるといえる。

図表1-25 東北圏と北海道のレーダーチャート比較



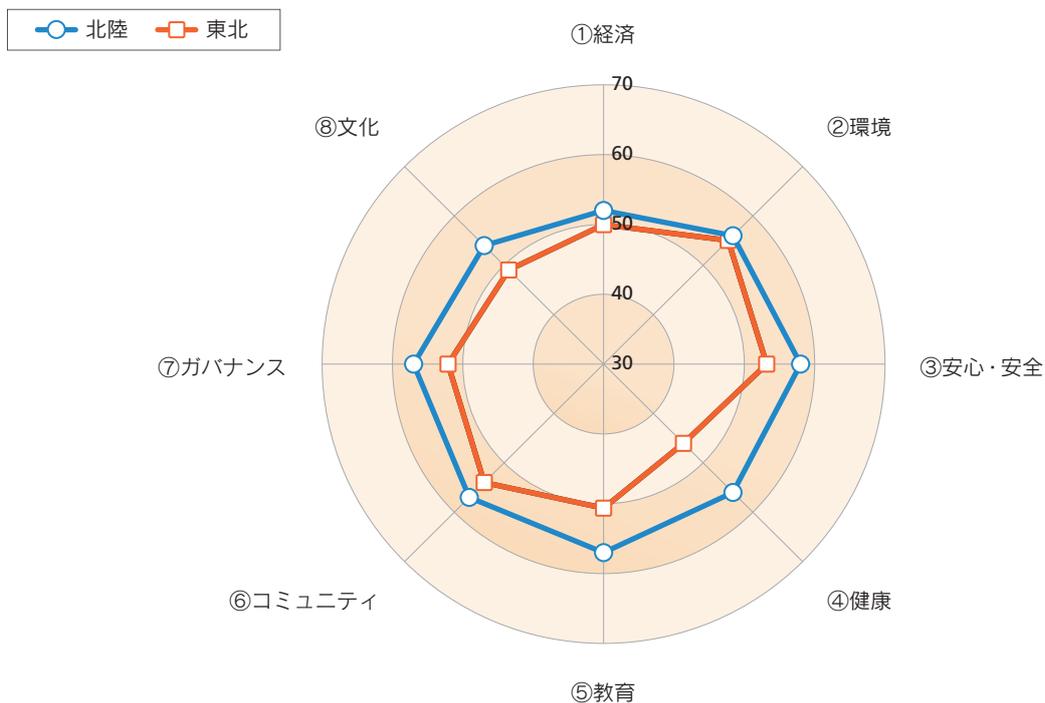
北関東・甲信と比較すると、東北圏はそれほど差がないが、環境、安心・安全、コミュニティでは優位性があるといえる。

図表1-26 東北圏と北関東・甲信のレーダーチャート比較



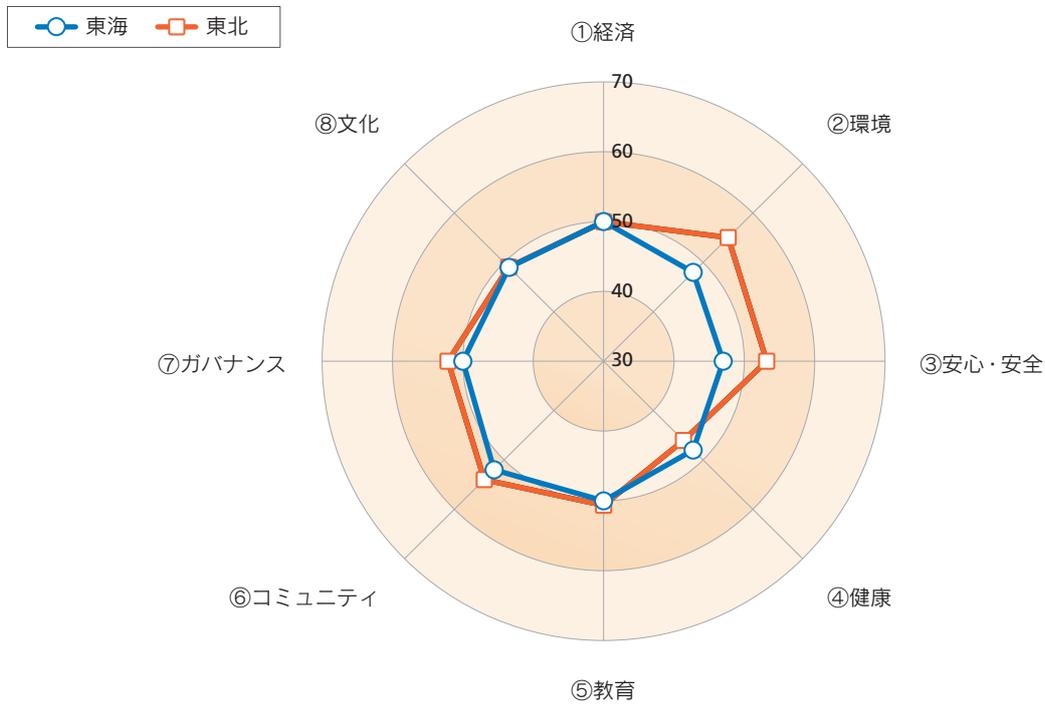
北陸と比較すると、東北圏は経済、環境で同等のレベルにあるといえる。

図表1-27 東北圏と北陸のレーダーチャート比較



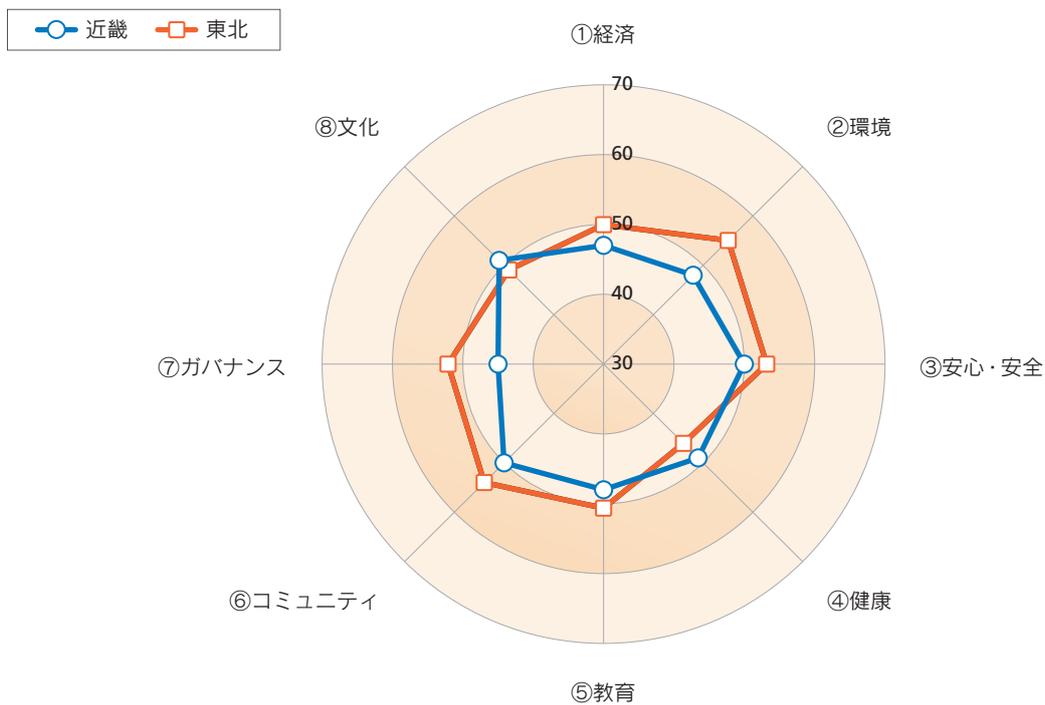
東海と比較すると、東北圏は環境、安心・安全、ガバナンスの面で優位性があるといえる。

図表1-28 東北圏と東海のレーダーチャート比較



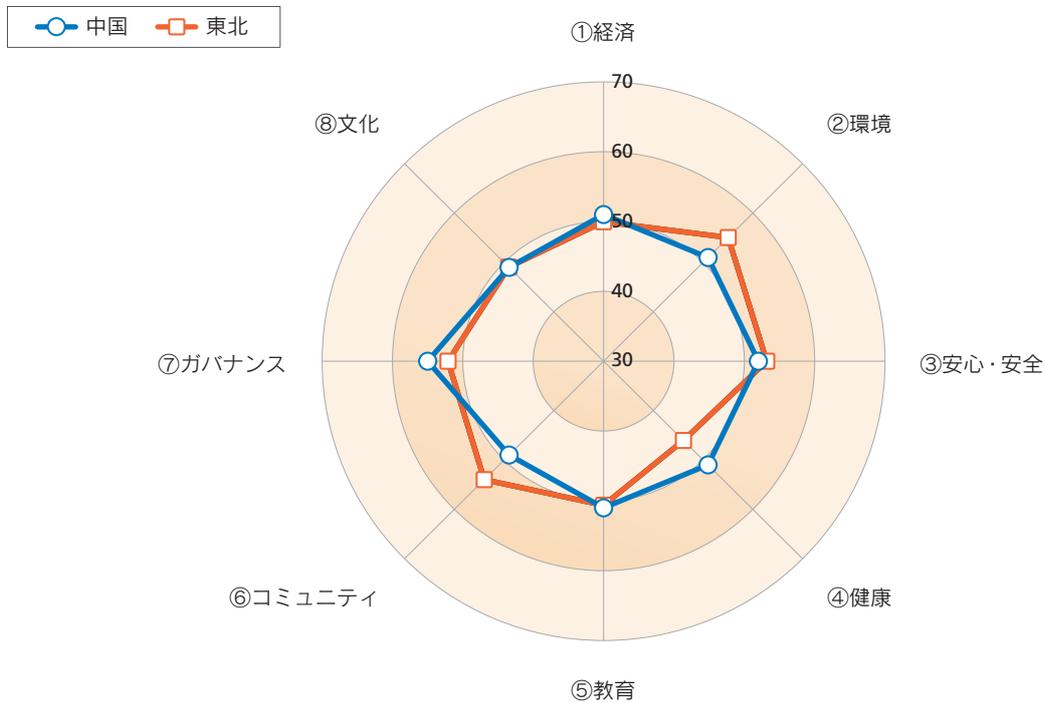
近畿と比較すると、東北圏は経済、環境、安心・安全、教育、コミュニティ、ガバナンスの面で優位性があるといえる。

図表1-29 東北圏と近畿のレーダーチャート比較



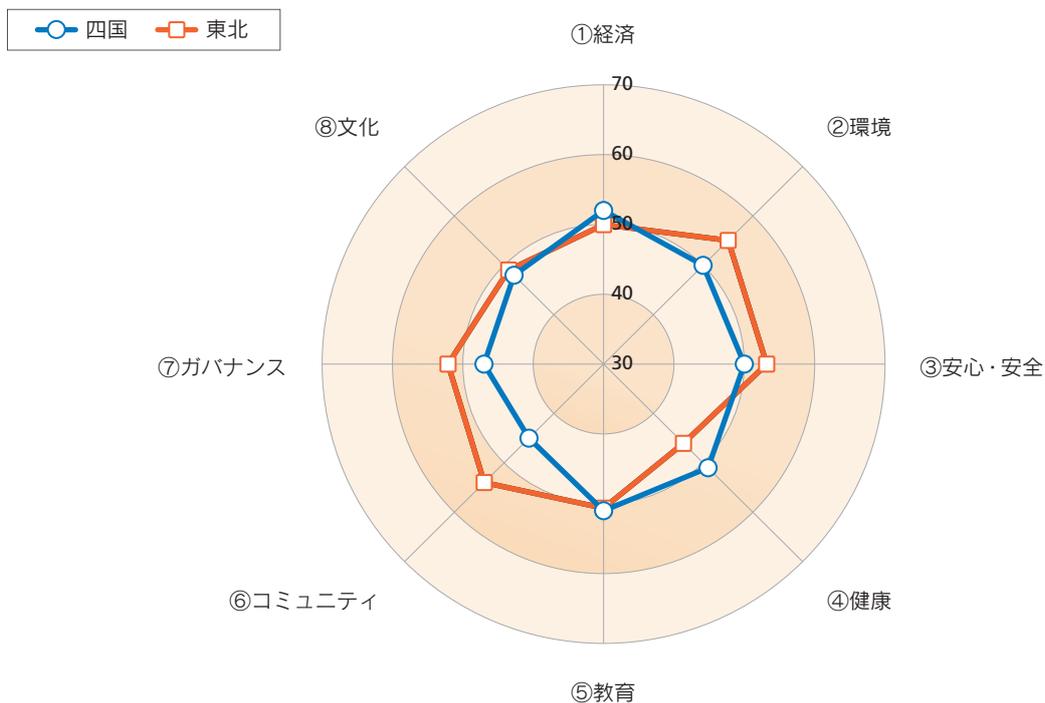
中国と比較すると、東北圏は環境、コミュニティで優位性があるといえる。

図表1-30 東北圏と中国のレーダーチャート比較



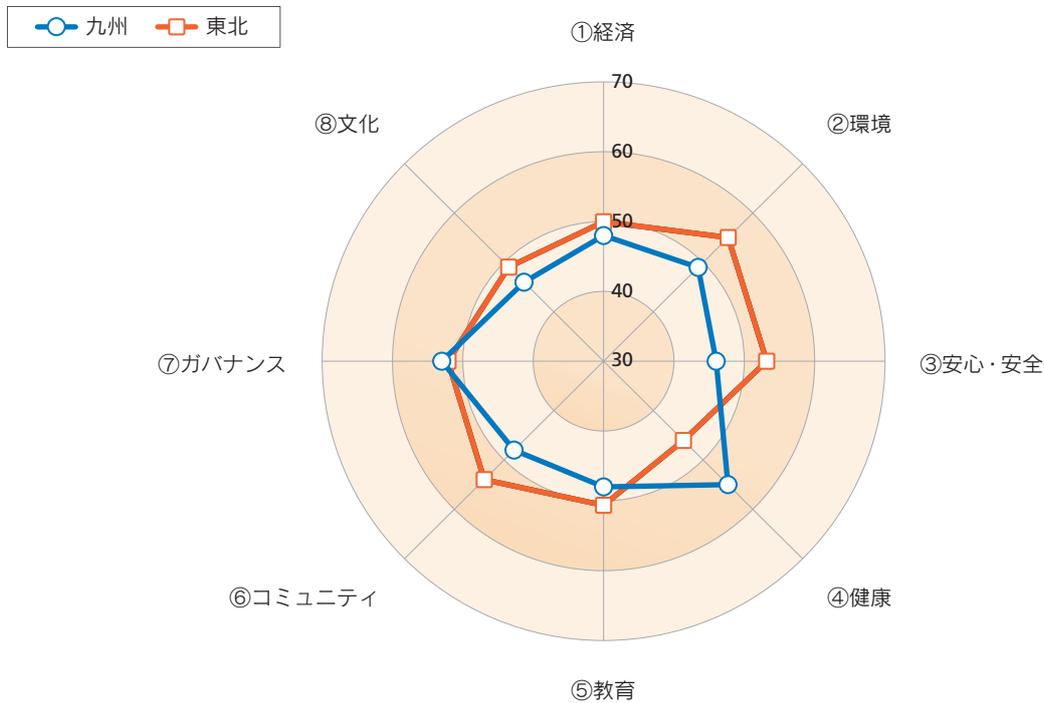
四国と比較すると、東北圏は特に環境、安心・安全、コミュニティ、ガバナンスの面で優位性があるといえる。

図表1-31 東北圏と四国のレーダーチャート比較



九州と比較すると、東北圏は経済、環境、安心・教育、安全、コミュニティ、文化の面で優位性があるといえる。

図表1-32 東北圏と九州のレーダーチャート比較



このように見てくると、東北圏は客観的指標では、人々が暮らしの中で重視する項目において、他の地域と遜色はないといえる。首都圏に比し、東北圏は特に環境面（住宅、環境、インフラ）や安心・安全（治安）に強みがあることが分かった。東北圏には住環境や治安の面で強みがあるにもかかわらず、総務省住民基本台帳人口移動報告によると、人口の転出超過数は福島県（8,395人）が最も多い。東北7県では、全ての県で転出超過を記録している。人口が転入超過となっている自治体は、東京都が最大で75,498人、次いで千葉県が16,203人、埼玉県が14,923人となっている。

人口が流出しているのは、地域に課題や不満があるからではないかと推察される。そこで、人々はどうのような事柄を重視し、何が地域の魅力につながっているかさらなる検討が必要であるため、第2章ではインターネット上でアンケート調査を行う。

2 地域の魅力、移住・定住に関するアンケート調査

要旨

第2章では、第1章で設定した客観的指標を踏まえ、東北圏の居住者が実際にはどのような事柄を重視し、また東北圏にどういった魅力や不満を感じているか明らかにするために、東北圏の居住者にアンケート調査を実施した。

一方で、アンケートは首都圏の居住者にも行い、首都圏での移住への考えやニーズ、東北圏へのイメージを明らかにすることも目的とした。

アンケート結果からみると、首都圏、東北圏ともに現在の居住地域に満足する割合が高いことがわかる(図表2-8)。また、両地域とも移住を希望する割合は、非常に少ない(図表2-16)。重要度についても、所得や住環境、治安といった生活に必要な項目で高く、娯楽施設等生活に付随する楽しみ等で低い点が共通していた(図表2-11・2-12)。

東北圏の回答者の特徴としては、居住地域を自分で決定した場合の理由や、現在の居住地域への評価で自然の豊かさや郷土料理を挙げる割合が首都圏より高いことがある(図表2-7・図表2-9)。自然環境と郷土料理は満足度も首都圏より高い結果となっており(図表2-13・2-14)、首都圏と比べた場合の東北圏の強みとなっていることがみてとれる。特に自然環境は東北圏においては満足度が高く(図表2-15)、首都圏からの移住希望者の東北圏への移住の条件としても上位に入っており(図表2-17)、首都圏から東北圏への移住促進に向けた大きなアピールポイントとなるりうる。

加えて、東北圏に居住経験のある首都圏の回答者は、東北圏に対して住環境や治安が良いというイメージを持っている割合が高く(図表2-30)、この点は、広く知られていない東北圏の魅力と考えられ、さらなる情報発信が求められる。

東北圏への移住の条件・東北圏に引き続き定住する質問では、首都圏の移住希望者の東北圏への移住の条件として最も高い割合であったのは、住環境が良いで、次いで経済環境が良い、治安が良い、緑や自然が豊かである、医療・福祉環境が充実している、交通の便が良い、食べ物やお酒が美味しい、周辺住民が移住者に優しい等が挙げられた。こうした点が首都圏に在住する移住を希望する層に訴求力の高い魅力となるものと考え(図表2-17)。また、年代別では、30代の東北圏からの移住希望者ではやりがい条件とする割合が比較的高く(図表2-18)、60歳以上の首都圏からの移住希望者では、自然の豊かさを条件とする割合が最も高いなど(図表2-19)、経済環境以外の点も東北圏への移住を促進するアピールポイントとなる可能性がある。

アンケート実施にあたり

第1章で設定した客観的指標や、先行研究から明らかとなった東北圏の強みや弱みを通し、人々が暮らしの中で重視する項目において、他地域と遜色はないということが言える。

本章においては、第1章の客観的指標を踏まえた上で、実際に東北圏に居住している人々がどのような事柄を重視し、どのような魅力を感じているかを明らかにするために、アンケート調査を実施し、その結果を分析していくこととする。

加えて、アンケート調査は東北圏の居住者だけではなく、首都圏の居住者に対しても行うこととした。首都圏と東北圏の結果を比較することで、東北圏の現状や位置づけを把握するとともに、東北圏への移住・定住の効果的PRのため首都圏の居住者が抱く東北圏へのイメージや移住のニーズを明らかにすることを大きな目的としたからである。

それに基づき、本章では、まず首都圏と東北圏のアンケート結果の比較分析を行うことによって、東北圏の位置づけや特徴を明らかにし、その上で、東北圏、首都圏のそれぞれについて特徴的であった項目を分析し、東北圏、首都圏それぞれの傾向を明らかにする。

なお、アンケート調査は、2017年12月15日～17日の3日間にわたって首都圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）と東北圏（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県）を対象として行った（図表2-1）。

質問内容は、現在の居住地域への満足度や、移住希望の有無等の他、首都圏の居住者に対しては、東北圏への居住経験や東北圏へのイメージなど東北圏に特化した項目を追加で尋ねている。（※調査項目については、図表2-2、図表2-3を参照）

また、アンケートの回答は、首都圏・東北圏とも、回答者の男女比は50%ずつ、年齢分布にも偏りが生じないように採取されており、男女あらゆる年代の意見を反映したものとなっている。

図表2-1 アンケート調査の概要²

実施日	2017年12月15日～17日
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏：1都3県（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県） ・東北圏：7県（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県）
調査内容	<p>主な質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の居住地域への満足度 ・地域の魅力について、重視する項目、満足度 ・東北圏への移住の条件、東北圏への定住の条件 ・東北圏の人の東北圏への考え方について ・首都圏の人の東北圏に対するイメージ ・移住を検討する場合の心配事 等

2 アンケートの質問上では東北圏について「東北地域」と記載している。

図表2-2 首都圏の居住者に対するアンケート調査票

<p>Q1 今まで、東北地域に居住したことはありますか。あてはまるものを1つ回答して下さい。</p> <p>1 ある</p> <p>2 ない</p>	<p>Q7 東北地域のイメージはどのようなものですか。あてはまるものを全て回答して下さい。</p> <p>※「経済環境（所得、雇用環境）が良い」と「経済環境（所得、雇用環境）が良くない」など対になっている選択肢は同時に選択しないようお願いいたします。</p> <p>1 東北地域の情報が少なく、あまりイメージが出来ない</p> <p>2 経済環境（所得、雇用環境）が良い</p> <p>3 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良い</p> <p>4 治安が良い</p> <p>5 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実している</p> <p>6 教育環境（子育て支援サービス）が充実している</p> <p>7 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）がある</p> <p>8 地域社会や政治に対して住民の関心が高く、地域の行政に住民の意向がよく反映されている</p> <p>9 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが充実している</p> <p>10 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが充実している</p> <p>11 緑や自然が豊かである</p> <p>12 人間関係が濃密である</p> <p>13 食べものやお酒が美味しい</p> <p>14 周辺住民が移住者に優しい</p> <p>15 行政等による移住者への支援が充実している</p> <p>16 経済環境（所得、雇用環境）が良くない</p> <p>17 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良くない</p> <p>18 治安が良くない</p> <p>19 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実していない</p> <p>20 教育環境（子育て支援サービス）が充実していない</p> <p>21 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）が弱い</p> <p>22 地域社会や政治に対して住民の関心が低く、地域の行政に住民の意向がよく反映されていない</p> <p>23 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが少ない</p> <p>24 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが少ない</p> <p>25 雪が多くて自然が厳しい</p> <p>26 人間関係がドライで煩わしくない</p> <p>27 食べものやお酒が美味しくない</p> <p>28 周辺住民が移住者に優しくない</p> <p>29 行政等による移住者への支援が充実していない</p> <p>30 あてはまるものはない</p>
<p>Q2 東北地域に居住したことがある場合は、居住の時期・背景を教えてください。あてはまるものを全て回答して下さい。</p> <p>1 小学校入学前に在住経験がある</p> <p>2 小学校、中学校、高校・高专で在学経験がある</p> <p>3 大学、大学院、専門学校、短大等で在学経験がある</p> <p>4 社会人など上記以外で在住経験がある</p>	<p>5 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実している</p> <p>6 教育環境（子育て支援サービス）が充実している</p> <p>7 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）がある</p> <p>8 地域社会や政治に対して住民の関心が高く、地域の行政に住民の意向がよく反映されている</p> <p>9 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが充実している</p> <p>10 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが充実している</p> <p>11 緑や自然が豊かである</p> <p>12 人間関係が濃密である</p> <p>13 食べものやお酒が美味しい</p> <p>14 周辺住民が移住者に優しい</p> <p>15 行政等による移住者への支援が充実している</p> <p>16 経済環境（所得、雇用環境）が良くない</p> <p>17 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良くない</p> <p>18 治安が良くない</p> <p>19 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実していない</p> <p>20 教育環境（子育て支援サービス）が充実していない</p> <p>21 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）が弱い</p> <p>22 地域社会や政治に対して住民の関心が低く、地域の行政に住民の意向がよく反映されていない</p> <p>23 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが少ない</p> <p>24 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが少ない</p> <p>25 雪が多くて自然が厳しい</p> <p>26 人間関係がドライで煩わしくない</p> <p>27 食べものやお酒が美味しくない</p> <p>28 周辺住民が移住者に優しくない</p> <p>29 行政等による移住者への支援が充実していない</p> <p>30 あてはまるものはない</p>
<p>Q3 東北地域に居住されていたのは通算で何年ですか。</p> <p>1 1年未満</p> <p>2 1年以上5年未満</p> <p>3 5年以上10年未満</p> <p>4 10年以上20年未満</p> <p>5 20年以上</p>	<p>Q8 どのような背景で現在の地域にお住まいですか。あてはまるものを1つ回答して下さい。</p> <p>1 自分で現在の居住地域を決めた</p> <p>2 親の都合（実家）</p> <p>3 学校・勤務先の都合（社宅、学生寮がある等）</p> <p>4 結婚</p> <p>5 その他</p>
<p>Q4 今まで、東北地域以外に居住したことがある国内の地域圏を教えてください。あてはまるものを全て回答して下さい。</p> <p>1 北海道</p> <p>2 北関東・甲信（茨城、栃木、群馬、山梨、長野）</p> <p>3 北陸（富山、石川、福井）</p> <p>4 東海（岐阜、静岡、愛知、三重）</p> <p>5 近畿（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）</p> <p>6 中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）</p> <p>7 四国（徳島、香川、愛媛、高知）</p> <p>8 九州（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）</p> <p>9 上記の地域に居住したことはない</p>	<p>Q8 どのような背景で現在の地域にお住まいですか。あてはまるものを1つ回答して下さい。</p> <p>1 自分で現在の居住地域を決めた</p> <p>2 親の都合（実家）</p> <p>3 学校・勤務先の都合（社宅、学生寮がある等）</p> <p>4 結婚</p> <p>5 その他</p>
<p>Q5 今まで、東北地域を訪問した経験はありますか。あてはまるものを1つ回答して下さい。</p> <p>※仕事で訪れた場合も含めてお答えください。</p> <p>1 ある</p> <p>2 ない</p>	<p>Q8 どのような背景で現在の地域にお住まいですか。あてはまるものを1つ回答して下さい。</p> <p>1 自分で現在の居住地域を決めた</p> <p>2 親の都合（実家）</p> <p>3 学校・勤務先の都合（社宅、学生寮がある等）</p> <p>4 結婚</p> <p>5 その他</p>
<p>Q6 東北地域を訪問した経験がある場合は理由をお答え下さい。あてはまるものを全て回答して下さい。</p> <p>1 震災関連の仕事</p> <p>2 震災関連以外の仕事</p> <p>3 親戚・友人を訪ねて</p> <p>4 震災等のボランティア</p> <p>5 観光・レジャー</p> <p>6 音楽イベント、スポーツ観戦等のイベント・催事</p> <p>7 その他</p>	<p>Q8 どのような背景で現在の地域にお住まいですか。あてはまるものを1つ回答して下さい。</p> <p>1 自分で現在の居住地域を決めた</p> <p>2 親の都合（実家）</p> <p>3 学校・勤務先の都合（社宅、学生寮がある等）</p> <p>4 結婚</p> <p>5 その他</p>

Q9 自分で現在の居住地域を決めた場合は、その理由をお聞かせ下さい。
あてはまるものを全て回答して下さい。

- 1 通勤・通学に便利である
- 2 経済環境（所得、雇用環境）が良い
- 3 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良い
- 4 治安が良い
- 5 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実している
- 6 教育環境（子育て支援サービス）が充実している
- 7 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）がある
- 8 地域社会や政治に対して住民の関心が高く、地域の行政に住民の意向がよく反映されている
- 9 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが充実している
- 10 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが充実している
- 11 緑や自然が豊かである
- 12 人間関係が濃密である
- 13 人間関係がドライで煩わしくない
- 14 交通の便が良い
- 15 食べものやお酒が美味しい
- 16 周辺住民が移住者に優しい
- 17 行政等による移住者への支援が充実している
- 18 その他

Q10 現在お住まいの地域に満足していますか（1～5段階評価）。
あてはまるものを1つ回答して下さい。

- 1 満足
- 2 やや満足
- 3 どちらともいえない
- 4 やや不満
- 5 不満

Q11 前問の評価について、【Q10の選択内容】と回答した理由を教えてください。
あてはまるものを全て回答して下さい。

- 1 生まれた地域だから
- 2 友人・知人がいる
- 3 経済環境（所得、雇用環境）が良い
- 4 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良い
- 5 治安が良い
- 6 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実している
- 7 教育環境（子育て支援サービス）が充実している
- 8 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）がある
- 9 地域社会や政治に対して住民の関心が高く、地域の行政に住民の意向がよく反映されている
- 10 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが充実している
- 11 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが充実している
- 12 緑や自然が豊かである
- 13 人間関係が濃密である
- 14 交通の便が良い

- 15 食べものやお酒が美味しい
- 16 周辺住民が移住者に優しい
- 17 行政等による移住者への支援が充実している
- 18 経済環境（所得、雇用環境）が良くない
- 19 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良くない
- 20 治安が良くない
- 21 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実していない
- 22 教育環境（子育て支援サービス）が充実していない
- 23 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）が弱い
- 24 地域社会や政治に対して住民の関心が低く、地域の行政に住民の意向がよく反映されていない
- 25 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが少ない
- 26 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが少ない
- 27 緑や自然が少ない
- 28 人間関係がドライで煩わしくない
- 29 食べものやお酒が美味しくくない
- 30 周辺住民が移住者に優しくくない
- 31 行政等による移住者への支援が充実していない
- 32 その他

Q12 あなたが、地域の魅力として重要であると思われるものをお答えください。
あてはまるものを3つまでお答えください。

- 1 経済環境（所得、雇用環境）が良い
- 2 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良い
- 3 治安が良い
- 4 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実している
- 5 教育環境（子育て支援サービス）が充実している
- 6 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）がある
- 7 地域社会や政治に対して住民の関心が高く、地域の行政に住民の意向がよく反映されている
- 8 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが充実している
- 9 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが充実している
- 10 あてはまるものはない

Q13 以下のそれぞれについて、あなたにとっての重要度としてあてはまるものをそれぞれお答えください。

項目リスト

- 1 所得の多さについて
- 2 仕事のやりがいについて
- 3 雇用環境について
- 4 ワークライフバランスのとれた生活を送れるかどうかについて
- 5 住環境（広さ、安さ、通勤時間）について
- 6 自然環境（空気のきれいさ等）について
- 7 公共交通機関や道路整備等インフラの状況について
- 8 ネット環境の良さ、スピードについて

9 生活の安全、治安について
10 健康維持のための施設（スポーツクラブ）や医療施設の充実について
11 有名大学の有無や学力水準の高さ等の教育環境について
12 保育所施設数の充実やサービスの質、子育て環境について
13 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）について
14 地域社会や政治への住民の関心の高さや地域の行政の住民の意向の反映について
15 地元でとれた美味しい食材や郷土料理について
16 魅力的なお祭りやイベントについて
17 文化施設（美術館、博物館等）について
18 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントの充実について

選択肢リスト

1 重要
2 やや重要
3 どちらともいえない
4 あまり重要ではない
5 重要でない

Q14 以下のそれぞれについて、あなたにとっての満足度としてあてはまるものをそれぞれお答えください。

項目リスト

1 所得の多さについて
2 仕事のやりがいについて
3 雇用環境について
4 ワークライフバランスのとれた生活を送れるかどうかについて
5 住環境（広さ、安さ、通勤時間）について
6 自然環境（空気のきれいさ等）について
7 公共交通機関や道路整備等インフラの状況について
8 ネット環境の良さ、スピードについて
9 生活の安全、治安について
10 健康維持のための施設（スポーツクラブ）や医療施設の充実について
11 有名大学の有無や学力水準の高さ等の教育環境について
12 保育所施設数の充実やサービスの質、子育て環境について
13 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）について
14 地域社会や政治への住民の関心の高さや地域の行政の住民の意向の反映について
15 地元でとれた美味しい食材や郷土料理について
16 魅力的なお祭りやイベントについて
17 文化施設（美術館、博物館等）について
18 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントの充実について

選択肢リスト

1 満足
2 やや満足
3 どちらともいえない
4 やや不満
5 不満

Q15 あなたは、現在お住まいの住居に住み続けたいとお考えですか、それとも首都圏から他地域に移住したいとお考えですか。

1 現在の住居に住み続けたい
2 首都圏から他地域に移住したい

Q16 現在、首都圏から他地域に移住を希望している場合、どのような条件が整えば、東北地域に移住したいと思われますか。あてはまるものを全て回答して下さい。

1 やりがい・自己実現のチャンスがある
2 友人・知人がいる
3 経済環境（所得、雇用環境）が良い
4 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良い
5 治安が良い
6 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実している
7 教育環境（子育て支援サービス）が充実している
8 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）がある
9 地域社会や政治に対して住民の関心が高く、地域の行政に住民の意向が良く反映されている
10 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが充実している
11 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが充実している
12 緑や自然が豊かである
13 人間関係が濃密である
14 人間関係がドライで、煩わしくない
15 交通の便が良い
16 食べものやお酒が美味しい
17 周辺住民が移住者に優しい
18 行政等による移住者への支援が充実している
19 東北の情報が多く、条件をイメージ出来ない
20 その他

Q17 仮に、あなたが移住を検討するとしたら、どのような困り事や心配事があると思いますか。あてはまるものを全て回答して下さい。

1 相談する先が分からない
2 移住先の地域のイメージ、概要に関する情報が無い
3 就業環境や移住先で仕事が見つけれられるかどうか情報が無い
4 友人・知人がいない等地域でのネットワークが無い
5 地域のコミュニティに入っていけるかどうか不安がある
6 良い住宅環境で暮らせるかどうか不安がある
7 治安が良いかどうか不安がある
8 医療・介護施設数やサービスが充実しているかどうか不安がある
9 子育て支援サービスが充実しているかどうか不安がある
10 文化・娯楽施設や祭・イベント、多様なエンターテインメントが充実しているかどうか不安である
11 家族の同意が得られない
12 その他
13 特になし

図表2-3 東北圏の居住者に対するアンケート調査票

<p>Q1 東北地域における、居住の時期を教えてください。あてはまるものを全て回答してください。</p> <p>1 小学校入学前に在住</p> <p>2 小学校、中学校、高校・高専在学時に在住</p> <p>3 大学、大学院、専門学校、短大等在学時に在住</p> <p>4 社会人など上記以外の時期に在住</p>	<p>15 食べものやお酒が美味しい</p> <p>16 周辺住民が移住者に優しい</p> <p>17 行政等による移住者への支援が充実している</p> <p>18 その他</p>
<p>Q2 これまで東北地域に通算で何年お住まいですか。</p> <p>1 1年未満</p> <p>2 1年以上5年未満</p> <p>3 5年以上10年未満</p> <p>4 10年以上20年未満</p> <p>5 20年以上</p>	<p>Q6 現在お住まいの地域に満足していますか（1～5段階評価）。あてはまるものを1つ回答して下さい。</p> <p>1 満足</p> <p>2 やや満足</p> <p>3 どちらともいえない</p> <p>4 やや不満</p> <p>5 不満</p>
<p>Q3 今まで、東北地域以外の国内の地域圏に居住したことがある場合、その地域圏を教えてください。あてはまるものを全て回答して下さい。</p> <p>1 北海道</p> <p>2 首都圏（埼玉、千葉、東京、神奈川）</p> <p>3 北関東・甲信（茨城、栃木、群馬、山梨、長野）</p> <p>4 北陸（富山、石川、福井）</p> <p>5 東海（岐阜、静岡、愛知、三重）</p> <p>6 近畿（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）</p> <p>7 中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）</p> <p>8 四国（徳島、香川、愛媛、高知）</p> <p>9 九州（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）</p> <p>10 居住したことがあるのは東北地域のみである</p>	<p>Q7 前問の評価について、【Q6の選択内容】と回答した理由を教えてください。あてはまるものを全て回答して下さい。</p> <p>1 生まれた地域だから</p> <p>2 友人・知人がいる</p> <p>3 経済環境（所得、雇用環境）が良い</p> <p>4 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良い</p> <p>5 治安が良い</p> <p>6 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実している</p> <p>7 教育環境（子育て支援サービス）が充実している</p> <p>8 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）がある</p> <p>9 地域社会や政治に対して住民の関心が高く、地域の行政に住民の意向がよく反映されている</p> <p>10 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが充実している</p> <p>11 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが充実している</p> <p>12 緑や自然が豊かである</p> <p>13 人間関係が濃密である</p> <p>14 交通の便が良い</p> <p>15 食べものやお酒が美味しい</p> <p>16 周辺住民が移住者に優しい</p> <p>17 行政等による移住者への支援が充実している</p> <p>18 経済環境（所得、雇用環境）が良くない</p> <p>19 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良くない</p> <p>20 治安が良くない</p> <p>21 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実していない</p> <p>22 教育環境（子育て支援サービス）が充実していない</p> <p>23 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）が弱い</p> <p>24 地域社会や政治に対して住民の関心が低く、地域の行政に住民の意向がよく反映されていない</p> <p>25 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが少ない</p> <p>26 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが少ない</p> <p>27 雪が多くて自然が厳しい</p> <p>28 人間関係がドライで煩わしくない</p> <p>29 食べものやお酒が美味しくない</p> <p>30 周辺住民が移住者に優しくない</p> <p>31 行政等による移住者への支援が充実していない</p> <p>32 その他</p>
<p>Q4 どのような背景で現在の地域にお住まいですか。あてはまるものを1つ回答して下さい。</p> <p>1 自分で現在の居住地域を決めた</p> <p>2 親の都合（実家）</p> <p>3 学校・勤務先の都合（社宅、学生寮がある等）</p> <p>4 結婚</p> <p>5 その他</p>	
<p>Q5 自分で現在の居住地域を決めた場合は、その理由をお聞かせ下さい。あてはまるものを全て回答して下さい。</p> <p>1 通勤・通学に便利である</p> <p>2 経済環境（所得、雇用環境）が良い</p> <p>3 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良い</p> <p>4 治安が良い</p> <p>5 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実している</p> <p>6 教育環境（子育て支援サービス）が充実している</p> <p>7 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）がある</p> <p>8 地域社会や政治に対して住民の関心が高く、地域の行政に住民の意向がよく反映されている</p> <p>9 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが充実している</p> <p>10 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが充実している</p> <p>11 緑や自然が豊かである</p> <p>12 人間関係が濃密である</p> <p>13 人間関係がドライで煩わしくない</p> <p>14 交通の便が良い</p>	

Q8	あなたは、現在お住まいの東北地域に住み続けたいとお考えですか、それとも東北地域から他地域に移住したいとお考えですか。
	1 現在の東北地域に住み続けたい
	2 東北地域から他地域に移住したい

Q9	現在、東北地域から他地域に移住を希望している場合、どのような条件が整えば、東北地域に引き続き定住したいと思われますか。あてはまるもの全て回答して下さい。
	1 やりがい・自己実現のチャンスがある
	2 友人・知人がいる
	3 経済環境（所得、雇用環境）が良い
	4 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良い
	5 治安が良い
	6 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実している
	7 教育環境（子育て支援サービス）が充実している
	8 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）がある
	9 地域社会や政治に対して住民の関心が高く、地域の行政に住民の意向がよく反映されている
	10 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが充実している
	11 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが充実している
	12 緑や自然が豊かである
	13 人間関係が濃密である
	14 人間関係がドライで煩わしくない
	15 交通の便が良い
	16 食べものやお酒が美味しい
	17 その他

Q10	あなたが、地域の魅力として重要であると思われるものをお答えください。あてはまるものを3つまでお答えください。
	1 経済環境（所得、雇用環境）が良い
	2 住環境（広さ、家賃、通勤時間）が良い
	3 治安が良い
	4 医療・福祉環境（医療・介護施設数やサービス）が充実している
	5 教育環境（子育て支援サービス）が充実している
	6 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）がある
	7 地域社会や政治に対して住民の関心が高く、地域の行政に住民の意向がよく反映されている
	8 文化施設（美術館、博物館等）や祭・イベントが充実している
	9 娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが充実している
	10 あてはまるものはない

Q11	以下のそれぞれについて、あなたにとっての重要度としてあてはまるものをそれぞれお答えください。
-----	--

項目リスト

1	所得の多さについて
2	仕事のやりがいについて
3	雇用環境について
4	ワークライフバランスのとれた生活を送れるかどうかについて
5	住環境（広さ、安さ、通勤時間）について
6	自然環境（空気のきれいさ等）について
7	公共交通機関や道路整備等インフラの状況について

8	ネット環境の良さ、スピードについて
9	生活の安全、治安について
10	健康維持のための施設（スポーツクラブ）や医療施設の充実について
11	有名大学の有無や学力水準の高さ等の教育環境について
12	保育所施設数の充実やサービスの質、子育て環境について
13	地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）について
14	地域社会や政治への住民の関心の高さや地域の行政の住民の意向の反映について
15	地元でとれた美味しい食材や郷土料理について
16	魅力的なお祭りやイベントについて
17	文化施設（美術館、博物館等）について
18	娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントの充実について

選択肢リスト

1	重要
2	やや重要
3	どちらともいえない
4	あまり重要ではない
5	重要でない

Q12	以下のそれぞれについて、あなたにとっての満足度としてあてはまるものをそれぞれお答えください。
-----	--

項目リスト

1	所得の多さについて
2	仕事のやりがいについて
3	雇用環境について
4	ワークライフバランスのとれた生活を送れるかどうかについて
5	住環境（広さ、安さ、通勤時間）について
6	自然環境（空気のきれいさ等）について
7	公共交通機関や道路整備等インフラの状況について
8	ネット環境の良さ、スピードについて
9	生活の安全、治安について
10	健康維持のための施設（スポーツクラブ）や医療施設の充実について
11	有名大学の有無や学力水準の高さ等の教育環境について
12	保育所施設数の充実やサービスの質、子育て環境について
13	地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）について
14	地域社会や政治への住民の関心の高さや地域の行政の住民の意向の反映について
15	地元でとれた美味しい食材や郷土料理について
16	魅力的なお祭りやイベントについて
17	文化施設（美術館、博物館等）について
18	娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントの充実について

選択肢リスト

1	満足
2	やや満足
3	どちらともいえない
4	やや不満
5	不満

(1) アンケート回答者の属性

まず、分析に入る前に、分析の前提となる回答者の属性について整理し、両地域のアンケート回答者像を詳かにしたい。なお、性別、年齢については、偏りがないように調整をした上でサンプルの収集を行っている。

① 東北圏のアンケート回答者の属性

東北圏を対象としたアンケート調査では1,056人から回答を得た。

回答者の居住地については、宮城県及び新潟県が他地域に比べて多い他は、大きな偏りはない。

また、約9割の回答者が東北圏に20年以上居住していることが大きな特徴である一方、約半数の回答者は東北圏以外の地域への居住経験を有している。なお、東北圏以外に居住経験のある地域として最も多かったのは首都圏である。

図表2-4 東北圏のアンケート回答者の属性

サンプル数	1,056サンプル
性別	男女比率：50%ずつ
年齢	<ul style="list-style-type: none"> ・ 25歳-29歳：6.3% ・ 30歳-34歳：13.1% ・ 35歳-39歳：11.3% ・ 40歳-44歳：13.5% ・ 45歳-49歳：15.0% ・ 50歳-54歳：9.4% ・ 55歳-60歳：20.1% ・ 60歳以上：11.5%
居住地	青森県：11.6%、岩手県：11.4%、宮城県：20.7% 秋田県：9.2%、山形県：10.0%、福島県：17.0%、新潟県：20.0%
職業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公務員：10.7% ・ 経営者・役員：2.6% ・ 会社員（事務）：27.4% ・ 会社員（技術）：16.9% ・ 会社員（その他）：27.5% ・ 自営業：12.2% ・ 自由業：2.8%
東北圏への居住時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校入学前に在住：74.0% ・ 小学校、中学校、高校・高専在学時に在住：27.9% ・ 大学、大学院、専門学校、短大等在学時に在住：10.2% ・ 社会人など上記以外の時期に在住：39.7%
東北圏への通算居住期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年未満：1.6% ・ 1年以上5年未満：1.9% ・ 5年以上10年未満：1.9% ・ 10年以上20年未満：4.6% ・ 20年以上：90.0%
居住したことがある地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道：4.1% ・ 首都圏（埼玉、千葉、東京、神奈川）：36.6% ・ 北関東・甲信（茨城、栃木、群馬、山梨、長野）：8.0% ・ 北陸（富山、石川、福井）：3.1% ・ 東海（岐阜、静岡、愛知、三重）：4.2% ・ 近畿（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）：3.4% ・ 中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）：0.8% ・ 四国（徳島、香川、愛媛、高知）：0.4% ・ 九州（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）：1.1% ・ 居住したことがあるのは東北圏のみである：52.1%

② 首都圏のアンケート回答者の属性

首都圏を対象としたアンケート調査では1,043人の回答者から回答を得た。

回答者の居住地については、東京都が約38%で最も多く、次いで神奈川県が約25%で多くなっている。

首都圏の回答者の東北圏との関わりについてみると、約15%の回答者は、東北圏に居住経験があると回答した。

その東北圏に居住したことがあるとした回答者において、最も多い居住時期は大学入学前であった。また、東北圏への通算居住期間としては、1年以上5年未満と10年以上20年未満がほぼ同数程度で多くなっている。

図表2-5 首都圏のアンケート回答者の属性

サンプル数	1,043サンプル
性別	男女比率：50%ずつ
年齢	<ul style="list-style-type: none"> ・ 25歳-29歳：8.4% ・ 30歳-34歳：13.7% ・ 35歳-39歳：12.6% ・ 40歳-44歳：16.0% ・ 45歳-49歳：15.6% ・ 50歳-54歳：10.2% ・ 55歳-60歳：15.9% ・ 60歳以上：7.6%
居住地	埼玉県：19.7%、千葉県：16.9% 東京都：38.4%、神奈川県：25.1%
職業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公務員：4.6% ・ 経営者・役員：2.6% ・ 会社員（事務）：38.4% ・ 会社員（技術）：17.4% ・ 会社員（その他）：23.0% ・ 自営業：8.4% ・ 自由業：5.6%
居住したことのある地域 (首都圏、東北圏をのぞく)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道：6.1% ・ 北関東・甲信（茨城、栃木、群馬、山梨、長野）：18.3% ・ 北陸（富山、石川、福井）：1.7% ・ 東海（岐阜、静岡、愛知、三重）：9.9% ・ 近畿（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）：11.8% ・ 中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）：4.1% ・ 四国（徳島、香川、愛媛、高知）：3.3% ・ 九州（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）：8.4% ・ 上記の地域には居住したことはない：55.3%
東北圏への居住経験	東北圏に居住経験がある：15.2% 東北圏に居住経験がない：84.8%
東北圏への居住時期 (東北圏居住経験者のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校入学前に在住：40.9% ・ 小学校、中学校、高校・高専在学時に在住：49.1% ・ 大学、大学院、専門学校、短大等在学時に在住：15.1% ・ 社会人など上記以外の時期に在住：34.0%
東北圏への通算居住期間 (東北圏居住経験者のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年未満：10.7% ・ 1年以上5年未満：30.2% ・ 5年以上10年未満：15.1% ・ 10年以上20年未満：29.6% ・ 20年以上：14.5%

(2) アンケート結果の首都圏・東北圏比較分析

この章では、まず首都圏、東北圏それぞれのアンケート結果を比較分析することで、それぞれの地域の特徴を明らかにし、首都圏と比較した場合の東北圏の位置づけや強み・弱みについて検討を進めていくこととする。

① 居住背景の比較

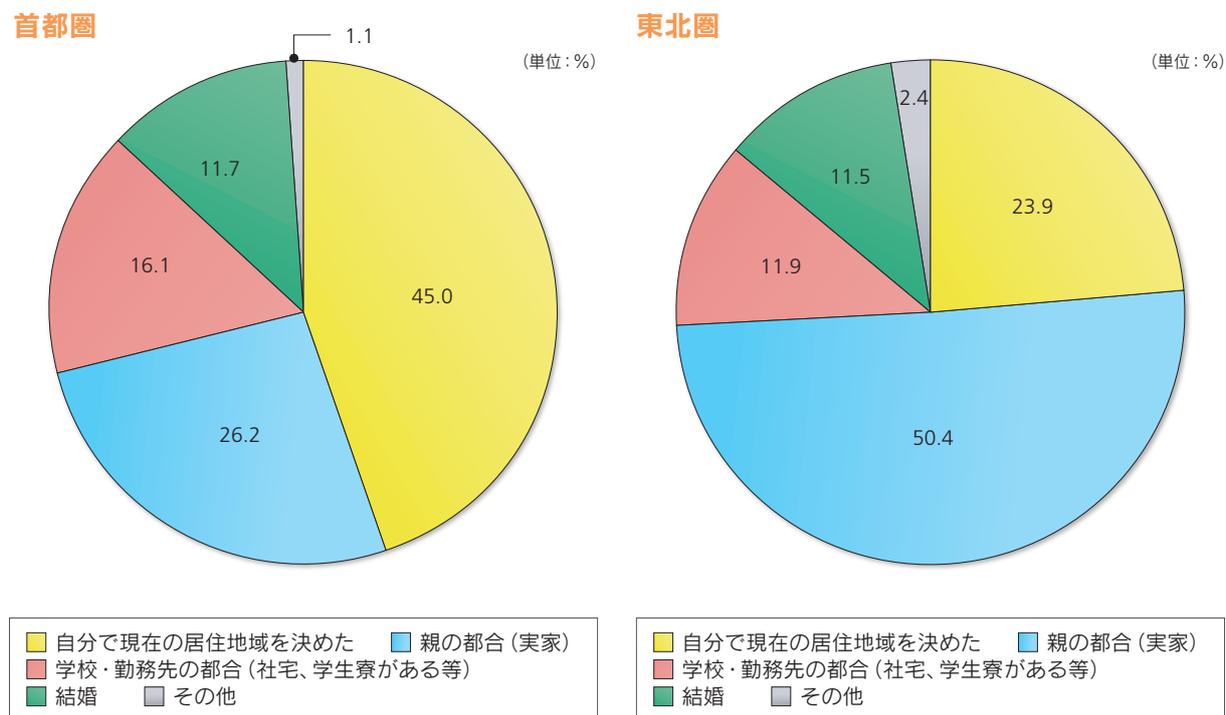
現在住んでいる地域にどのような背景や理由で居住しているかは、現在の居住地への評価に大きな影響を与えうる。さらに、居住背景によって、重視するもの等、価値観にも違いが生じる可能性もある。

そこで以下では、それぞれの地域における具体的な質問項目について比較分析を行う前に、回答者の現在の居住地への居住の理由や背景について整理していくこととする。

現在の居住地への居住の背景

両地域の全ての回答者に、現在の居住地への居住の背景をたずねたところ、首都圏の回答者では「自分で現在の居住地を決めた」割合が最も高く、自主的に選択した地域に居住していることがわかった。一方、東北圏では「親の都合（実家）」の割合が多くなっており、自主的に選択して現在の地域に居住した割合は首都圏の半分程度である。またこの結果から、東北圏では生まれながらに現在の地域に居住している人が多い事も推察される。

図表2-6 現在の居住地決定の背景



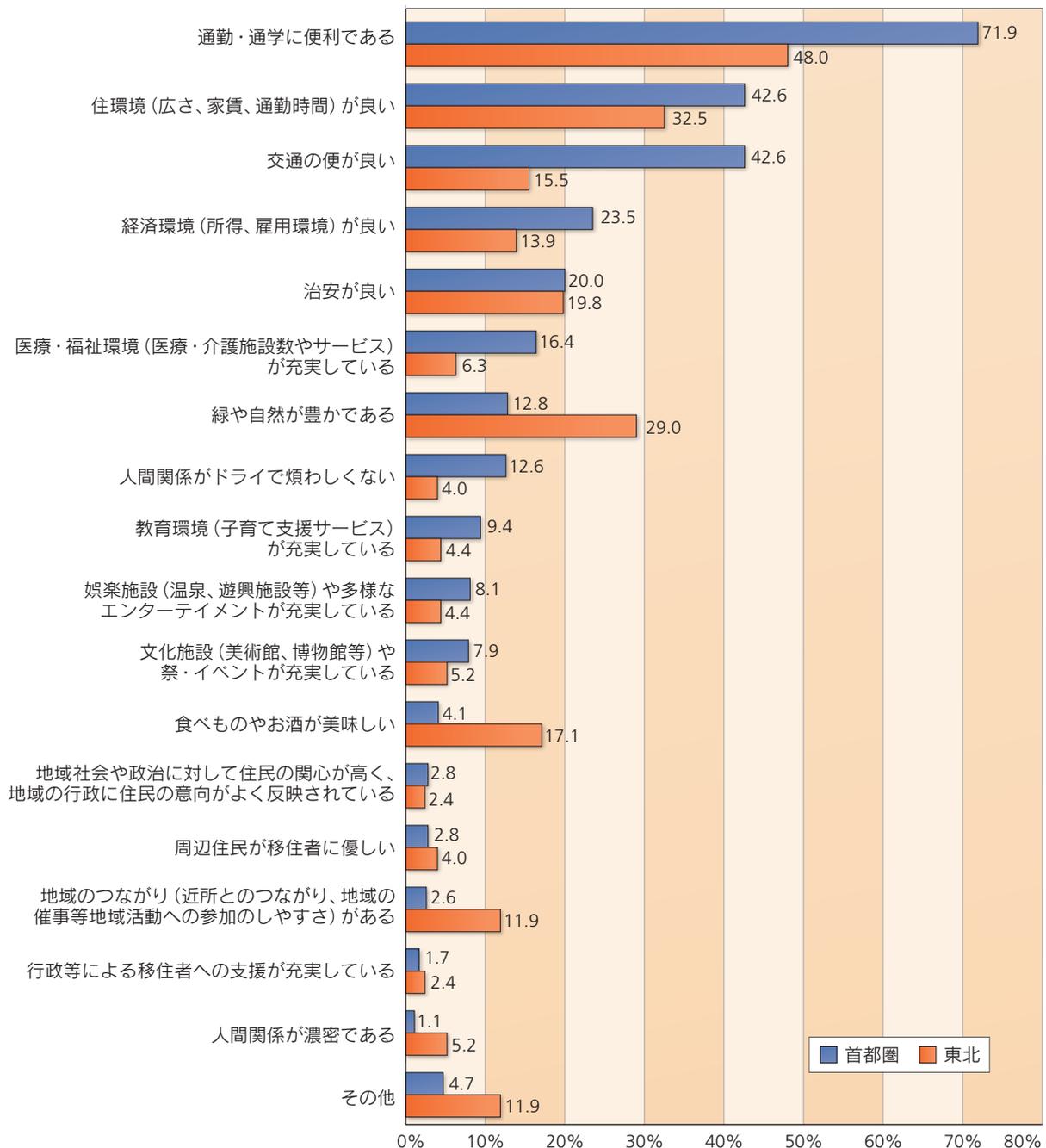
自分で居住地域を決めた場合の現在の居住地域決定理由

続いて、両地域の回答者のうち、「自分で現在の居住地域を決めた」との回答者（東北圏：252人/首都圏：469人）に対して、居住地域の決定理由をたずねたところ、首都圏、東北圏ともに「通勤・通学に便利である」が最も多くなっている。両地域とも居住地域の決定には、会社や学校などの立地の影響を受けることがみとれる。また、「住環境が良い」が2番目に多い理由であることも共通している。

なお、東北圏の方が高い割合であった決定理由は、「自然や緑が豊かである」や「食べものやお酒が美味しい」、「地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ）」となっている。これらの項目が東北圏の回答者に重視されているとともに、首都圏に比べ充実しているためと思われる。

一方、「交通の便が良い」は首都圏の方が高い割合となっている。

図表2-7 居住地域決定の理由



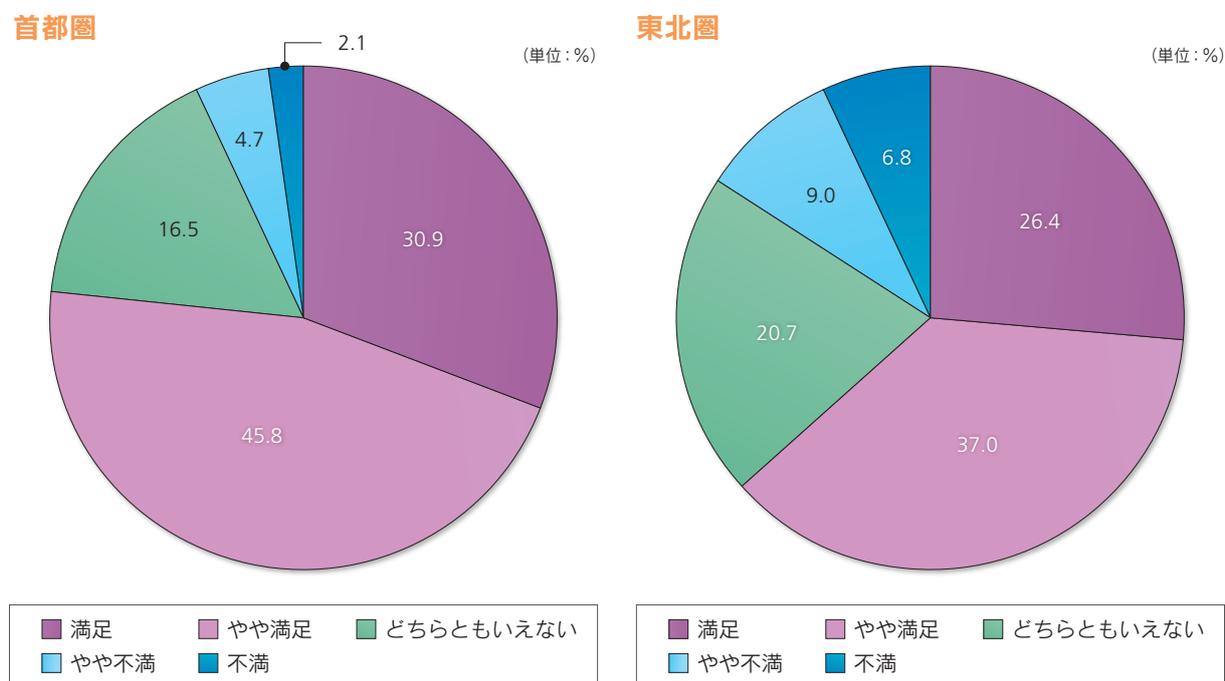
② 居住地域に対する評価の比較

次に、居住地域への評価に対する比較を行うことによって、両地域の回答者が居住地域に満足しているのか、また、満足しているのであればどんな点に満足し、不満であればどんな点に不満であるか理由を含めて明らかにし、首都圏と比較した場合の東北圏の強みと弱みを明らかにしていく。

現在の居住地域への評価

両地域の全ての回答者に対して、現在の居住地域に満足しているかたずねたところ、首都圏の回答者は「満足」「やや満足」の合計が7割以上あり、東北圏の回答者の「満足」「やや満足」の合計が約6割であるのに比し、満足度がやや高くなっている。「不満」「やや不満」の合計の割合も首都圏の回答者の方が低くなっている。

図表2-8 現在住んでいる地域への評価

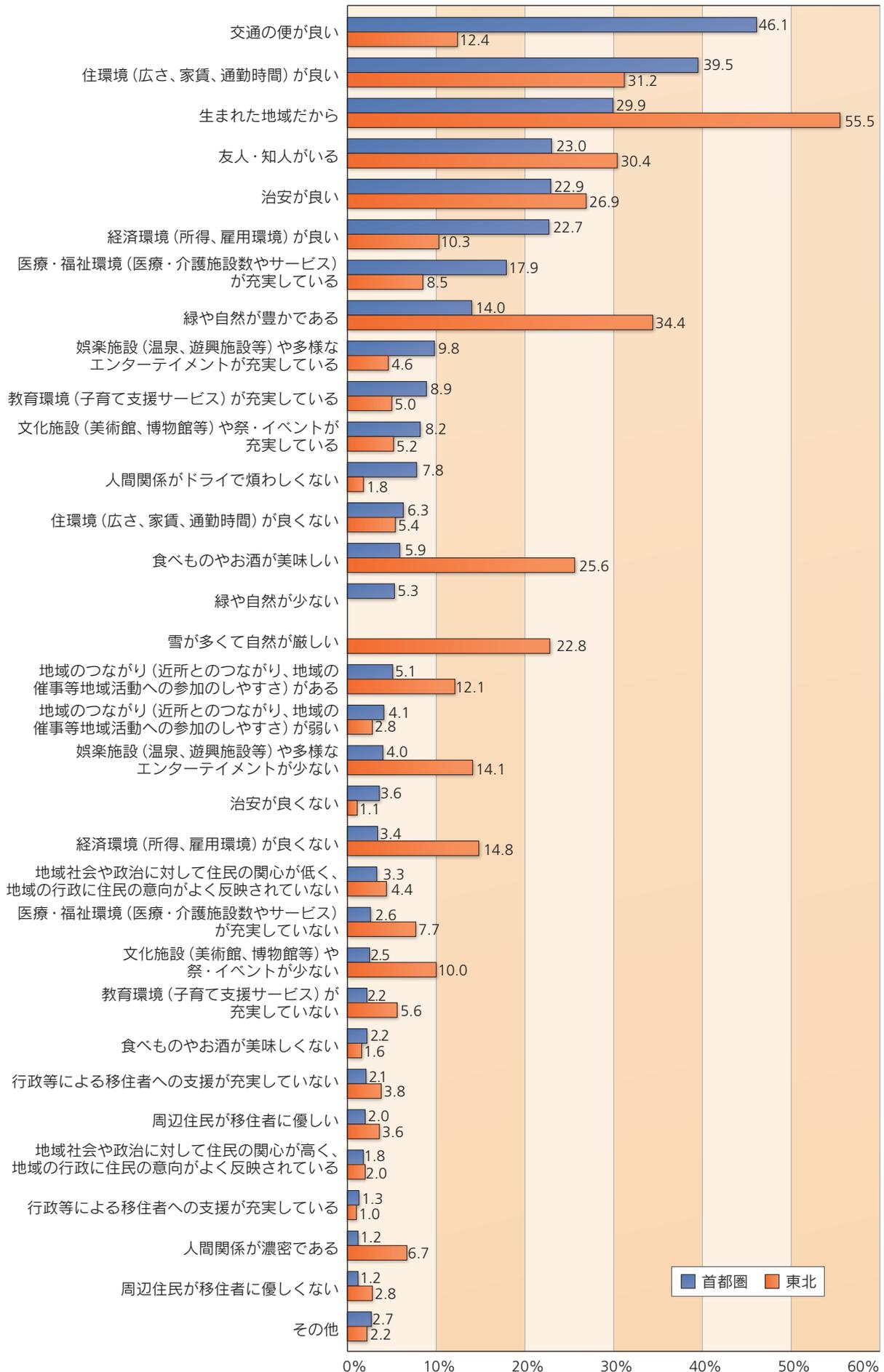


現在の居住地域への評価の理由

両地域の全ての回答者に現在の居住地域への評価の理由をたずねたところ、首都圏の回答者では「交通の便が良い」が最も多い。一方、東北圏では居住地域決定理由と同様に「交通の便の良さ」を挙げた割合は低くなっている。

東北圏の回答者で最も多かった理由は「生まれた地域だから」であった。また、「緑や自然が豊かである」や「食べものやお酒が美味しい」、「地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ）」の割合も首都圏より高くなっている。一方、「雪が多く自然が厳しい」も、東北圏の回答者では割合が高く、東北の回答者にとって、自然はポジティブなイメージにもネガティブな評価にもなりうるということがわかる。その他、東北圏に対するネガティブな評価としては、「経済環境が良くない」、「娯楽施設（温泉、遊興施設等）や多様なエンターテインメントが少ない」、「文化施設や祭・イベントが少ない」、「医療・福祉施設が充実していない」も首都圏に比し、多くなっている。

図表2-9 現在の居住地への評価の理由



③重要度³と満足度⁴の比較

首都圏と東北圏では充実しているものや不足しているものが異なることが、第1章の客観的指標において明らかとなった。

とすれば、重視しているものや満足しているものについても両地域で違いが生まれる可能性がある。

そこで、本アンケート調査では、第1章で設定した幸福度指標の8分野（経済、環境、安心・安全、健康、教育、コミュニティ・関係性、ガバナンス、文化）と8分野についてさらに詳細に設定した中分類（図表1-14参照）に対応する各項目（以下、「幸福度項目」という）について、両地域の人が何を重視しているか、また何に満足しているかをたずねることとした。

以下では、東北圏の回答者が重視しており、かつ満足していることから東北圏の強みを、東北圏の回答者が重視しているにも関わらず満足していないことから東北圏の弱みを分析し、今後、発信していく魅力と改善すべき点を明らかにしたい。

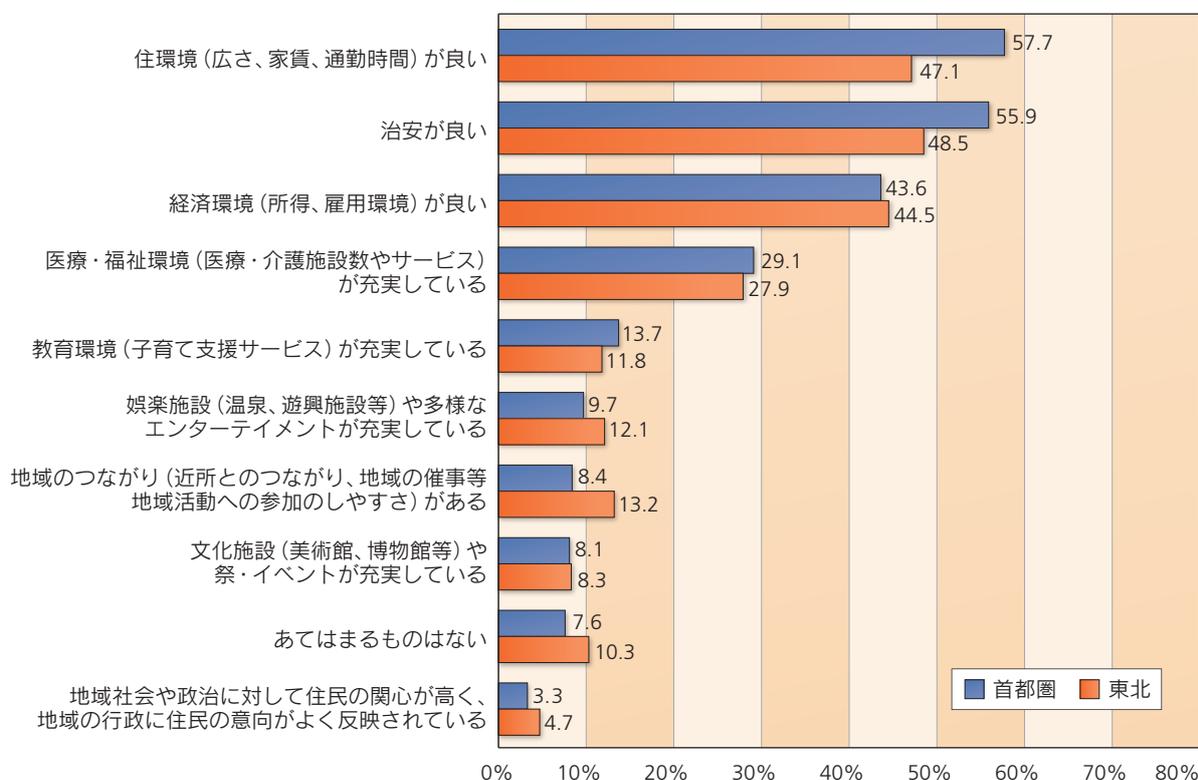
また、首都圏の回答者が重視しているにも関わらず満足度が低い項目については、移住のニーズとも関係する重要な項目であり、東北圏の強みとして高め、PRしていくべき項目と考え注目している。

地域の魅力として重要なもの

まずは、第1章で設定した各幸福度指標を分類した8分野に対応する項目について、両地域の全ての回答者にどれを重要と考えるかたずねた。

その結果、地域の魅力として重要であるものは、両地域とも「住環境」、「治安」、「経済環境」を挙げる割合が高くなっており、両地域の回答者で大きな差異は見られなかった。地域の魅力として必要とされるものに地域差はなく、ある程度普遍的なものであることが推察される。

図表2-10 地域の魅力として重要なもの



3 重要度は、回答者が各項目において選択した「重要」「やや重要」「どちらともいえない」「あまり重要ではない」「重要ではない」という評価のことを指している。

4 満足度は、回答者が各項目において選択した「満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「不満」という評価のことを示している。

幸福度の指標として重要と考えられる項目別の重要度

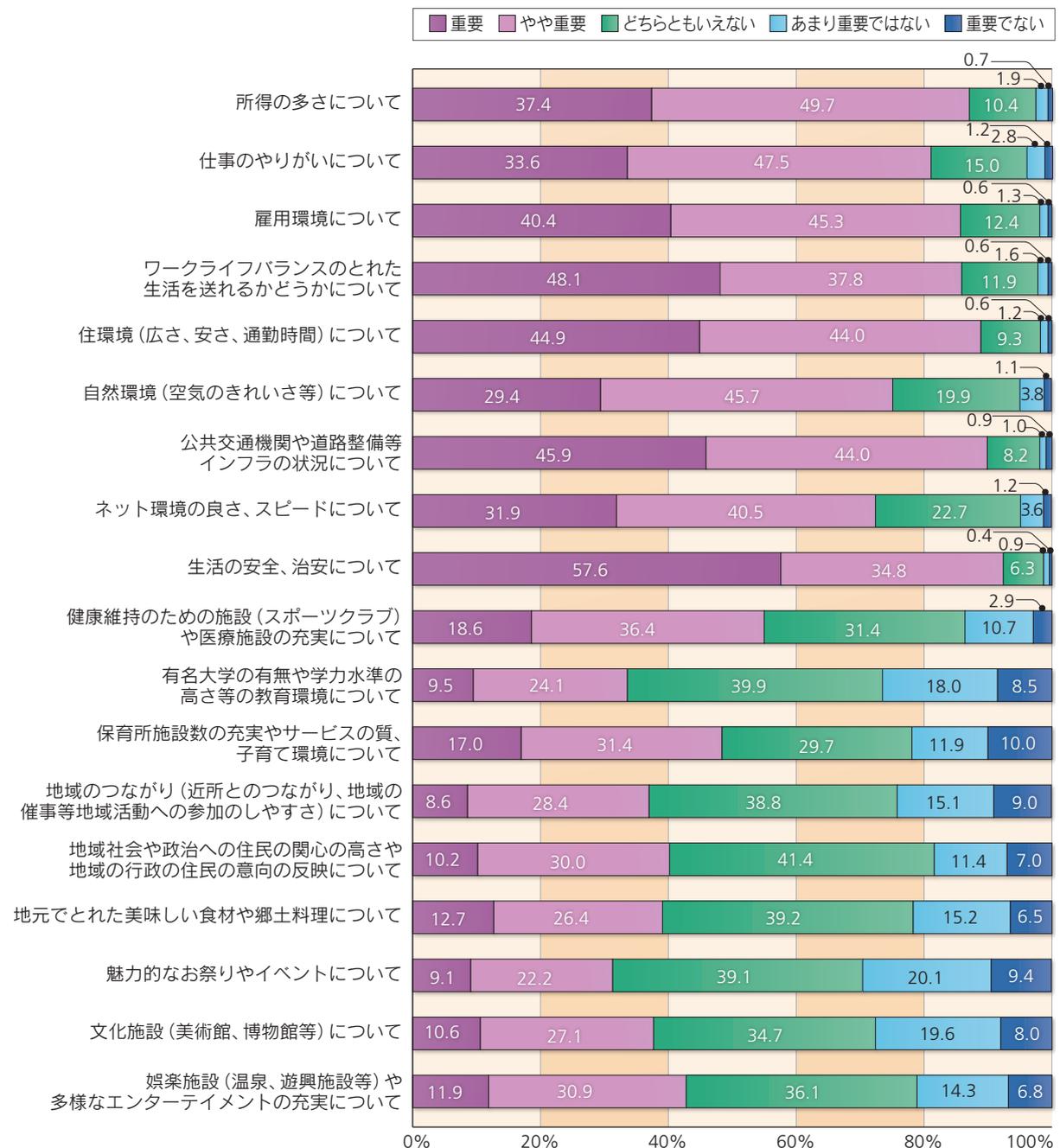
続いて、幸福度項目について、両地域の回答者が重視するものに差があるのかをみていくこととする。

両地域の全ての回答者に、各項目の重要度を「重要」「やや重要」「どちらともいえない」「あまり重要ではない」「重要ではない」の5段階評価でたずねたところ、大きな差異は見られなかった。

両地域の間で差異が出るのが想定されたが、地域の魅力同様、幸福度の指標となりうる項目の重要度についても地域で差は出ず、普遍的であることが示される結果となった。

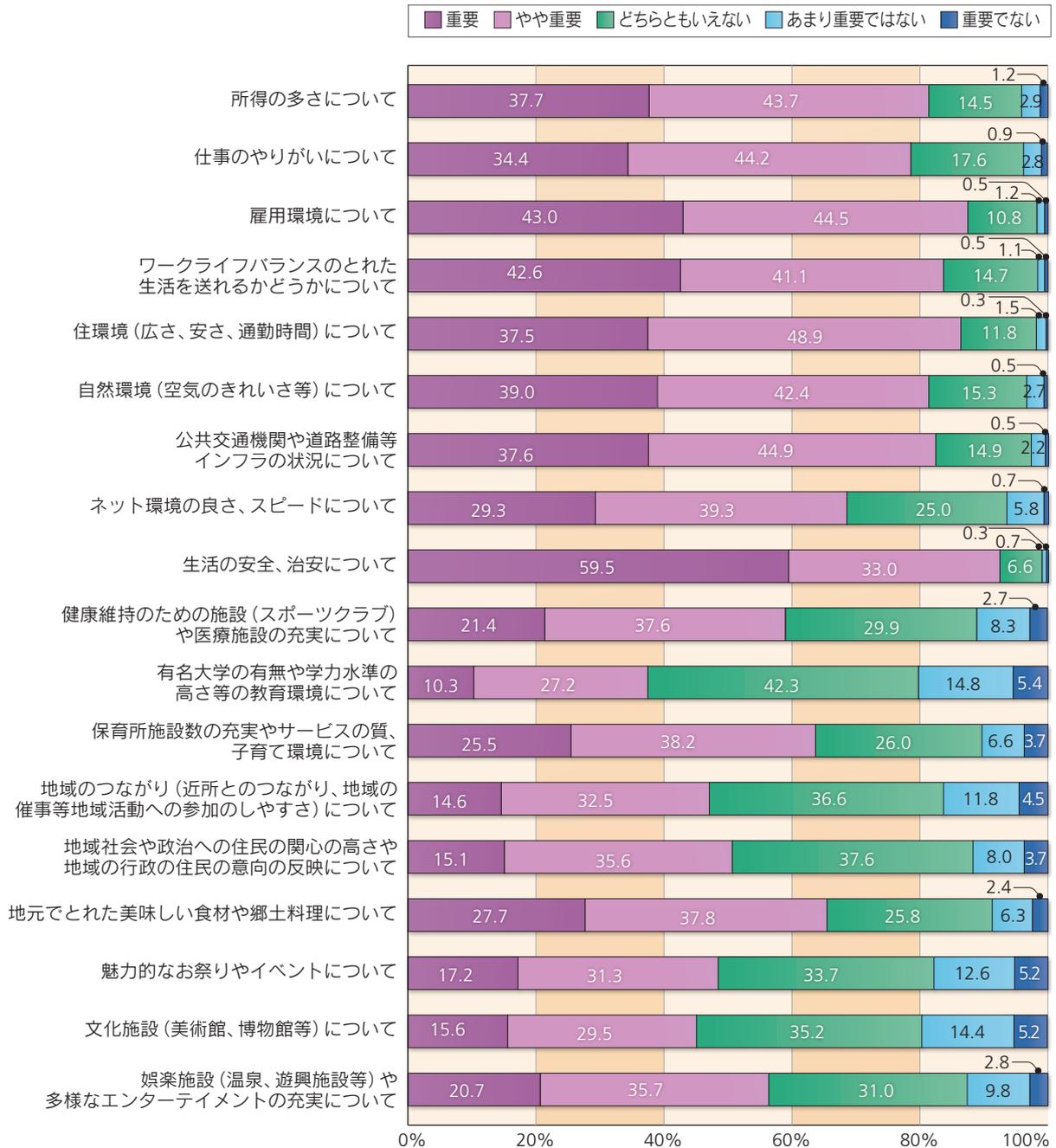
両地域とも、「所得の多さ」や「雇用環境」、「住環境」、「治安」など生活に必要な不可欠の項目は重要度が高く、「文化施設」や「娯楽施設」など生活に付随する楽しみ等に関する項目は、それらの項目に比しやや重要度が低くなっている。

図表2-11 項目別の重要度⁵ (首都圏)



5 「雇用環境」の具体的内容については定義しておらず、回答者のとらえ方に任せているが、「所得の多さ」「仕事のやりがい」「ワークライフバランス」の項目が別に存在するため、回答者は、「所得の多さ」「仕事のやりがい」「ワークライフバランス」を除く、仕事のみつけやすさや、雇用形態等の「雇用環境」を想定し、選択していると考えられる。

図表2-12 項目別の重要度 (東北圏)



幸福度の指標として重要と考えられる項目別の満足度

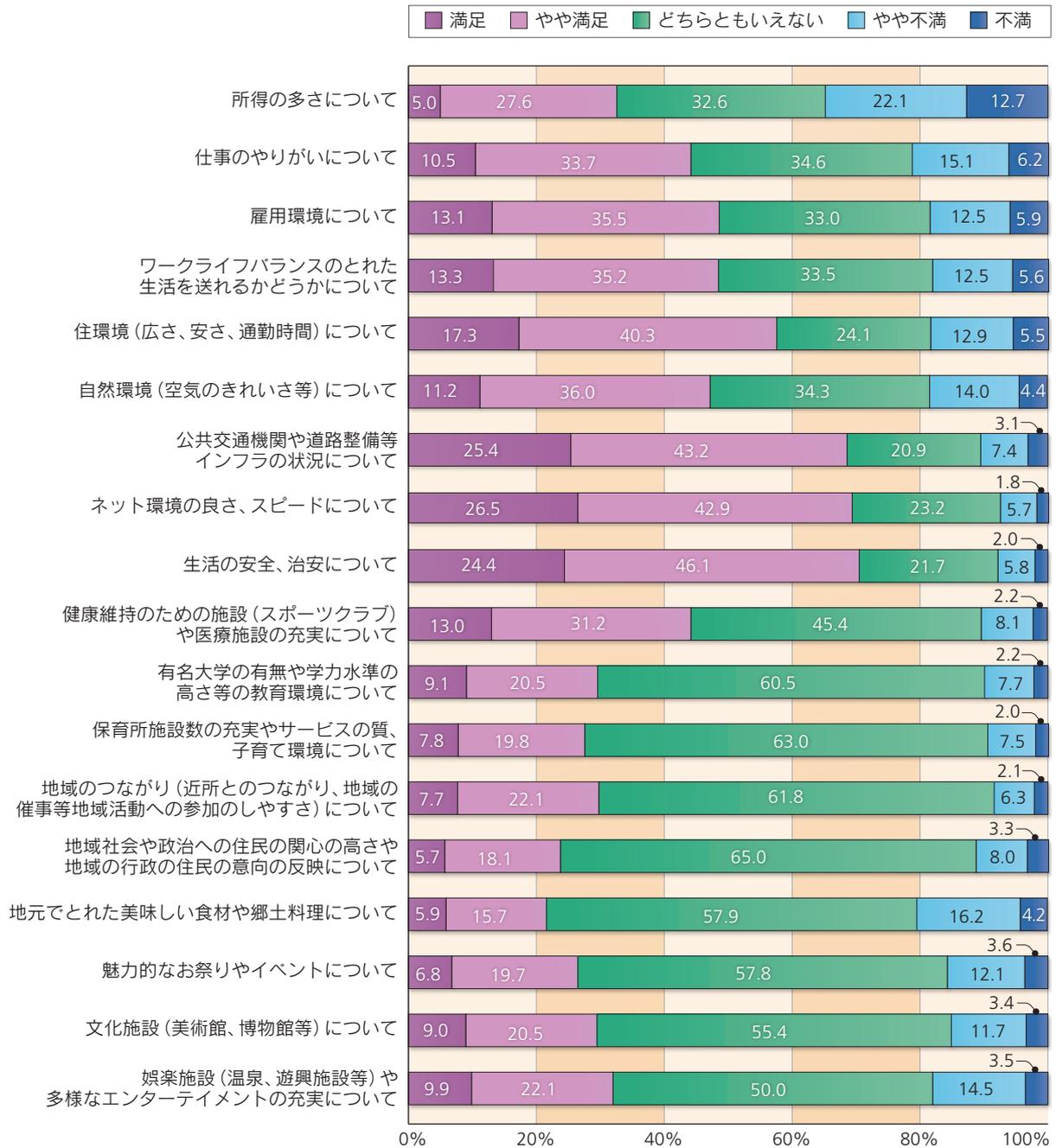
続いて、幸福度項目について、両地域の回答者が何に満足し、何に不満を持っているかについてみていくこととする。

両地域の全ての回答者に、項目別の満足度について「満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「不満」の5段階評価でたずねたところ、差異がみられる項目がいくつかあった。

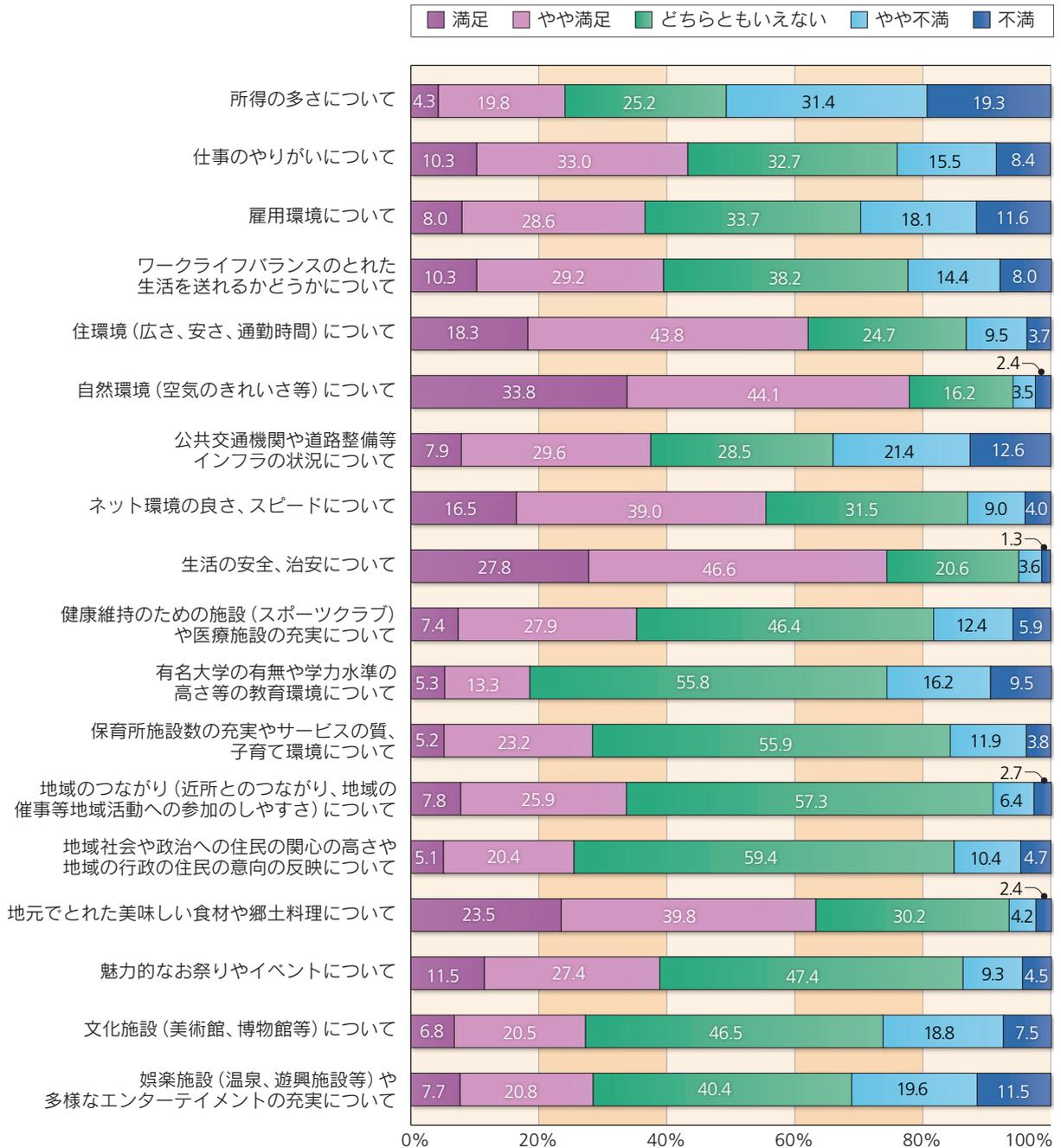
東北圏は首都圏よりも「インフラ」に関する満足度が特に低くなっている。

一方、東北圏は「自然環境」や「地元の食材、郷土料理」について、首都圏より満足度が高く、この点は東北圏の強みとして、首都圏の居住者に対する大きなアピールポイントとなりうる。

図表2-13 項目別の満足度（首都圏）



図表2-14 項目別の満足度 (東北圏)



幸福度の指標として重要と考えられる項目別のニーズ度⁶

以下では、首都圏と東北圏の各項目の重要度と満足度を点数化して比較することとした。点数化にあたっては、5段階評価で、「重要」「満足」は5点、「やや重要」「やや満足」は4点、「どちらともいえない」は3点、「あまり重要ではない」「やや不満」は2点、「重要ではない」「不満」は1点とした（平均点の算出に際しての配点は、合計点を年代ごとの回答者数で割った）。

また、両地域の重要度や満足度を用いて、何が必要とされ、何にニーズがあるかを明らかにするべく、重要度から満足度を引いたものをニーズ度として分析を行った。

両地域とも、所得や雇用、治安、住環境など生活に必要な不可欠な項目を重視しているのは同じである。そこでニーズ度をみてみると、治安は満足度が高いため、両地域とも重要度が高いにもかかわらずニーズは低く、政策的手当は必要とされていないことがわかる。また、両地域とも雇用や所得に関するニーズが高いことには変わりはないが、首都圏ではワークライフバランスが2位に、東北圏では3位にインフラが入るといった特徴があった。また、ニーズ度が低い項目は首都圏で「教育環境」、「地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ）」、「祭りイベント」、「文化施設」、「ネット環境」、「健康維持のための施設や医療施設」、「地域社会・政治への関心、地域行政の住民意向の反映」、東北圏では「自然環境」や「郷土料理」、「祭り・イベント」「地域とのつながり（近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ）」となっており、これらの項目は満たされていることがみてとれる。

図表2-15 各項目の重要度・満足度・ニーズ度

項目	首都圏			東北圏			首都圏と東北圏の ニーズ度の差 (a - b)
	重要度	満足度	ニーズ度 (a)	重要度	満足度	ニーズ度 (b)	
①所得の多さ	4.212	2.901	1.311	4.136	2.582	1.554	-0.243
②仕事のやりがい	4.093	3.270	0.823	4.082	3.213	0.869	-0.047
③雇用環境	4.236	3.374	0.862	4.283	3.031	1.252	-0.390
④ワークライフバランス	4.313	3.383	0.930	4.242	3.195	1.047	-0.117
⑤住環境（広さ、安さ、通勤時間）	4.314	3.509	0.804	4.218	3.635	0.582	0.222
⑥自然環境（空気のきれいさ等）	3.987	3.357	0.630	4.168	4.035	0.133	0.497
⑦インフラ（公共交通機関や道路整備など）	4.332	3.805	0.526	4.170	2.988	1.182	-0.655
⑧ネット環境	3.982	3.865	0.117	3.907	3.550	0.357	-0.240
⑨安全、治安	4.484	3.849	0.635	4.507	3.960	0.546	0.088
⑩健康維持のための施設（スポーツクラブ）や医療施設の充実	3.571	3.447	0.125	3.666	3.186	0.480	-0.355
⑪教育環境（有名大学の有無、学力水準の高さ等）	3.080	3.267	-0.187	3.223	2.887	0.335	-0.522
⑫子育て環境（保育所施設数の充実やサービスの質）	3.336	3.238	0.098	3.751	3.141	0.610	-0.512
⑬地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ）	3.125	3.268	-0.144	3.409	3.296	0.113	-0.257
⑭地域社会や政治への関心、行政への住民の意向の反映	3.249	3.150	0.100	3.503	3.107	0.396	-0.296
⑮地元の食材、郷土料理	3.234	3.030	0.204	3.822	3.778	0.044	0.161
⑯祭り、イベント	3.015	3.139	-0.124	3.427	3.321	0.106	-0.230
⑰文化施設（美術館、博物館等）	3.129	3.201	-0.072	3.360	3.004	0.356	-0.428
⑱娯楽施設（温泉、遊興施設等）	3.267	3.205	0.062	3.617	2.937	0.681	-0.619

6 本調査では、重要度から満足度を引いたものをニーズ度と定義した。

④ 移住に対する考えの比較

続いて以下では、今回の調査の目的でもある移住・定住に関するアンケート項目についての分析を行う。東北圏のアンケート結果からは、東北圏からの移住希望者が何を不満と考えているかを分析し、定住を促すために必要な項目として提示したい。

また、首都圏のアンケート結果からは、首都圏の回答者が移住の条件としている項目や、首都圏に対して不満に感じている項目を分析することで、移住を促すために東北圏の魅力としてPRすべき点やより向上させる必要がある点を提示したい。

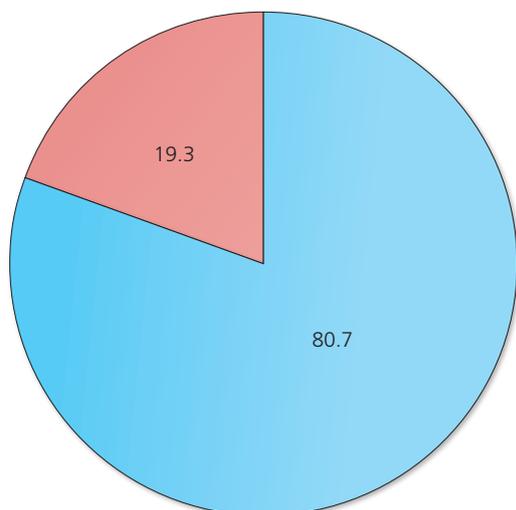
他地域への移住希望の有無

まず、両地域に移住希望者が多いのか少ないのかを検討するために、他地域へ移住を希望するかどうかたずねたところ、首都圏、東北圏の回答者ともに、概ね8割が現在の地域に住みつづけたいと回答している。

図表2-16 他地域への移住希望の有無

首都圏から他地域への移住希望の有無

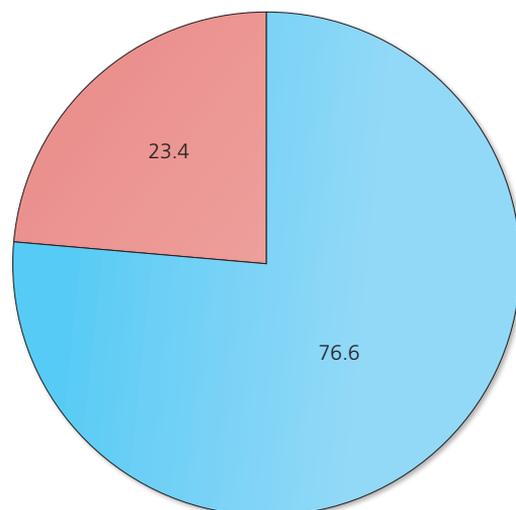
(単位: %)



■ 現在の居住地に住み続けたい
■ 首都圏から他地域に移住したい

東北圏から他地域への移住希望の有無

(単位: %)



■ 現在の居住地に住み続けたい
■ 東北圏から他地域に移住したい

東北圏への移住の条件・東北圏への定住の条件

次に、東北圏への移住促進と、東北圏からの人口流出に歯止めをかけるべく、首都圏からの移住希望者（201人）に対しては東北圏への移住の条件をたずね、東北圏からの移住希望者（247人）に対しては引き続き東北圏に定住する条件をたずねることとした。

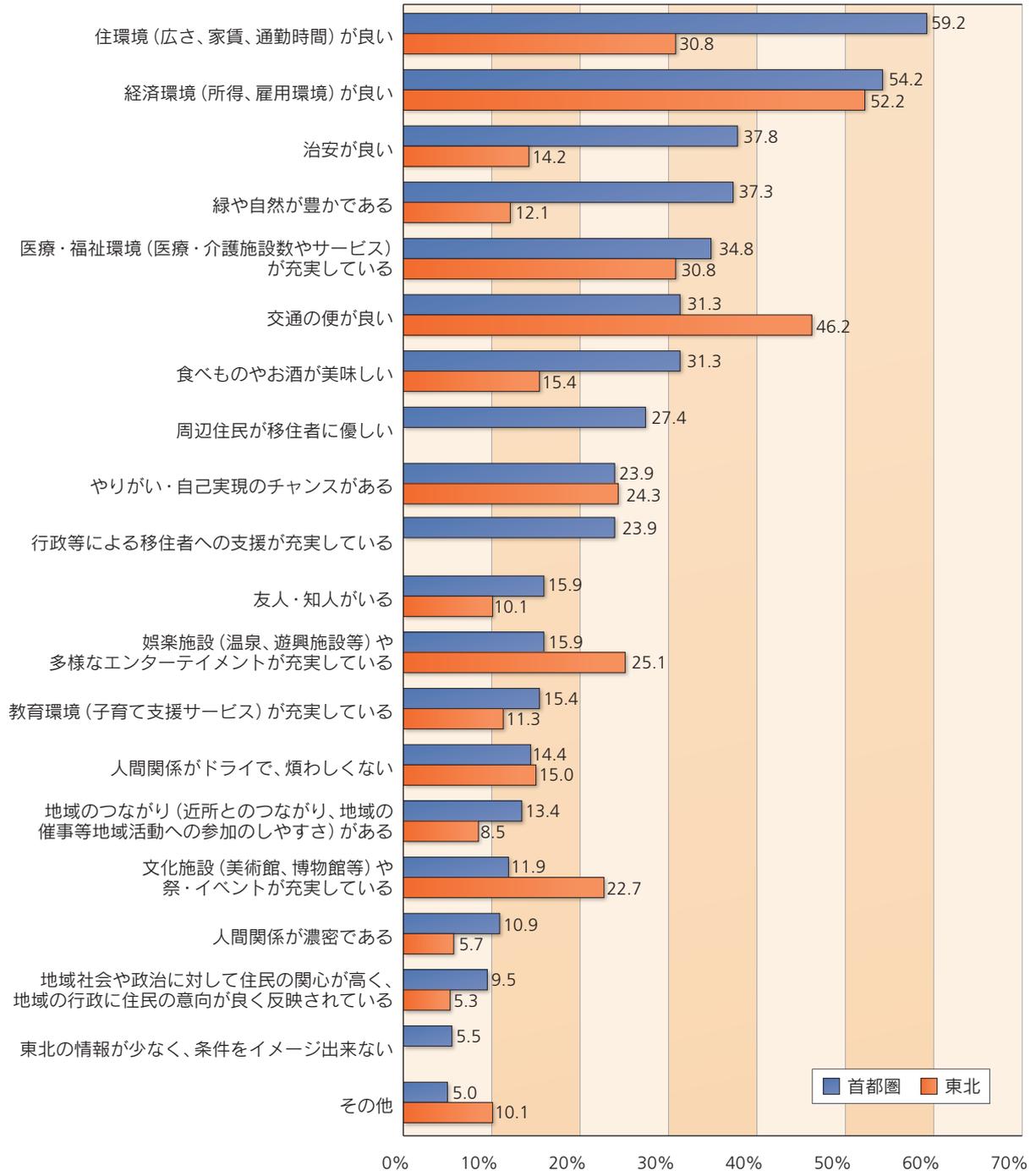
その結果、首都圏の移住希望者の東北圏への移住の条件として最も高い割合で会ったのは、「住環境が良い」で、次いで「経済環境が良い」、「治安が良い」、「緑や自然が豊かである」、「医療・福祉環境が充実している」、「交通の便が良い」、「食べものやお酒が美味しい」、「周辺住民が移住者に優しい」等が挙げられた。こうした点が首都圏に在住する移住を希望する層に訴求力の高い魅力となるものと考えられる。

一方、東北圏の回答者が引き続き定住する条件としては、「経済環境が良い」の割合が最も高かった。また、「交通の便が良い」も高い割合となっており、経済環境と交通の便が東北圏からの移住希望者の不満となっていることが推察される。

図表2-17

首都圏：東北圏に移住する条件（首都圏から他地域へ移住を希望する回答者を対象：201人）

東北圏：東北圏へ引き続き定住する条件（東北圏から他地域へ移住を希望する回答者を対象：247人）⁷



⁷ 「周辺住民が移住者に優しい」、「行政等による移住者への支援が充実している」、「東北の情報が少なく、条件をイメージできない」は首都圏のアンケートのみの項目であるため、東北圏はなし。

年齢別にみた移住希望者の移住の条件・定住の条件

前頁の東北圏への移住の条件や東北圏に引き続き定住する条件（図表2-17）は、今回の調査のメインテーマとも密接につながる重要な項目であるため、年齢別でも分析を行った。

移住・定住の条件は年齢によって差が生じることを想定して分析を行ったものの、30代前半の移住希望者と60歳以上の移住希望者以外の年齢では、移住希望者全体の傾向と大きな差がみられないことがわかった。移住・定住の条件として求められることは年齢による差が少なく、世代を通して比較的変わらない一般的なものであることがみてとれる。

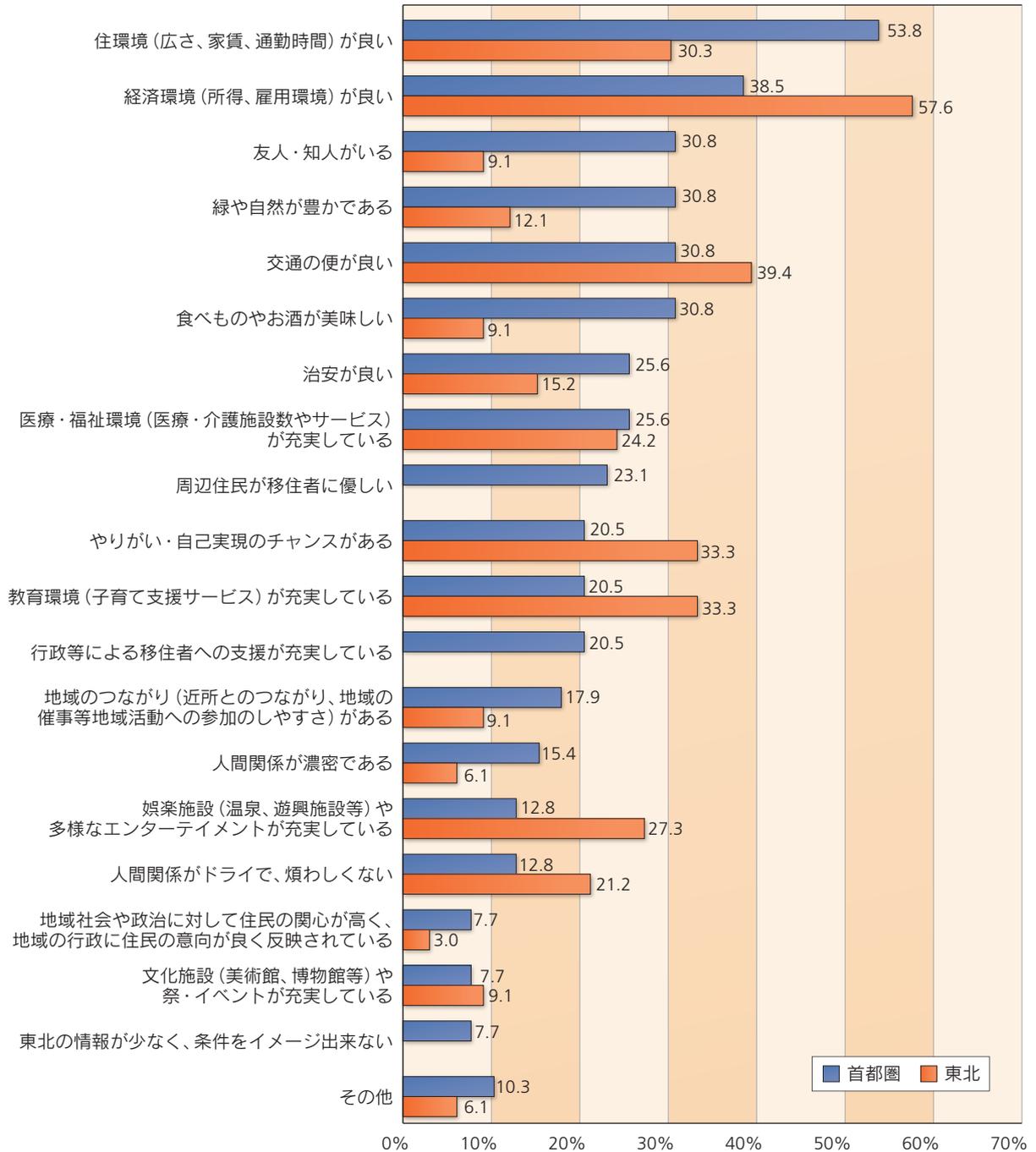
ただし30代前半と60歳以上では、特徴的な傾向が得られたため、以下では、30代前半と60歳以上の条件についてみていくこととする。

〈30～34歳〉

まず、特徴的であったこととしては、東北圏からの移住希望者が東北圏に留まる条件は、首都圏からの移住希望者の東北圏への移住の条件よりも、「やりがい・自己実現のチャンス」、「教育環境、子育て支援サービスの充実」、「娯楽施設の充実」の割合が高くなっていることが挙げられる。特に、東北圏からの移住希望者が「やりがい」を求めているという結果は注目に値する。

また、首都圏の回答者においては、東北圏の回答者よりも、「友人・知人がいる」、「緑や自然が豊かである」が高くなっている。

図表2-18 30～34歳の東北圏へ移住する条件、東北圏に定住する条件（首都圏：39人 東北圏：33人）

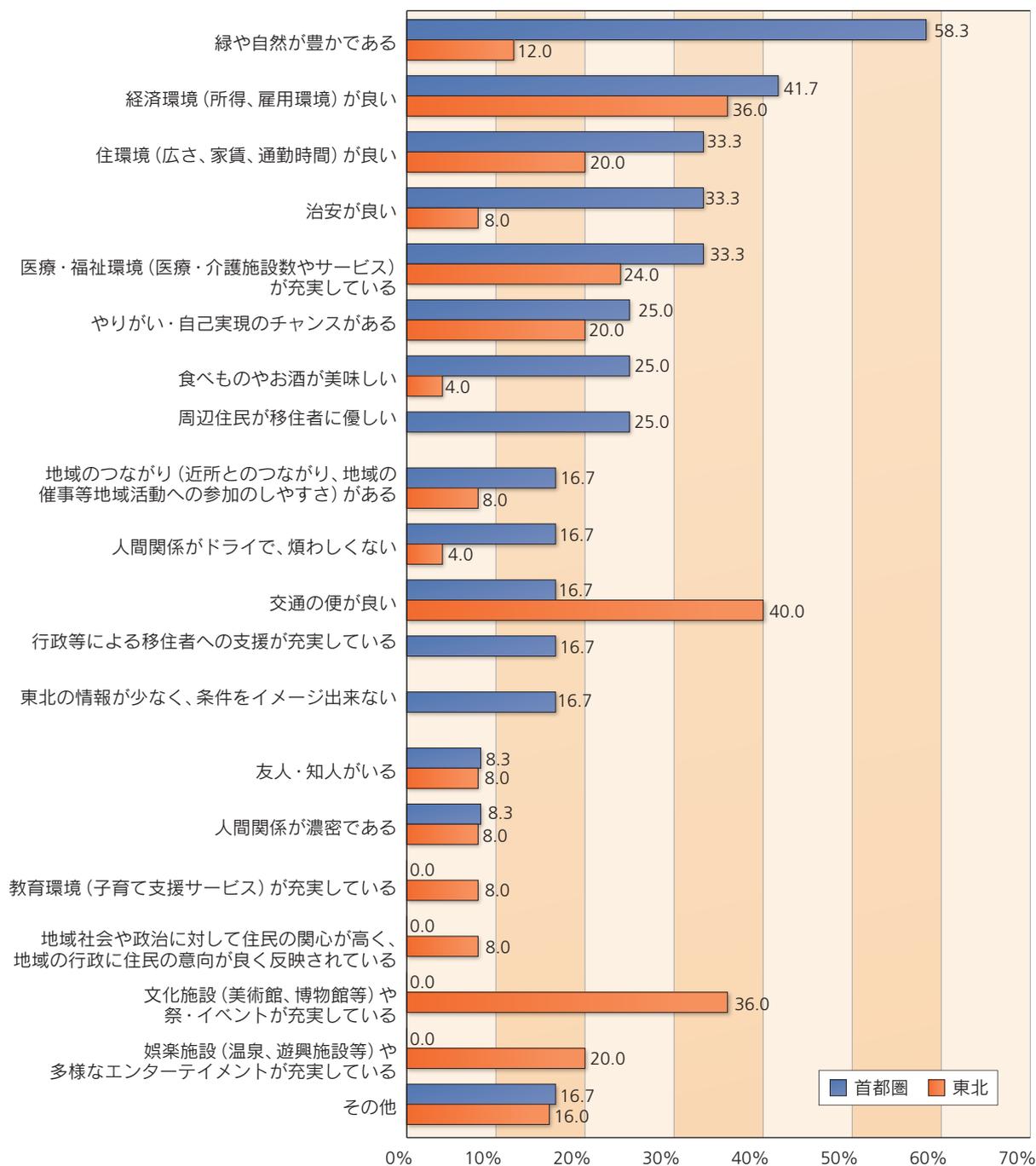


〈60歳以上〉

続いて、60歳以上の首都圏からの移住希望者が東北圏へ移住する条件としては、「緑や自然が豊かである」の割合が最も高くなっている。60歳以上の世代では、自然を求める気持ちが移住につながるということが推察される。

一方、東北圏からの移住希望者が定住する条件としては、「文化施設」、「娯楽施設」の充実が高い割合となっている。首都圏からの移住希望者ではこれらの項目を挙げた割合が0%であるのと対照的で、60歳以上の東北圏からの移住希望者が「文化施設」や「娯楽施設」の少なさに不満を抱いていることがみとれる。

図表2-19 60歳以上の東北圏へ移住する条件、東北圏に定住する条件 (首都圏：12人、東北圏：25人)



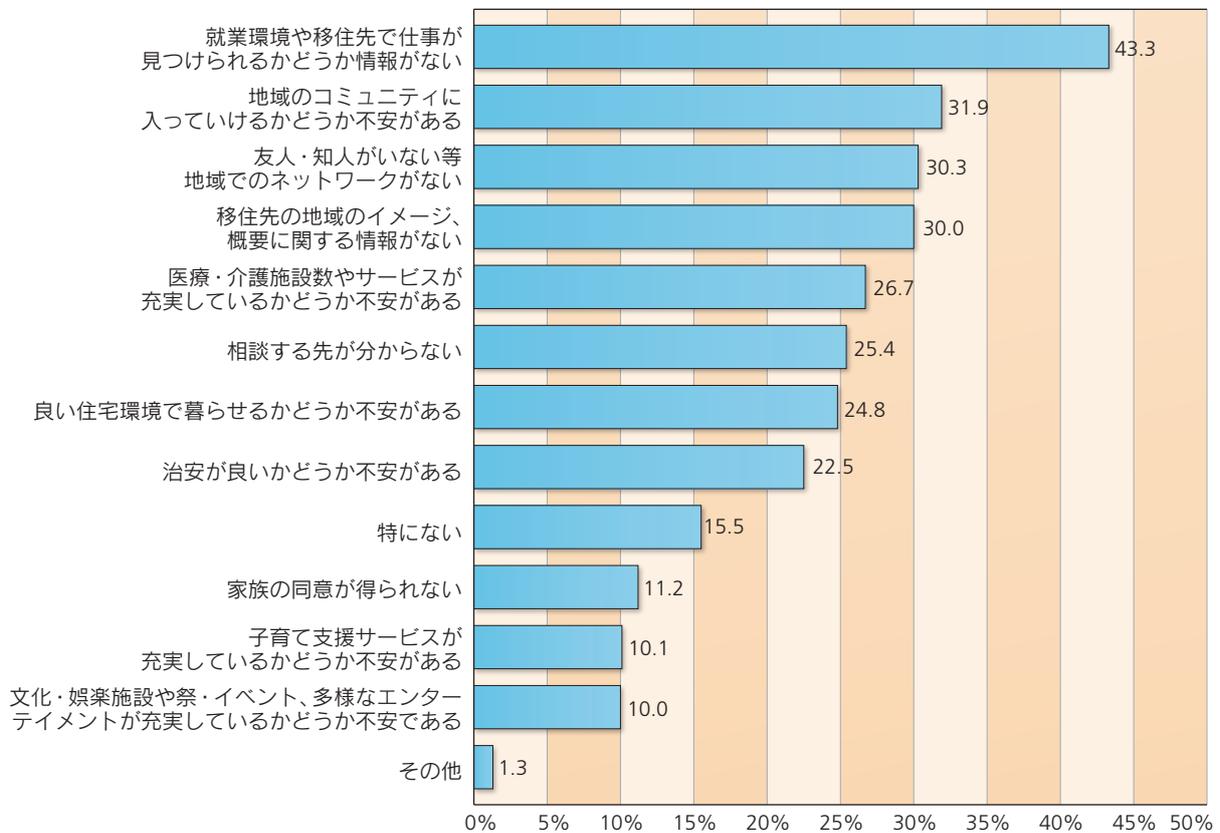
移住を検討する場合の困り事、心配事

続いて、移住を促すために、他地域からの移住希望者が移住を検討する場合にネックとなる問題を調べるため、首都圏の全ての回答者に対し移住を希望する場合の困り事や心配事についてたずねた。首都圏の回答者のみを対象とした質問であるため、比較検討はできないが、移住促進策において有益な示唆となりうる項目といえる。

まず、最も多かったのが、「就業環境や移住先で仕事を見つけられるかどうか情報が無い」の43%で、次いで「地域のコミュニティに入っていけるかどうか不安がある」の32%、「友人・知人がいない等地域でのネットワークが無い」の30%が続く。

最も多いのは職に関する不安であったが、2番目、3番目に続くのは人間関係に関する不安であり、地域のつながり（近所のつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）や人間関係が濃密であるというイメージの強い東北圏においては、不安を払しょくできる可能性が示されているといえる。

図表2-20 移住を検討した場合に想定される困り事、心配事



男女の年齢別にみた他地域への移住希望の有無

移住の条件等について比較分析を続けてきたが、どのような層が移住を希望しているかを知る事も、首都圏からの移住促進策や東北圏への定住促進策においては非常に重要になってくる。そこで以下では、年齢によって移住を希望する割合に差が生じるのかを知るために、両地域の移住希望者の割合を男女の年齢別にみていくこととする。

移住を希望する割合は、首都圏では全ての年代で男性の方が高く、また、男女とも年齢が低いほどその傾向が強くなっている。

一方東北圏では、年齢の高い女性ほど移住したい傾向が強くなっている。

図表2-21 男女の年齢別：移住希望の有無



移住希望者別の分析

図2-21で、年齢別に移住を希望する割合を調べていったが、首都圏の20代、30代の男女と、東北圏の50代女性で、移住を希望する割合が他の世代に比し、やや高いことがわかった。

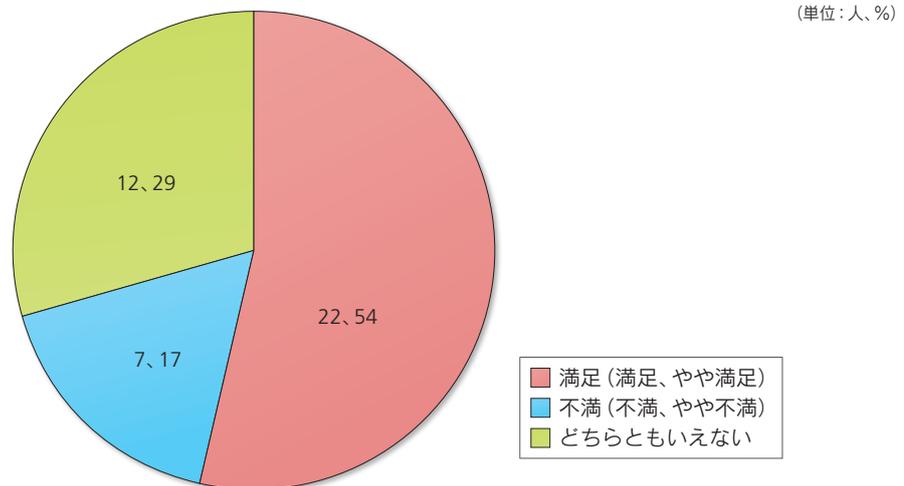
そこで以下では、図2-21で比較的移住を希望する割合が高かった首都圏の20代、30代の男女と東北圏の50代以上の女性を例にとり、これらの世代が移住に関してどのような傾向を持っているのかについてみていくこととする。

〈首都圏〉

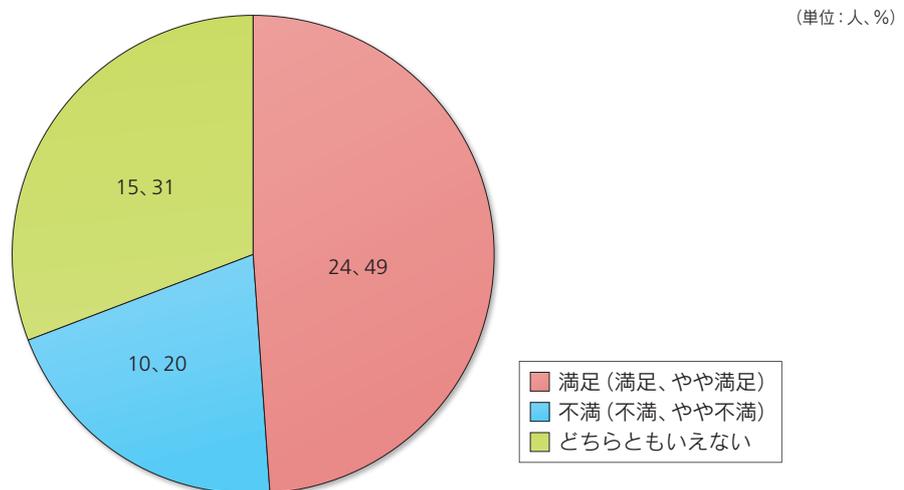
まず、首都圏からの移住を希望する割合が高い20代、30代の移住希望者の特徴についてみていくこととする。

まず、現在の居住地域への評価は男女どちらも首都圏に満足している割合が高かった。現在の居住地域に強い不満をもち、移住を希望していることが想定されたが、首都圏の男女の場合は居住地域への不満から移住を希望しているわけではないことが推察される。

図表2-22 現在の居住地域への評価：首都圏の20代、30代の女性移住希望者

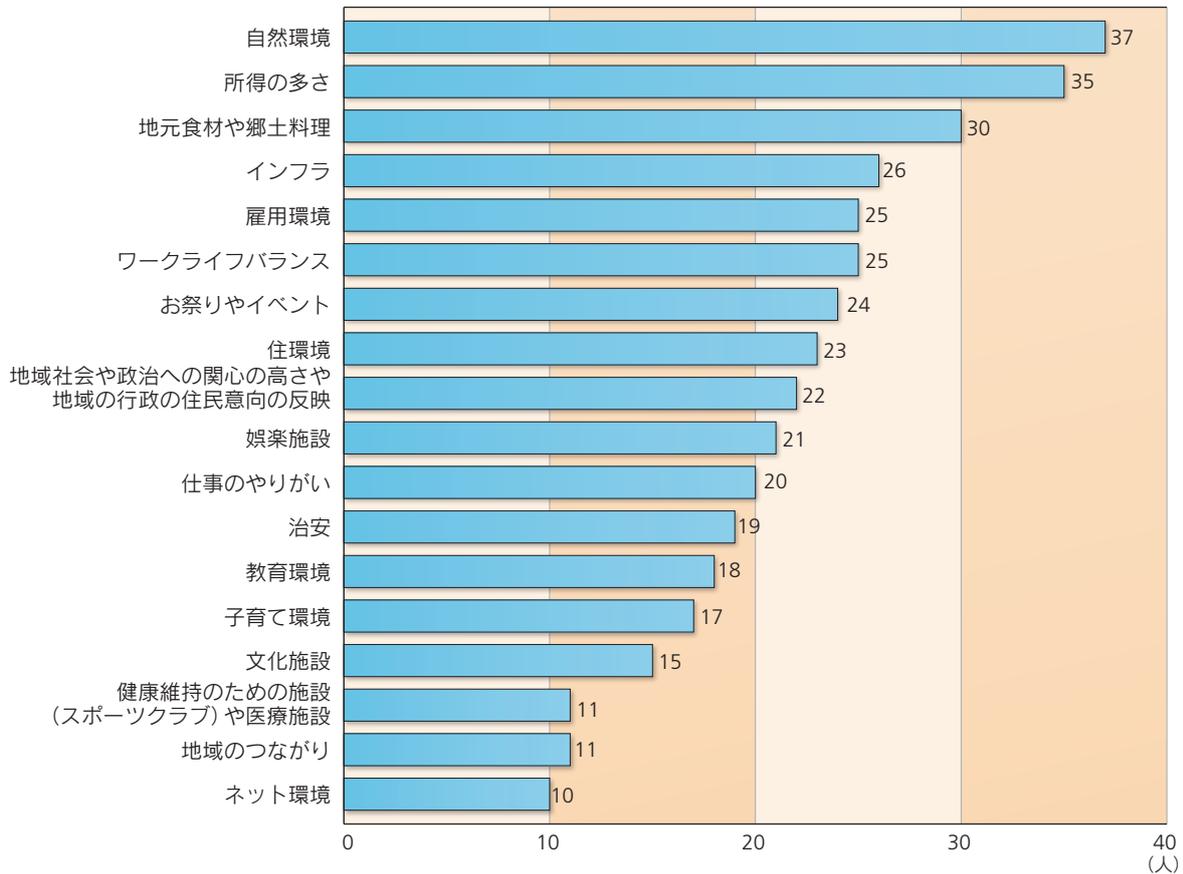


図表2-23 現在の居住地域への評価：首都圏の20代、30代の男性移住希望者



首都圏の20代、30代の移住希望者の移住希望の要因を調べるため、項目別に満足度をたずねると、「自然環境」や「所得の多さ」、「地元の食材・郷土料理」等で不満、やや不満とした人数が多い事がわかった。また、「雇用環境」や「ワークライフバランス」に次いで、「祭りやイベント」、「住環境」の割合が高いことも特徴的である。

図2-24 項目別「不満」「やや不満」とした人数：首都圏の20代、30代の男女の移住希望者の合計



以上のことから、20代、30代の移住希望者の男女は、図表2-22と図表2-23から、首都圏に満足している一方、図表2-24では首都圏への不満として自然環境や郷土料理等を挙げており、首都圏での生活に不満はないものの、首都圏と他地域を比較できるため、首都圏の自然環境の少なさなどに気付き、移住を希望するようになったのではないかという仮説が立てられる。

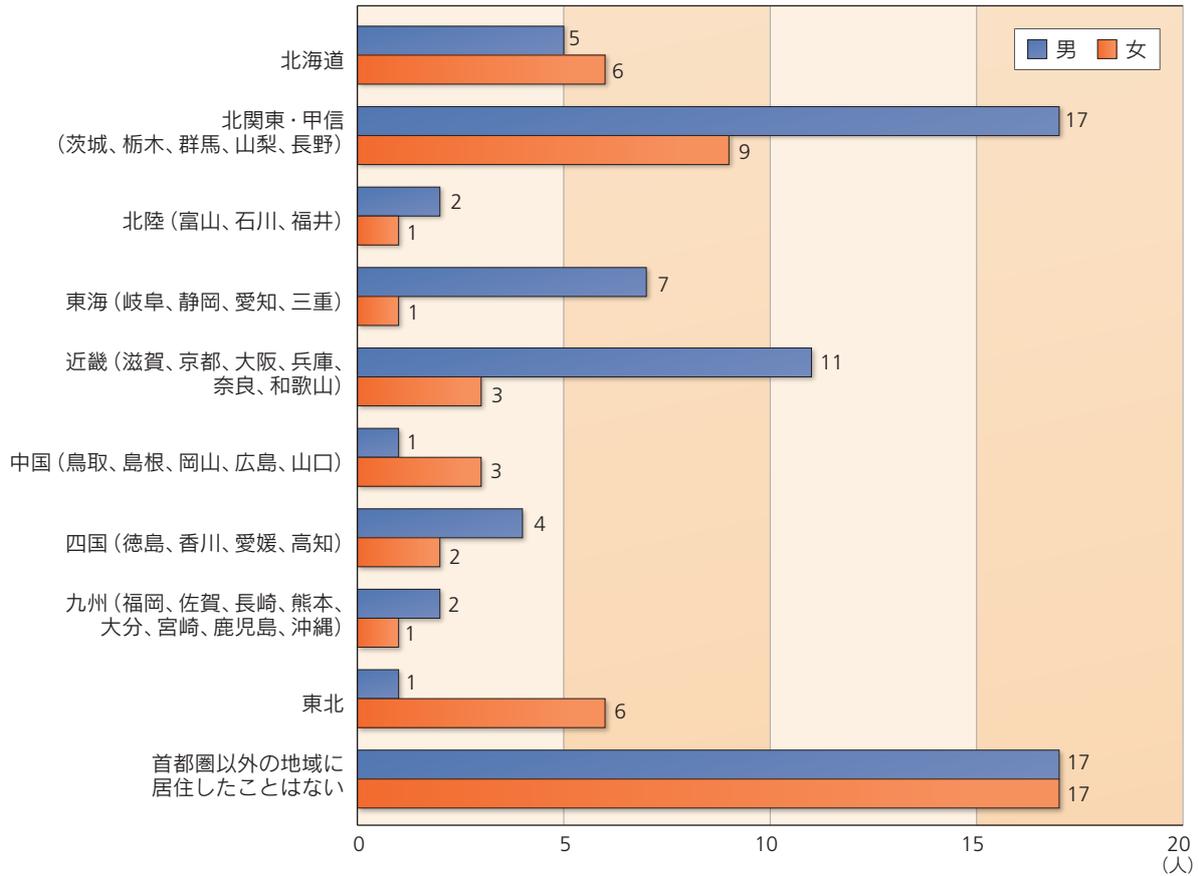
そこで、20代、30代の移住希望者の男女が過去に居住したことがある地域をみると、首都圏以外の地域に居住経験のある回答者も多くなっている。しかしながら、地域ごとにみると、男女とも首都圏以外に居住経験がない人が多くなっている。

こうした結果から、移住希望者には2つの傾向があることがみてとれる。

一方は、仮説の通り、首都圏以外の地域に居住経験があるため、首都圏と比べた場合の他地域の良さを知り、移住を希望する層である。他方は、首都圏以外の地域に居住経験がないため、他地域に憧れをもち移住を希望する層である。

なお、他地域の良さを知って移住を希望する層がみられたものの、首都圏の20代、30代の移住希望者のうち、東北圏に居住経験のある回答者は非常に少なかったため、客観的指標の裏付ける東北圏の住環境や自然環境の良さを知らない可能性が高く、これら潜在的な移住希望者を東北圏に引き寄せるためには、積極的に住環境をはじめとする東北圏の魅力をもっとPRしていく必要がある。

図2-25 居住経験地域：首都圏の20代、30代の移住希望者

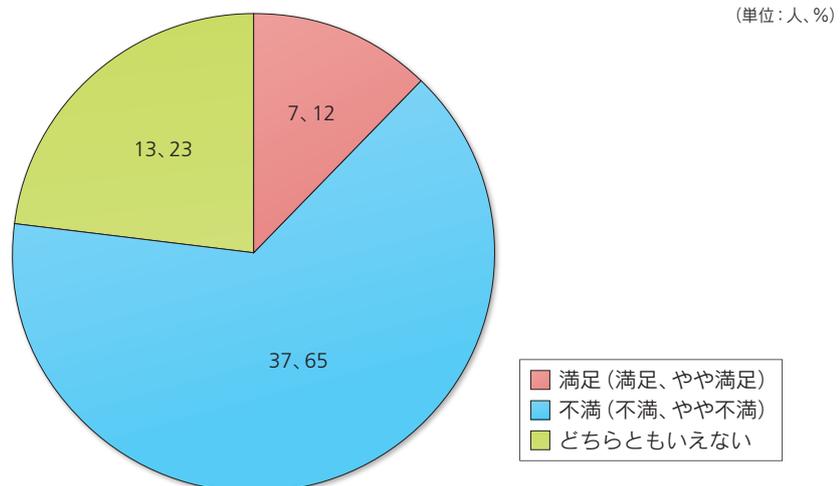


〈東北圏〉

続いて、東北圏からの移住希望者が多かった、50代以上の女性移住希望者の特徴についてみていくこととする。

まず、50代以上の東北圏からの移住を希望する女性の東北圏への評価をみたところ、不満を持っている割合が非常に高いことがわかった。首都圏からの移住希望の20代30代の男女の結果とは対照的に、東北圏からの移住を希望する50代以上の女性は東北圏への強い不満を持った移住希望者であることがみてとれる。

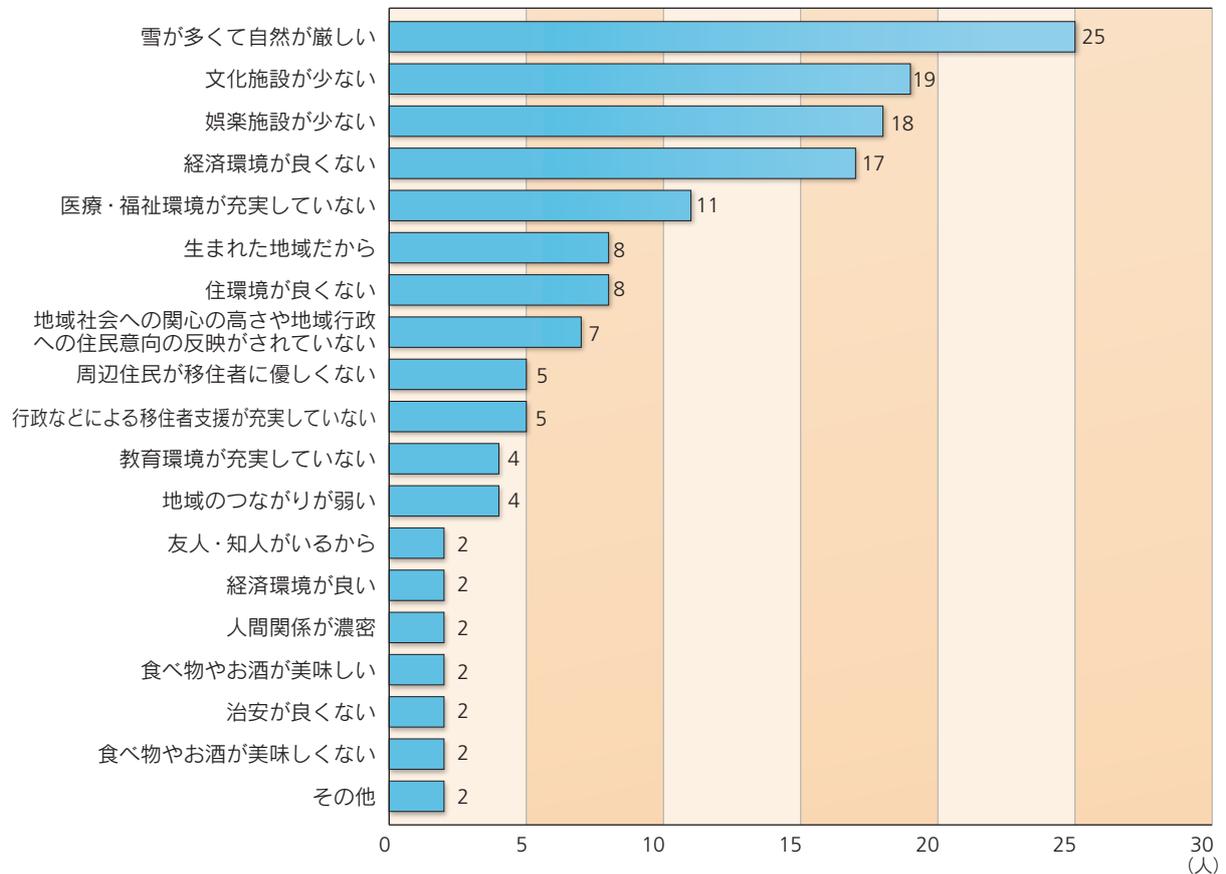
図2-26 東北圏への評価：東北圏の50代、60代女性移住希望者



では、50以上の移住希望者の女性は、どういった点に不満をもち、移住を希望するようになったのであろうか。

50代の移住希望女性の不満の理由をみると、「厳しい自然」や「文化施設」、「娯楽施設の少なさ」、「交通の便の悪さ」等があることがわかった。

図2-27 東北圏への不満の理由：東北圏の50代、60代の女性移住希望者



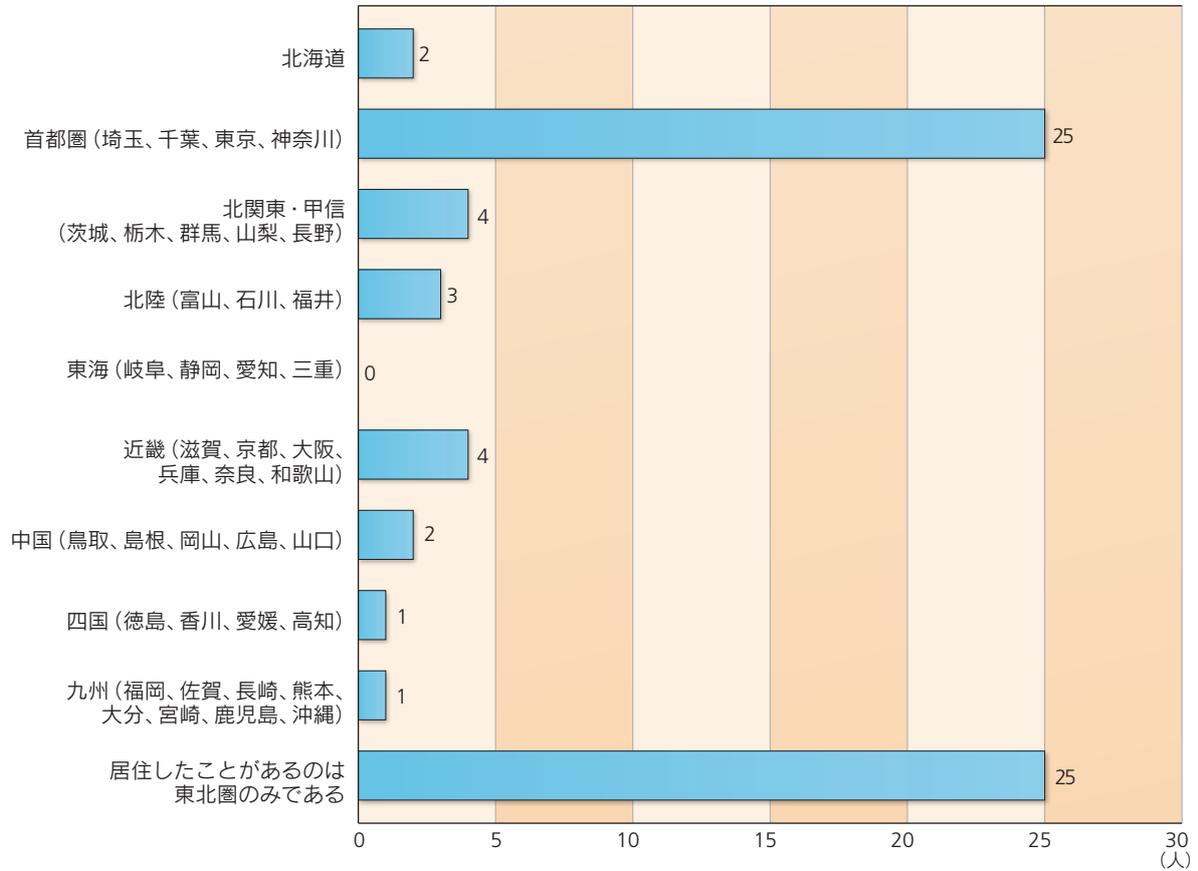
そこで、東北圏からの移住希望者についても、首都圏からの移住希望者と同様に、居住経験のある地域が移住希望に影響を与えている可能性があると考えられるため、50以上の移住希望者の女性のこれまでの居住経験地域を調べることとした。

東北圏からの移住希望者の50代、60代の女性移住希望者の居住経験のある地域をみてみると、東北圏以外に居住したことがない割合と首都圏に居住した経験がある割合が同数となっており、首都圏からの移住希望者と同様に2つの傾向があることがわかった。1つ目は、首都圏に居住経験があるため、東北圏と比べた場合の首都圏の便利さ等を知り、移住を希望する層である。もう1つは、東北圏以外の地域に居住経験がないため、他地域に憧れをもち移住を希望する層である。

1つ目の首都圏に居住経験がある場合には、首都圏の高い利便性を経験したため、東北圏に不満を持ちやすく移住を希望していることが推察される。これらの移住希望者を東北圏に引き留めるためには、首都圏にはない東北圏の文化や食、自然などを積極的にPRしていくことが必要であると考えられる。

2つ目の首都圏の居住経験者と同じ割合をしめる東北圏しか居住経験がない移住希望者は、東北圏以外の地域を知らないことで、東北圏の悪い点を強く意識するようになったことが移住を希望する潜在的な要因として大きな影響を与えていることが推察される。そのため、本報告書の客観的指標からもみてとれる他地域と比較した場合の東北圏の良さを積極的にPRしていくことが効果的であると考えられる。

図2-28 居住経験地域：東北圏の50代、60代の女性移住希望者



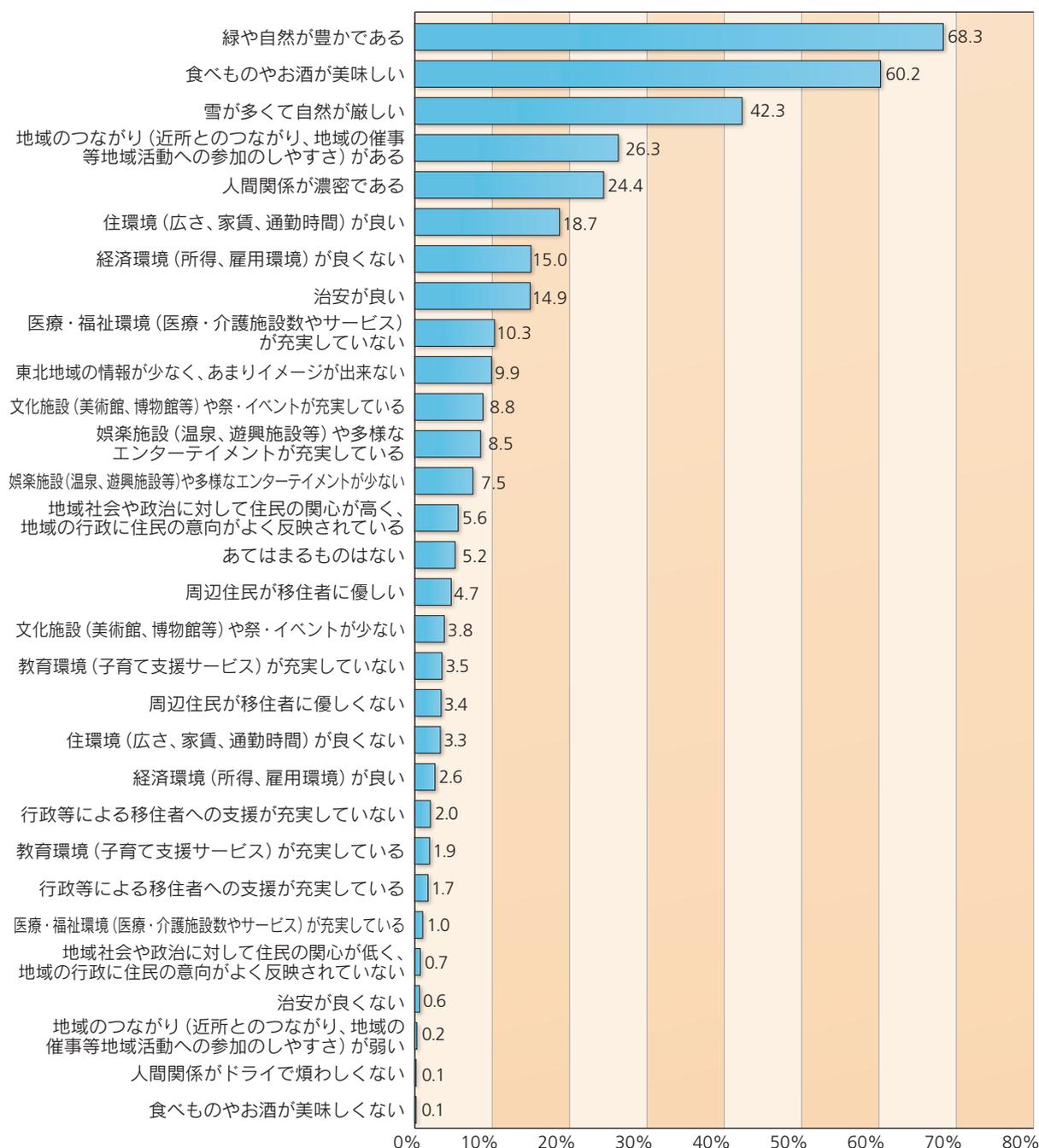
(3) 東北圏のイメージ (首都圏のみ)

ここまでは東北圏と首都圏の比較を行い、首都圏と比較した場合の東北圏の位置づけや強み、弱みの分析を行ってきた。以下では、首都圏の回答者のみを対象とした質問項目である東北圏のイメージについて整理し、東北圏がどのようなイメージを持たれているか検討することにより、どのような東北圏の強みが認知されているか、もしくはどのような点が情報発信不足であるかの検討を進めたい。

① 東北圏のイメージ

首都圏の全ての回答者に東北圏のイメージをたずねたところ、最も回答が多かったのは、「緑や自然が豊かである」の68%である。次いで「食べものやお酒が美味しい」60%、「雪が多くて自然が厳しい」42%の順となっている

図表2-29 東北圏のイメージ



② 東北圏への居住経験の有無別の東北圏のイメージ

首都圏在住者の東北圏へのイメージでは、「豊かな自然」や「美味しい食べ物」「厳しい自然」など一般的、抽象的なイメージの割合が高くなっていった。そこで、東北圏への居住経験がある人であれば、より具体的な東北圏へのイメージを持っている可能性があるため、以下では、東北圏への居住経験の有無別での東北圏のイメージを分析することとする。

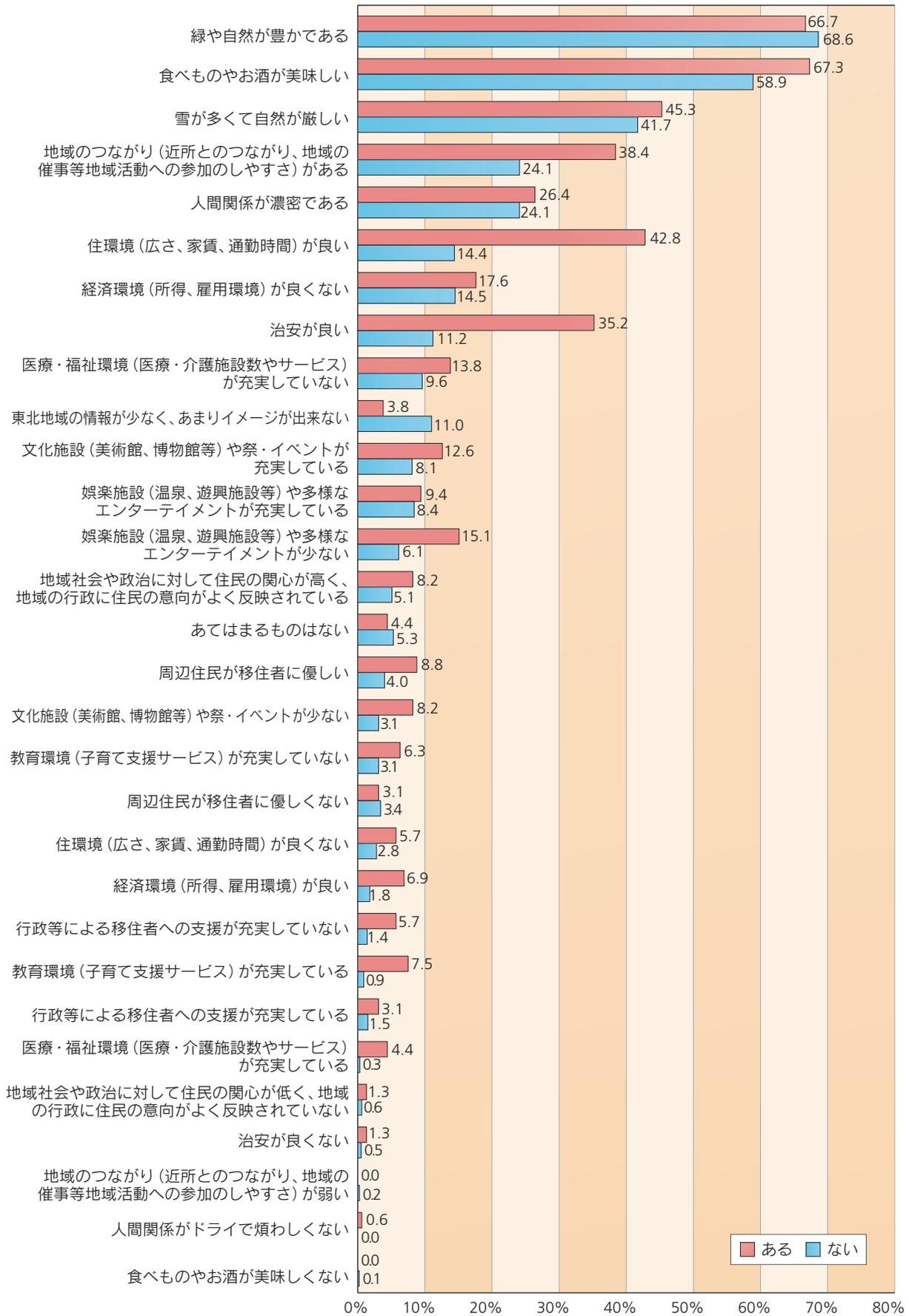
東北圏への居住経験がある回答者の東北圏に対するイメージをみると、全体と同じく、「緑や自然が豊かである」、「食べものやお酒が美味しい」、「雪が多くて自然が厳しい」の順で多かった。

東北圏への居住経験がある場合は、「住環境が良い」や「治安が良い」等の生活に関するポジティブな回答の割合が居住経験がない場合に比し、圧倒的に高かった。

また、「地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ）」、「周辺住民がやさしい」といった人間関係に関するポジティブな項目も居住経験がある場合に、居住経験がない場合より高くなっている。

ただし、居住経験がある場合、「経済環境（所得、雇用環境）が良くない」や「医療・福祉（医療・介護施設数やサービス）が充実していない」、「娯楽施設の少なさ」、「文化施設の少なさ」に関してはネガティブな回答の割合が、居住経験がない場合に比し、やや高くなっている。

図表2-30 東北圏のイメージ（東北圏への居住経験の有無別）



(4) 東北圏への居住経験の有無別の首都圏居住者の傾向分析

前頁で、東北圏のイメージについて分析したところ、居住経験の有無別で東北圏のイメージに差異がみられたことから、それ以外の居住地域への評価などでも差がでる可能性があると考えられる。

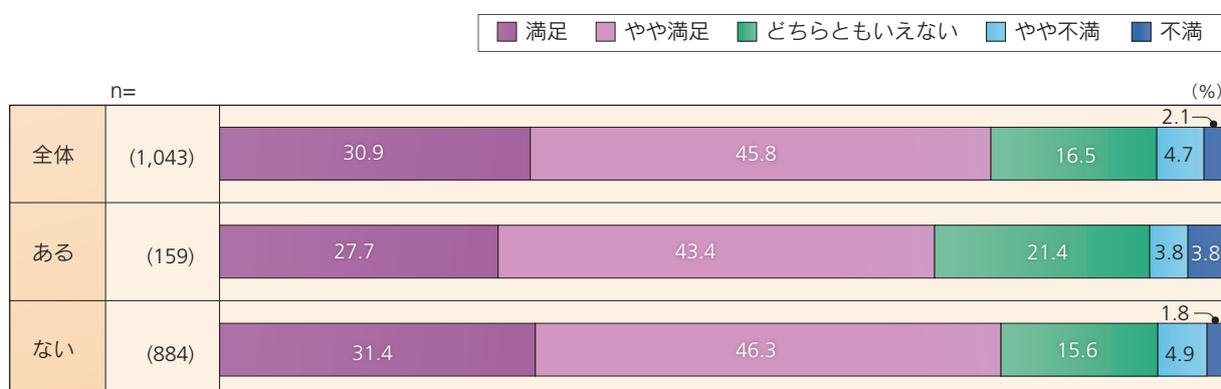
そこで、東北圏に居住経験があり東北圏に詳しい回答者と東北圏に居住経験がない回答者とでどのような点で差がでるか検討し、情報発信が不足している点や東北圏について知らないがために誤解が生まれている点などを明らかにするため、以下では東北居住経験の有無別で分析を行うこととする。

① 首都圏への評価

まずは、東北圏に居住したことがあり、首都圏と東北圏を比べることができる回答者が首都圏をどのように評価しているのかを調べ、東北圏を知っている回答者と知らない回答者で首都圏への評価が変わるのかどうかを分析する。

回答者の現在の居住地域である首都圏への評価をみると、東北圏に居住経験のある回答者の方が、首都圏に「満足」「やや満足」とした割合がやや低くなっている。東北圏における自然環境や住環境などを知っているため、首都圏に対する評価がやや低くなっている可能性があることがみてとれる。

図表2-31 首都圏への評価（東北圏への居住経験の有無別）



② 首都圏への評価の理由

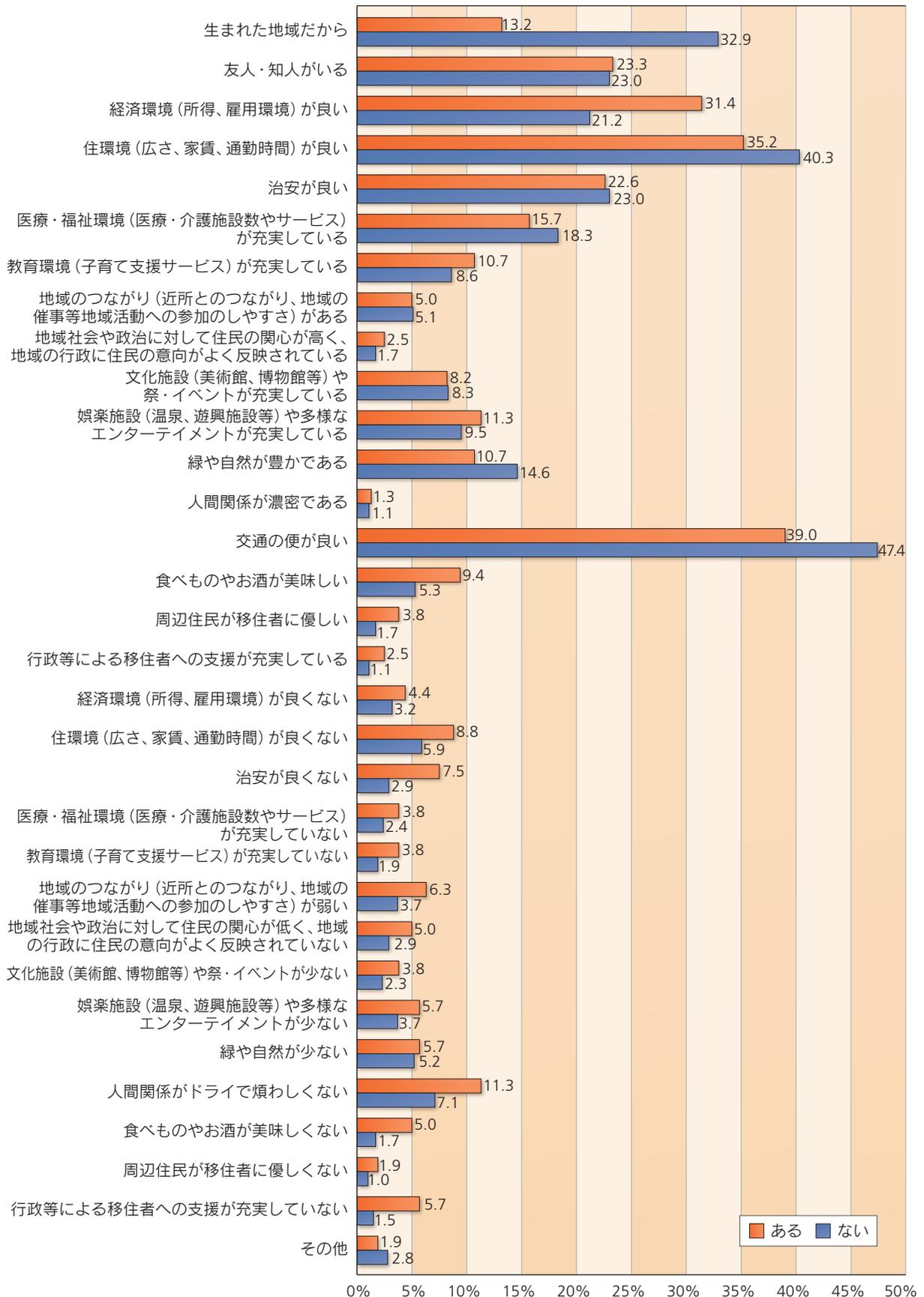
続いて首都圏への評価の理由についても居住経験の有無別にみていくこととする。東北圏に居住経験がある回答者の首都圏への評価の理由から、首都圏と東北圏を比較できる回答者が首都圏の何に満足をし、何に不満を持っているかを調べ、間接的な首都圏と東北圏の比較検討につなげたい。

首都圏の全ての回答者の首都圏への評価の理由をみたところ、東北圏に居住経験のある回答者は、「経済環境が良い」を選んだ割合が居住経験のない回答者よりも高い。東北圏と比べられる回答者が首都圏の経済環境の高さを評価する傾向にあることから、経済環境が東北圏の弱みとなっていることがうかがわれる。

なお、東北圏に居住経験のある回答者では、「人間関係がドライで煩わしくない」や「食べ物やお酒が美味しい」を選んだ割合も、居住経験がない回答者よりやや高くなっている。「地元の食材や郷土料理」は東北圏の強みとなっているものの、東北圏に居住経験のある回答者は、東北圏と比べた場合の首都圏の多様性のある食を評価しているものと考えられる。

また、東北圏に居住経験がない回答者は「交通の便が良い」、「住環境が良い」、「生まれた地域だから」を首都圏の評価として選んだ割合が居住経験がある回答者よりも高い。また、「自然が豊かである」についても、居住経験がある回答者よりもやや高くなっている

図表2-32 首都圏への評価の理由（東北圏への居住経験の有無別）



③ 重要度

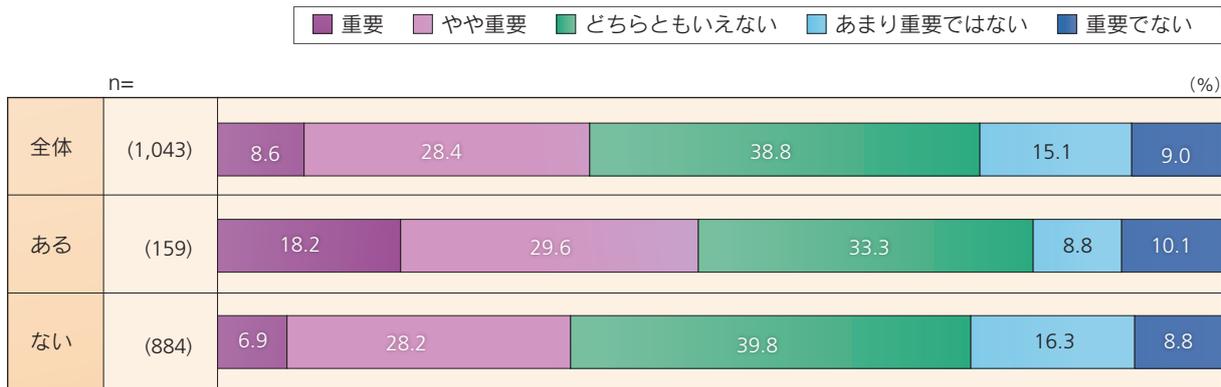
続いて、東北圏に居住経験がある場合に重要と考える事柄についても変化があるのかについて調べ、東北圏への居住経験が首都圏での生活における重要度に影響を与えているかについて検討を行う。

東北圏への居住経験の有無別に、調査票（図表2-2）のQ13の項目別重要度を調べたところ、全18項目のうち東北圏に居住経験のある回答者が東北に居住経験のない回答者よりも重視している項目が10項目あった。

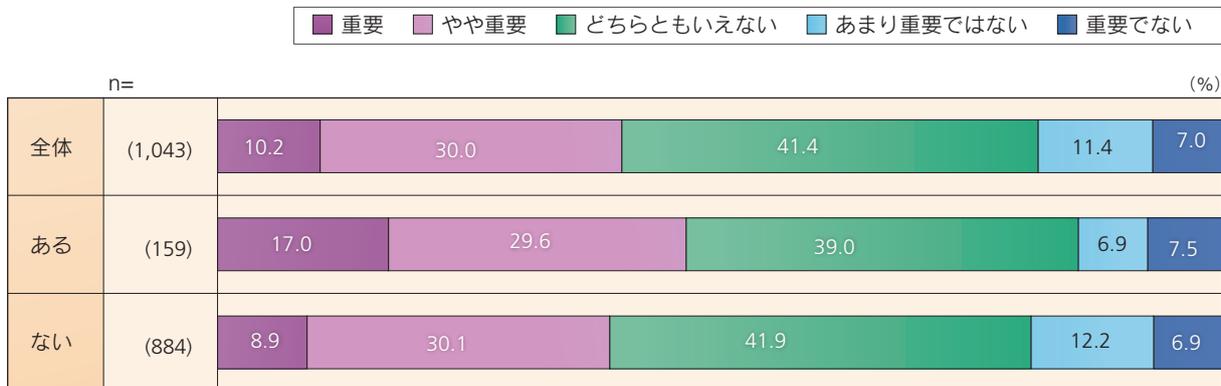
まず、「地域のつながり」、「地域社会や政治への住民の関心の高さ・行政の住民意向の反映」、「地元の食材・郷土料理」、「祭やイベント」の4項目が挙げられる。これらの項目は、東北圏の満足度が首都圏の満足度を上回っている項目であったため、東北圏の回答者が首都圏に住むようになってからも、東北圏において充実していた事柄を重視する傾向にあると考えられる。

一方、「ネット環境」、「健康維持のため施設・医療施設」、「教育環境」、「子育て環境」、「文化施設」、「娯楽施設」の6項目の重要度も東北圏に居住経験のある回答者で高くなっているが、こちらの項目については、首都圏の方が満足度が高い項目であり、東北圏で充実していなかったものを首都圏に来て重視するようになった影響と推察される。

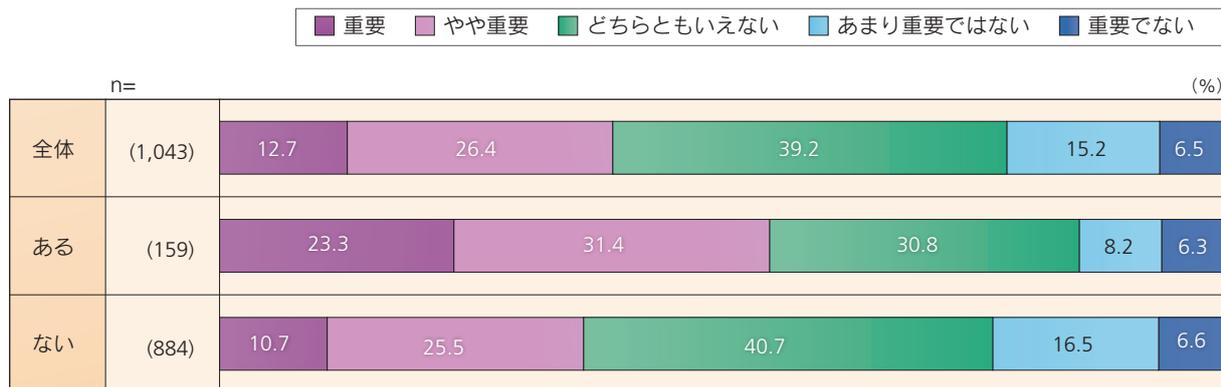
図表2-33 地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事等地域活動への参加のしやすさ）の重要度
（東北圏への居住経験の有無別）



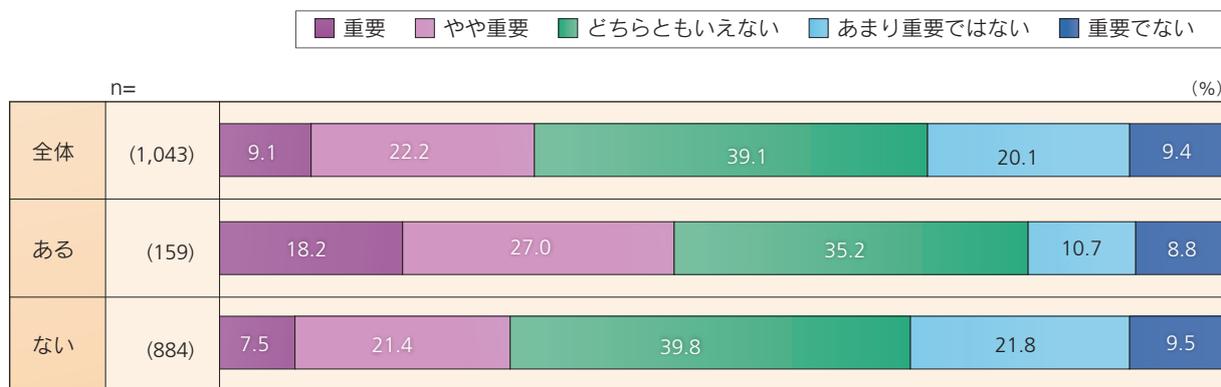
図表2-34 地域社会や政治への住民の関心の高さや地域の行政の住民の意向反映の重要度
（東北圏への居住経験の有無別）



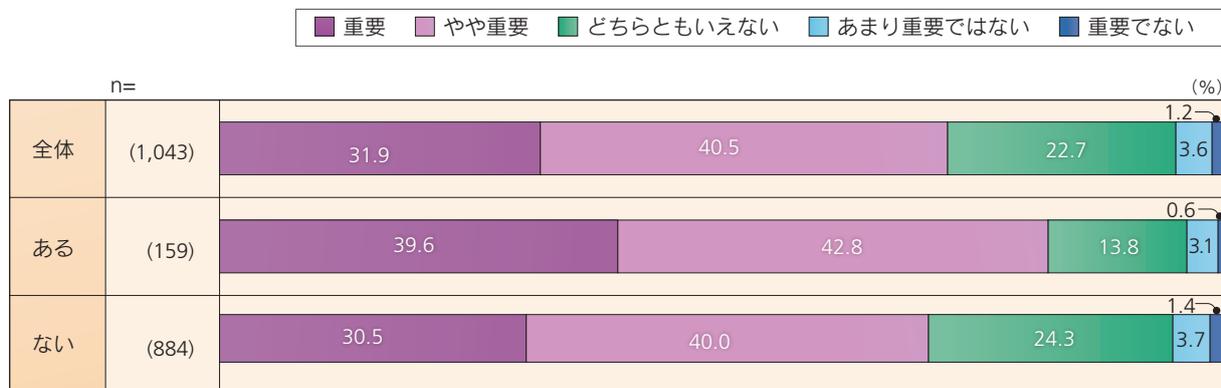
図表2-35 地元の食材・郷土料理の重要度 (東北圏への居住経験の有無別)



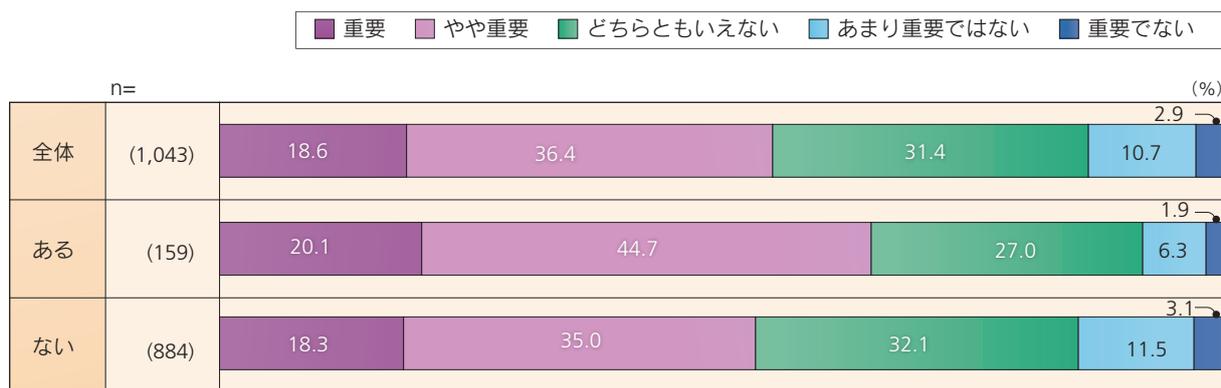
図表2-36 祭りやイベントの重要度 (東北圏への居住経験の有無別)



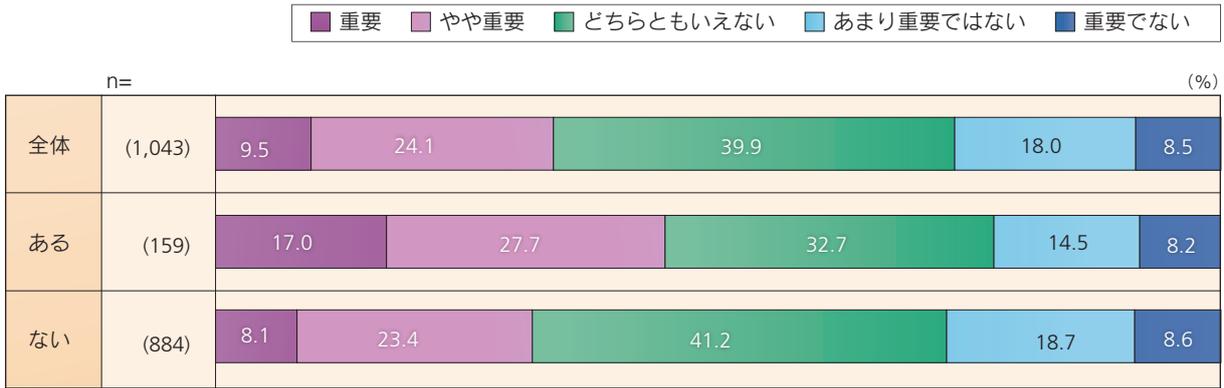
図表2-37 ネット環境の重要度 (東北圏への居住経験の有無別)



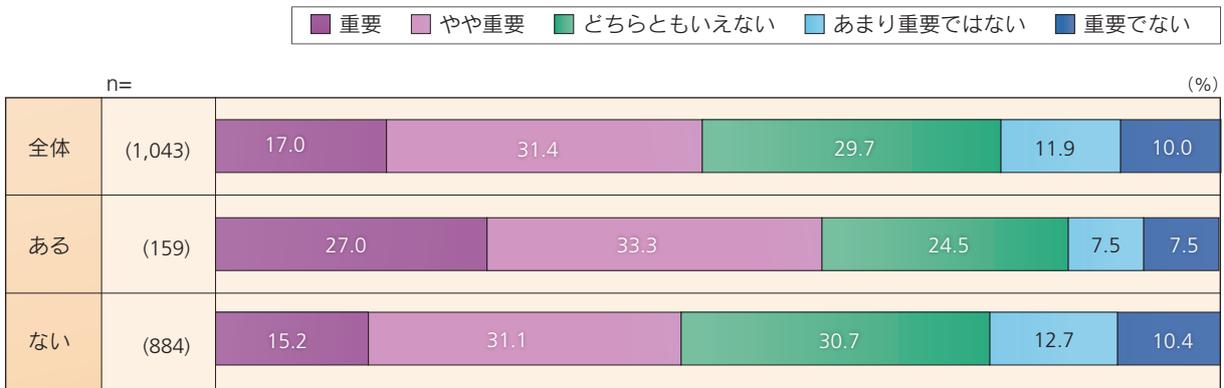
図表2-38 健康維持のための施設・医療施設の重要度 (東北圏への居住経験の有無別)



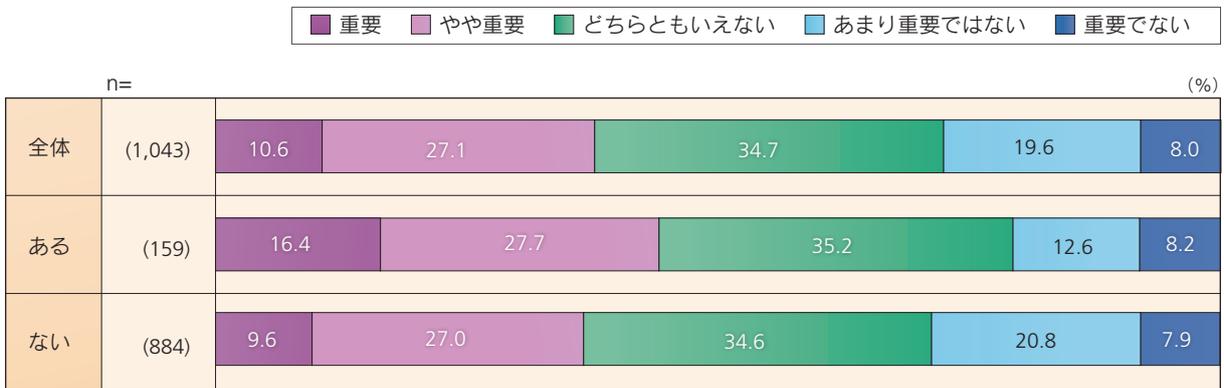
図表2-39 教育環境の重要度 (東北圏への居住経験の有無別)



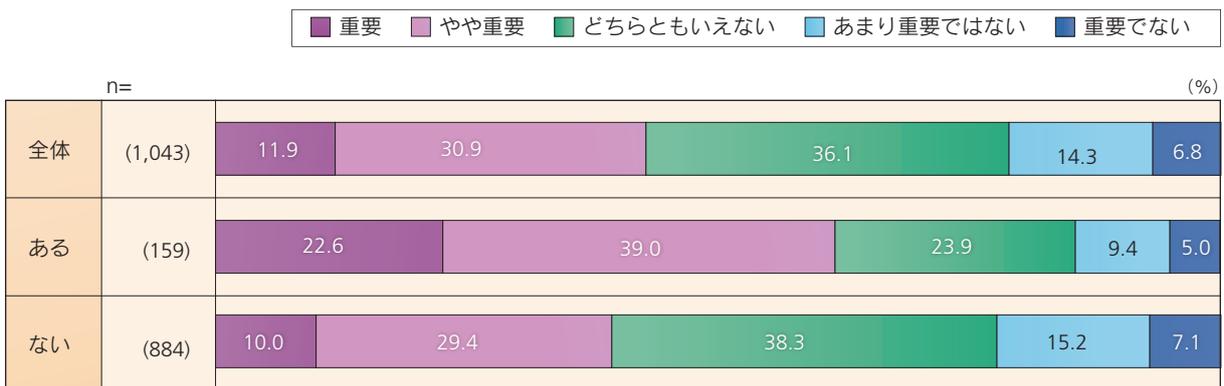
図表2-40 子育て環境の重要度 (東北圏への居住経験の有無別)



図表2-41 文化施設の重要度 (東北圏への居住経験の有無別)



図表2-42 娯楽施設の重要度 (東北圏への居住経験の有無別)

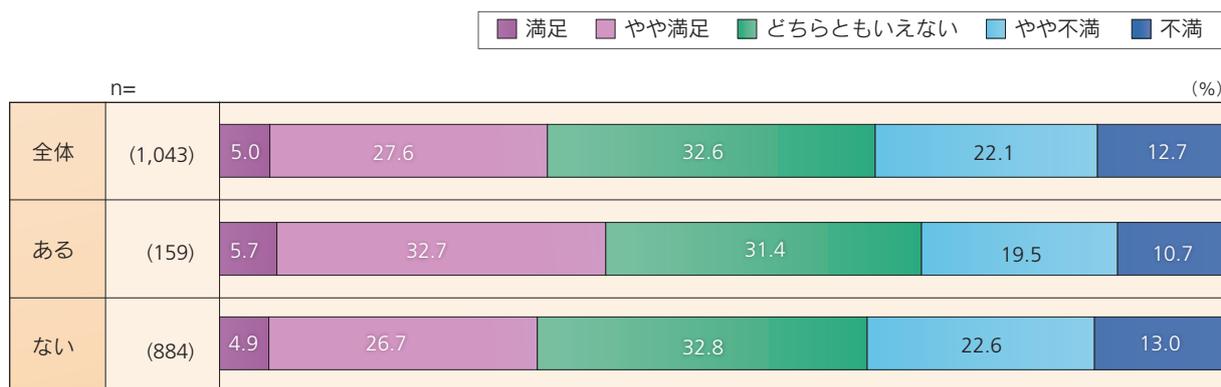


④ 満足度

調査票（図表2-2）のQ14の満足度についても、東北圏に居住経験がある場合に差があるのか調べることにする。東北圏と首都圏を比較できる回答者が首都圏のどのような点に満足しているかを調べることで、間接的に首都圏と比較した場合の東北圏の弱みや強みを検討したい。

東北圏への居住経験の有無別に首都圏の全ての回答者の満足度をみたときに、調査票（図表2-2）のQ14で示した全18項目のうち、特に興味深いのは、首都圏での所得の多さへの満足度が東北圏に居住経験がある場合にやや高くなっていることであった。この点、首都圏と比べた場合にやや弱みとなってしまうことが推察される。

図表2-43 所得の多さの満足度（東北圏への居住経験の有無別）

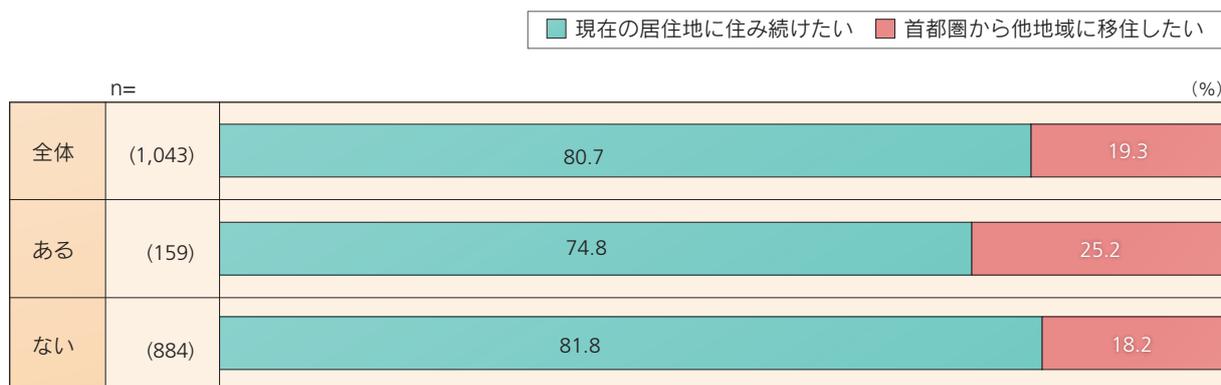


⑤ 移住に関する項目

移住に関する項目についても、東北圏への居住経験の有無別で、差異がみられるのか検討することとする。東北圏への居住経験の方が移住者としてターゲットになりうるのか。また、ターゲットになる場合、どのような移住の条件を求めているのかを調べることによって、UIターン等について考える一助としたい。

まず、東北圏への居住経験の有無別で移住希望の有無をみた場合、東北圏に居住経験のある回答者のほうが、首都圏から他地域に移住したい割合が高い。東北圏の生活環境の良さ等を知ったため、東北圏に住んだことのある回答者は首都圏から他地域に移住したいと回答している割合が高くなっているものと推察される。

図表2-44 移住希望の有無の割合（東北圏への居住経験の有無別）



(5) 東北居住者の東北圏への評価

ここまでで、東北圏の回答者が東北圏のどのような点を重視しているかやどのような点に満足しているか等について、首都圏との比較や東北居住経験のある首都圏の回答者の分析などを通じて検討してきた。最後に、どのような回答者が東北圏に満足し、または不満を持っているのかを現在の居住地域への評価を通して分析していくこととする。

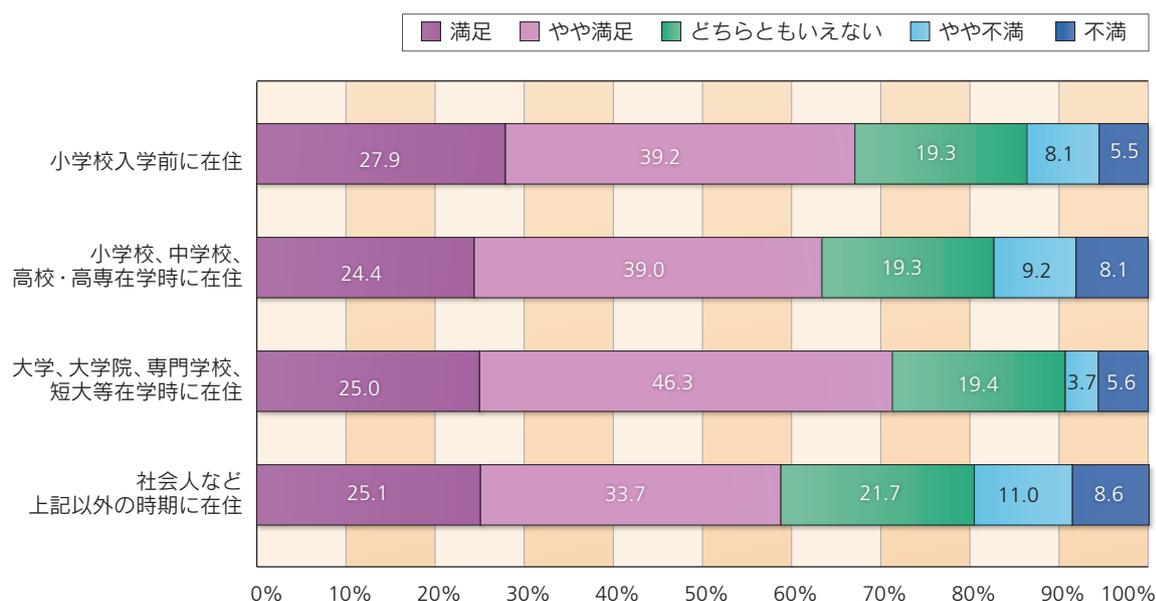
① 東北圏への居住時期別でみた東北圏への評価

社会人になってから居住している場合と幼いころから居住している場合とで、居住地域に対する見方は変わる可能性がある。

そこで、東北圏への居住時期別で東北圏への評価をみると、東北圏に「大学、大学院、専門学校、短大等在学時に在住」していた回答者は、「満足」、「やや満足」の合計の割合が71%あり、他の居住時期の中で、最も高くなっている。

一方、「社会人など上記以外の時期に在住」は、「満足」、「やや満足」の合計の割合が、59%で他の居住時期の中で最も低く、「不満」、「やや不満」の割合が、20%で最も高くなっている。

図表2-45 現在住んでいる地域への評価（東北圏への在住開始時期別）



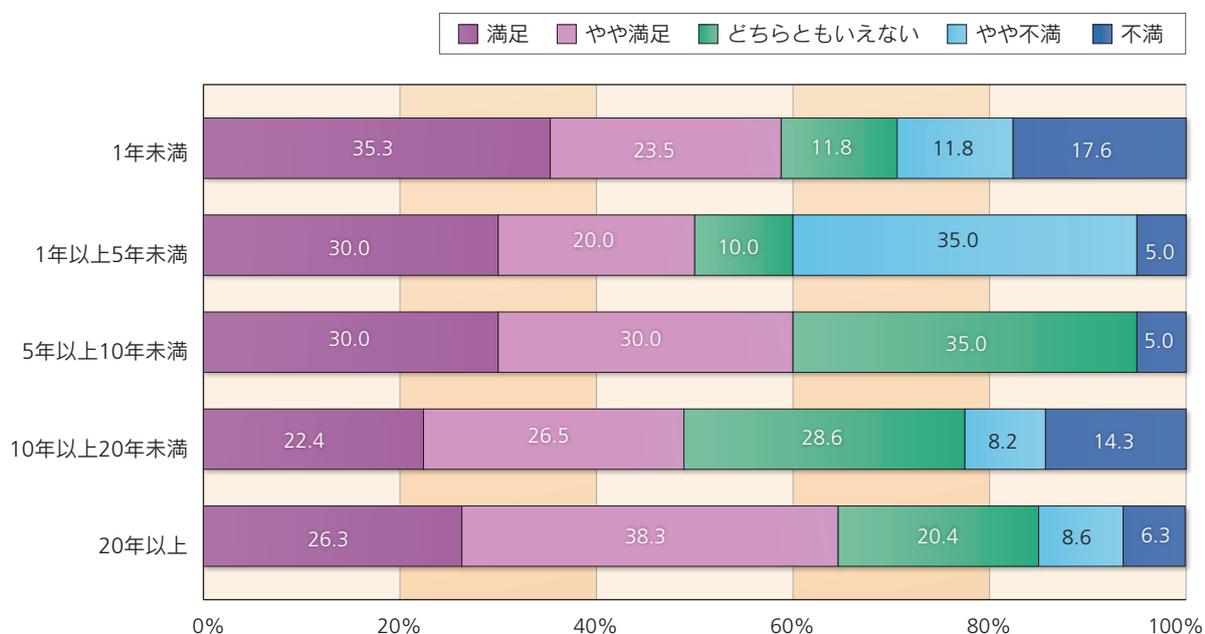
② 東北圏への居住期間別でみた東北圏への評価

居住期間の長さによって、居住地域への評価は変化する可能性がある。

そこで、東北圏の居住期間別で東北圏在住者の東北圏への評価をみると、在住期間が「1年以上5年未満」の回答者で、「不満」「やや不満」の合計の割合が最も高くなっていることがわかった。これは、「1年以上5年未満」の居住者には、転勤や進学などで東北圏に居住し、一定の期間内で東北圏から移住する可能性のある人が含まれているためと推察される。

一方、「満足」「やや満足」の合計の割合が最も高いのは、在住期間が「20年以上」の回答者であり、長く住むと不満の割合が低くなる傾向にあることがわかる。長く住むことで地域への愛着がはぐくまれる影響もあると考えられ、人口流出への対策としては、少しでも長く住みつけてもらうことで地域に愛着を持ってもらうことが必要と考えられる。特に、1年以上5年未満の不満の多さから、5年以上の定住が鍵となることが推察される。

図表2-46 現在住んでいる地域への評価（東北圏への居住期間別）



(6) アンケートのまとめ

アンケート調査から主観的データを採集し、地域の魅力を構成する項目のうち重視するもの、満足度や移住の条件を整理したところ、以下の点が分かった。

① 居住地域決定理由からみた居住者の特徴 (図表2-7/p.131)

アンケートにおいては、自分で居住地域を決めた回答者にその理由をたずねているが、自分で居住地域を決めた場合の理由は、単純な評価よりも、さらに現実的で積極的であると考えられ、それぞれの地域の特徴を把握するために大いに参考となる。

首都圏、東北圏ともに通勤・通学に便利であるが最も高い割合となっていることから、学校や職場に近い地域に居住するのは地域を問わず変わらないことといえる。

首都圏の回答者が東北圏の回答者よりも居住地決定理由として選んでいる割合が高い項目は、通勤通学の利便性と密接に結び付く交通の便の良さの他、医療福祉環境や経済環境の良さが挙げられる。

一方、東北圏の回答者では、居住地域の決定理由として、自然の豊かさや食べ物・お酒の美味しさ、地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ）を選ぶ割合が首都圏よりも多く、東北圏には、東北圏のこれらの要因を評価して居住している一定の層が存在していることがみてとれる。

② 居住地域への評価からみた東北圏の強み・弱み (図表2-9/p.133)

東北圏と首都圏がどういった点を居住者から評価されているかについて調べるため、両地域への評価と評価の理由についてたずねたところ、首都圏では7割が、東北圏では6割が現在の居住地域には満足しているという結果になった。

評価の理由として、首都圏では、交通の便の良さや経済環境の良さを挙げる割合が東北圏よりも高く、首都圏の強みとなっていることがうかがわれる。

一方、東北圏は首都圏に比べ、生まれた地域であることや自然の豊かさ、美味しい郷土料理、地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ）を挙げる割合が高く、地域への愛着も現在の居住地域への評価につながっていることがわかる。

しかしながら、雪が多くて自然が厳しいを選んだ割合が高いことや、首都圏の回答者に比べ、経済環境の悪さや、娯楽施設・文化施設の少なさ、医療福祉環境が充実していないことを挙げる割合も高いことから、こういった点は、弱みとなっているといえる。

③ 重要度・満足度・ニーズ度からみた東北圏の強み (図表2-11～2-15/pp.135～139)

第1章で設定した幸福度指標の8分野についての中分類の中で、実際に東北圏や首都圏の居住者が何を重視しているか調べるために、中分類に対応する各項目の重要度をたずねたところ、両地域とも、所得や雇用、住環境など生活に必要な不可欠な分野に関する重要度が高い一方、娯楽施設や文化施設など生活の付随的な分野に関する項目の重要度は低い傾向にあった。

なお、東北圏の回答者では、インフラに対する満足度が首都圏に比し低く、居住地域に対する評価の理由として交通の便の良さを選んだ割合も首都圏に比し低いことから、東北圏の居住者のインフラに対する不満がみてとれる。しかし、東北圏の回答者は、20年以上東北圏に住んでいる割合が9割で半数が東北圏以外には居住したことがないため、必ずしも他地域と比較した上でインフラに不満を持っているとはいえない。実際、東北圏に居住経験のある回答者は、首都圏の交通の良さを評価する割合が低くなっていることもわかっている。総合的にみて東北圏はインフラが必ずしも充実しているわけではないかもしれないが、道路整備率や自然公園面積などについては他地域に比し優位な点がみられている。

両地域にニーズのある項目についても明らかにするために、重要度から満足度を引いたニーズ度の算出も行ったところ、両地域とも所得の多さに関するニーズが高いことには変わりはなかったが、上位3つをみると、首都圏ではワークライフバランスのニーズ度が2位に、東北圏ではワークライフバランスは上位3つに入らず、3位にインフラのニーズ度が入るという特徴があった。また、ニーズ度が低い項目もみると、首都圏では教育環境、地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ）、祭りイベント、文化施設、ネット環境、健康維持のための施設や医療施設、地域社会・政治への関心、地域行政の住民意向の反映が、東北圏では自然環境や郷土料理、祭り・イベント、地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ）がニーズ度の低い項目となっており、これらの項目はそれぞれの地域であまり不満がないことがみてとれる。東北圏でニーズ度が低く不満が少ないと考えられる項目のうち、祭り・イベント、地域とのつながり（近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ）は、首都圏でも同様にニーズ度が低いが、自然環境や郷土料理は、首都圏のニーズ度が東北圏よりも高くなっており、東北圏の強みとなりうると考えられる。特に自然環境は、首都圏では重要度が高いにも関わらず満足度が低く、ニーズ度も比較的高いため、首都圏の居住者に対する大きなアピールポイントとなりうる。

④ 移住の条件からみた移住希望者の特徴（図表2-17～2-19/pp.141～144）

今回の調査のメインテーマとも密接につながる東北圏への移住・定住の促進に関する質問として、アンケートでは、首都圏の移住希望者に東北圏に移住する条件を、東北圏の移住希望者に東北圏に定住する条件をたずねている。

まず首都圏から東北圏に移住する条件としては、住環境の良さと経済環境の良さが高くなっている。東北圏に引き続き定住する条件としては交通の便の良さと経済環境が高くなっており、経済環境は両地域で重視されていることがわかる。

また、首都圏から東北圏に移住する条件のうち、上記に次いで高い割合となったものは、治安が良い、緑や自然が豊かである、医療・福祉環境が充実している、交通の便が良い、食べものやお酒が美味しい、周辺住民が移住者に優しい等が挙げられた。こうした点が首都圏に在住する移住を希望する層に訴求力の高い魅力となるものと考えられる。

また、年代別では、東北圏の30代前半が引き続き定住する条件としては、仕事のやりがい住環境・経済環境に次いで高く、首都圏の60歳以上が東北圏に移住する条件としては、自然の豊かさが最も高くなるなど、年代別でも、経済環境や交通の便以外を求める層があると考えられる。

⑤ 移住の心配事からみた東北圏の可能性（図表2-20/p.145）

移住促進に資する項目としては、首都圏の回答者全員に、移住を検討した場合の困りごとや心配事もたずねている。

最も多い心配事は、職に関するものであったが、2番に高い割合であったのは、地域コミュニティに入っていけるかで、3番目に高い割合となっているのは、友人・知人がおらず地域のネットワークがないとなっており、職以外には人間関係に関する不安が上位に入っている。

しかし、この点、東北圏は、居住地決定理由（図表2-7）や居住地への評価の理由（図表2-9）で首都圏に比し、地域のつながり（近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ）の項目で優位にあったため、こうした不安の払しょくにプラスとなる要素がうかがわれる。

⑥ 年代別の移住希望者の特徴 (図表2-24・図表2-25・図表2-27・図表2-28/pp.148～151)

移住希望者の傾向をより詳しく把握するために、両地域の移住希望者を男女の年齢別で分けた時に移住を希望する割合が高かった20代30代の首都圏の移住希望者と50代の東北圏の移住希望者の特徴をみることにした。

首都圏の移住希望者の首都圏に対する不満としては、自然環境の割合が高く、東北圏の移住希望者の東北圏に対する不満として雪の多さが挙げられ、両地域とも移住希望者の間では自然がネックとなっていることがわかった。

しかし、両地域の移住希望者が居住経験のある地域をみると、現在の居住地域以外に住んだことのない割合が比較的高く、必ずしも他地域と比較した上で移住を希望しているわけではない可能性が考えられる。

⑦ 東北圏のイメージ (図表2-29・図表2-30/pp.152～154)

アンケートでは、東北圏のどのような強みが認知されているかを調べるために、首都圏の回答者のみを対象に東北圏のイメージをたずねた。

回答者全体の回答では、自然が豊か、食べ物やお酒が美味しい、雪が多く自然が厳しいといった一般的、抽象的な項目が上位をしめていた。

しかし、東北圏への居住経験の有無別で東北圏のイメージをみると、東北圏に居住経験がある場合、住環境の良さや治安の良さといった生活に必要な不可欠で具体的な項目に関するポジティブなイメージが、東北圏に居住経験がない回答者に比し、圧倒的に高くなっていった。また、地域のつながり(近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ)、周辺住民が優しいといった人間関係に関するポジティブな項目も高くなっている。このことから、住環境や治安の良さ、地域のつながり(近所とのつながり、地域の催事など地域活動への参加のしやすさ)、周辺住民の優しさは、東北圏に詳しい人以外には知られていない東北圏の魅力であり、情報発信によりアピールしていく必要性がみてとれる。

加えて、差は大きくないが、医療・福祉環境が充実していないことや、娯楽施設や文化施設の少なさ等のネガティブなイメージを持っている割合も、東北に居住経験がある回答者で高くなっていることも特徴といえる。

⑧ 東北圏への居住経験有無別の首都圏への評価の理由からみた東北圏の強み・弱み

(図表2-32/p.156)

居住経験の有無別で東北圏のイメージに差異がみられたため、他の質問についても東北圏への居住経験の有無別で調べることにした。

居住経験の有無別で首都圏への評価の理由をみたところ、東北圏に居住経験のある回答者では、首都圏の経済環境の良さを評価する割合が、東北圏に居住経験のない回答者に比べ非常に高くなっていった。東北圏と首都圏を比べることができる回答者が東北圏と比べた場合の首都圏の経済環境を評価している可能性があると考えられる。

一方、東北に居住経験のある回答者は、首都圏の住環境の良さや交通の便の良さを評価する割合が低くなっている。東北に居住経験のある回答者は、東北圏における住環境の良さや満員電車の少なさなど東北圏の交通の便の良さを知っているために、首都圏における住環境や交通の便を評価する割合が低い可能性がある。そのため、首都圏に比し東北が住環境や交通の便において優れていないとは必ずしもいえないと考える。

⑨ 東北圏への居住経験有無別の重要度からみた東北圏の強み (図表2-33 ~ 42/pp.157 ~ 159)

東北圏に居住経験がある場合に重要と考える事柄についても変化があるかを調べ、東北圏への居住経験が首都圏での生活における重要度に影響を与えているかについての検討も行った。

まず、東北圏に居住経験のある回答者が、東北圏への居住経験のない回答者に比べ重視している項目として、地域のつながり、地域社会や政治への住民の関心の高さ・行政の住民意向の反映、地元の食材・郷土料理、祭やイベントの4つが挙げられる。これらの項目は、東北圏の満足度が首都圏の満足度を上回っている項目であったため、東北圏の回答者が首都圏に住むようになってからも、東北圏において充実していた事柄を重視する傾向にあると考えられる。

一方、ネット環境、健康維持のための施設・医療施設、教育環境、子育て環境、文化施設、娯楽施設の6項目の重要度も、東北圏に居住経験のある回答者で高くなっているが、こちらは、首都圏の方が満足度が高い項目であり、東北圏で充実していなかったものを首都圏に来て重視するようになった影響と推察される。

この結果から、複数の地域への居住経験は、各地域の様々な良さを知ることにつながり、重視する項目にも影響を与えることがみてとれる。

3 まとめにかえて

(1) 客観的指標とアンケート調査から見える東北圏の強みと課題

このように、当センターでは客観的指標と生活者アンケートを通じて東北圏の現状を観察するとともに、そこから読み取れる点について取り上げてきた。

ここで改めて東北圏の強みと課題について整理し、今後施策の取るべき方向性に向けた資料の提供を行いたい。

① 地域の自然と人が育んだ食材と料理の強み

客観的指標から読み取れたのは、東北圏の農業産出額は北海道、九州に次ぐ高水準である。食料自給率も北海道に次ぎ、3位の北陸を大きく上回っている。

こうした新鮮な食材の宝庫としての評価はアンケート調査からも裏付けられており、「食べものやお酒が美味しい」と評価する在住者の割合が首都圏より高いことに加え、居住地選定の理由にこれを挙げる層が一定数存在している。

したがって、東北の「食」は一般にも良く知られており、多くの層に訴求力のある東北圏の強みとなるのではないかと。

② 住環境が持つ強み

アンケート調査をみると、地域の魅力として重要なものに、両地域とも「住環境」を挙げており、特に首都圏では重視する項目の上位に付けている。また、移住希望者が求める条件でも最も高くなっている。

客観的指標でも、東北は全国で唯一住環境（居住スペース、持ち家率、家賃、通勤時間）の各項目において全国平均以下の項目はなく、大きな優位性があると言える。

さらに、首都圏生活者が抱く東北圏のイメージにおいて、住環境の良さを挙げた居住経験者が未経験者と比べて圧倒的に多く、その実体験に基づく優位性も証明されている。加えて、治安面も「刑法認知件数」は全国で最も少なく、安心して暮らせる地域でもある。

いわば、「住んでよし」の東北を大きく訴求できるのではないかと。

③ 自然環境の強み

東北圏は首都圏と比較して自然環境に優位性があると言われるが、これは客観的指標からみても裏付けられた。例えば北海道に次ぐ広大な自然公園面積である。

また、60歳以上の首都圏からの移住希望者が挙げる東北圏への移住条件をみても、「緑や自然が豊かである」の割合が最も高くなっている。

このような世代に対しては、東北圏の強みである「自然」を打ち出すことにより、一層東北の訴求力を高められるのではないかと。

④ 地域のつながりの強み

東北圏における行祭事の参加者数は全国1位で、行祭事数も北陸に次ぐ水準であり、地域行事や地域活動において強い優位性があると言える。こうした行事は地域の魅力を増すことにつながる。

また、アンケート調査において、移住を検討する場合の困り事として、2番目に「地域のコミュニティに入っていけるかどうか不安がある」が挙げられているが、地域とのつながりや催事への参加のしやすさが優位にある東北は、そのような不安の払しょくにプラスとなる要素がある地域と言えるのではないかと。

⑤ 人口点在地域ならではの課題

一方、東北圏は広大な面積に人口が点在していることもあり、人口規模に応じて集積されるサービスに課題を抱えている。例えば、医療施設数・医師数は平均を下回り、医療・育児面での安心度を訴求できない点に加え、美術館数や1世帯1ヵ月当たり教養・娯楽サービス支出額も低く、生活者ニーズとのギャップも見られる。

しかし、AIやIoTなどの情報通信技術の目覚ましい発展により、生活のあらゆる面での格差を縮小できる可能性もあることから、今後積極的にこうした課題の解決に取り組むことで、「課題解決の先進地」の見地からも、これらのハンディキャップを強みに変えられる可能性も秘めているのではないか。

(2) 強みの再認識・磨き上げによる地域の魅力向上に向けて

今年度の東北圏社会経済白書第Ⅱ部では、人間誰もが求める「幸福」という点に着目し、今後東北圏の移住・定住者の増加をもたらすための材料として主観と客観の双方からデータを収集してきた。その結果、既に述べてきたとおり、東北圏はバランスの取れた地域であり、多くの魅力が存在していることが明らかとなった。

しかし、2017年の住民基本台帳人口移動報告によれば、転出者数から転入者数を引いた転出超過数は、福島県が8,395人と全国でもトップとなったほか、新潟県・青森県も上位5位以内に入るなど全国的にも転出超過の動きが際立っている。市町村ベースで見ても転入超過はわずか20自治体にとどまる。

ここでうかがえる事実は、地域の持つ魅力について、まず地域内に伝えていくことが重要であるということを示しているのではないだろうか。これには雇用に直結する魅力的な産業や企業の存在も含まれてくる。

また、こうした東北の持つ様々な魅力をありのままの姿で伝えていくことも必要であるが、他地域でも積極的に移住・定住に向けた取組みが行われている今日においては、それだけでは強力な「磁力」にはなり得ない。

そこで、地域の持つ強みをさらに磨き上げ、より強固なものにしていくことが求められるが、地域内外において抱える課題が山積する現状では、すべての地域・自治体があらゆる課題に対応することは極めて困難である。加えて、すべての地域が「合格点」を目指すだけでは地域間競争に打ち勝っていくことも難しい。

しかし、個人の価値観が多様化する中においても、各地域が「オンリーワン」となる強みはどの自治体でも必ず存在する。まずはその1点に絞って他の自治体との差別化を図っていく必要があるのではないだろうか。

地域の魅力に惹かれて人々が集い・交流が行われることによってその地域の魅力がさらに高まり、その動きがさらに人を呼ぶというサイクルを構築することが重要である。本書に記した主観・客観的なデータを基に、各自治体をはじめとする関係者の方々の取組みに期待したい。無論、当センターにおいても、本稿で得られた知見・データをさらに分析活用しながら、東北の魅力を訴求できる発信力を強めていく所存である。

むすびに、第Ⅱ部のデータ集約・分析にご尽力頂いた日本経済研究所の皆様にも感謝申し上げ、まとめにかえさせて頂く。

首都圏にとっての東北地方の位置づけについて —ヒト・モノ・カネの関係において—

東北大学大学院経済学研究科
高齢経済社会研究センター センター長・教授 吉田 浩

1. ヒトの側面

ここでは、首都圏（1都3県）にとっての東北地方の位置づけを、主に人口移動の面から評価をする。人口移動に関する統計としては、「住民基本台帳人口移動報告年報」のほか、「国勢調査」が有用である。2015年の国勢調査時点で1都3県に常住する人口は3,562万人あまりである。このうち、もともと1都3県に常住していた人口は2,990万人余りいた。この差は572万人

あまりで、この数が5年間に1都3県に域外から流入した人口である。

このうち、24万人あまりが東北地方からの移動である。すなわち5年の間に、1都3県に流入した人口の4.15%（25人に1名）が東北から流入していることが分かる。このように、東北は首都圏に5年間で20万人以上を送り込んでいる。

表1 首都圏へのヒトの移動

現在の常住地 5年前の常住地		埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	1都3県
		7,194,556	6,216,289	13,159,388	9,048,331	35,618,564
(1都3県に移動前) 東北地方	青森県	5,672	5,102	10,404	7,353	28,531
	岩手県	4,547	4,132	8,791	5,968	23,438
	宮城県	11,824	10,557	21,787	14,059	58,227
	秋田県	3,922	3,605	7,648	4,788	19,963
	山形県	4,120	3,257	7,803	4,934	20,114
	福島県	9,414	6,869	15,400	9,721	41,404
	新潟県	10,359	6,773	17,715	10,508	45,355
	計	49,858	40,295	89,548	57,331	237,032
1都3県	埼玉県	6,257,042	43,197	132,879	41,940	6,475,058
	千葉県	38,018	5,242,057	113,720	45,607	5,439,402
	東京都	169,181	131,999	9,624,495	208,403	10,134,078
	神奈川県	38,958	48,232	191,313	7,574,307	7,852,810
	計	6,503,199	5,465,485	10,062,407	7,870,257	29,901,348

資料：「平成27年国勢調査」（総務省）、（単位：人）

2. モノの側面

都道府県間のモノの移動を知るためには、都道府県間産業連関表を用いるのが便利であるが、最後に作成された産業連関表が2005年であるため、ここでは、これに代わって、2015年、第10回全国貨物純流動調査のデータを用いる。この調査は、全国の鉱業、製造業、卸売業、倉庫業の4産業を対象とした法人間の物流を調査したものである。

この結果（表2）によれば3日間調査で首都圏を着地とする貨物のおよそ3.8%が東北発であることがわかる。総量では3.8%であるが、農水産品に限定すると、比率は6.9%に増加し、食料品の供給地としての東北の位置づけが浮き彫りとなる。

表2 首都圏へのモノの移動

	総数	着都道府県	農水産品	着都道府県
発都道府県		1都3県		1都3県
青森	0.50%	21,130	1.58%	3,834
岩手	0.30%	13,474	1.55%	3,752
宮城	0.80%	34,701	0.48%	1,158
秋田	0.10%	4,568	0.16%	377
山形	0.20%	10,324	1.07%	2,582
福島	0.70%	31,751	0.43%	1,047
新潟	1.20%	52,133	1.13%	2,745
東北計	3.80%	168,081	6.39%	15,496
全国計	100.00%	4,501,185	100.00%	242,379

資料：第10回全国貨物純流動調査（国土交通省）2015年調査（3日間調査 単位：トン）

3. カネの側面

最後に日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金」（国内銀行）＜2016年末値＞を用いて、資金の流れを見てみることにする（表3）。

表3を見ると全国の銀行での総預金は745兆円であり、総貸出は478兆円で、オーバーデポジットである。そこで、745兆円を478兆円に縮小した預金分布を預金（修正）の欄で示した。

この預金（修正）から貸出金を引くと、各地域が資金の供給地となっているのか、資金の消費地となっているのかがわかる。表3を見ると、東北は近畿、中部圏に続いた預金超過地域であり、他の地方に比してもカネの供給地であることがわかる。

表3 地域間のカネの流れ

地域別	預金	預金（修正）	貸出金	預金（修正）－貸出
北海道	156,592	100,535	99,382	1,153
東北計	346,357	222,369	191,055	31,314
関東計	3,785,049	2,430,084	2,659,172	-229,088
北陸計	218,965	140,580	125,188	15,392
中部計	771,484	495,310	401,663	93,647
近畿計	1,153,674	740,684	617,250	123,434
中国計	312,480	200,619	197,181	3,438
四国計	191,897	123,202	116,624	6,578
九州・沖縄計	516,456	331,576	377,444	-45,868
全国計	7,452,958	4,784,962	4,784,962	

資料：日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金」（単位：億円）この表では新潟県は東北に含まれない。

4. まとめ

ここでは、ヒト・モノ・カネの3つの側面から東北地方が首都圏にとってどう位置づけられるのかをみた。いずれの面でも、東北地方は首

都圏の社会経済活動を支える必要なバックヤードとしての位置づけを持っているといえるであろう。

